

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	日本プロテインホスファターゼ研究会、酵母遺伝学フォーラム、日本薬学会、日本薬理学会、日本RNA学会
※	所属していない
※	日本動物学会
※	なし
※	なし
※	日本RNA学会
※	ゲノム微生物学会、酵母遺伝学フォーラム
※	日本研究皮膚科学会 日本人類遺伝学会
※	日本時間生物学会
※	日本霊長類学会、日本人類学会
※	なし
※	所属していない
※	日本生物工学学会
※	日本人類遺伝学会
※	日本薬学会
※	日本内科学会、糖尿病学会、内分泌学会
※	なし
※	日本物理学会
※	ウイルス学会
※	なし
※	日本進化学会、日本バイオインフォマティクス学会
※	日本薬理学会
※	日本放射線影響学会
※	日本化学会、日本眼科学会
※	日本放射線影響学会日本放射線生物研究会
※	微生物生態学会
※	日本化学会
※	日本薬学会
※	日本再生医療学会
※	日本植物学会
※	日本RNA学会
※	日本神経回路学会、人工知能学会
※	日本家禽学会
※	China
※	染色体学会、日本再生医療学会
※	日本ウイルス学会、日本進化学会
※	糖尿病学会
※	日本内分泌学会米国内分泌学会
※	生物工学学会酵母遺伝学フォーラム
※	日本生物工学学会
※	日本輸血細胞治療学会
※	日本薬学会AAAS
※	日本がん転移学会
※	日本RNA学会
※	無し
※	なし
※	日本ウイルス学会
※	日本時間生物学会
※	日本筋学会
※	日本組織培養学会、日本再生医療学会、日本基礎老化学会
※	日本エピジェネティクス研究会、日本進化学会
※	筋学会、日本内分泌学会
※	ISSCR、ASBMR、日本整形外科学会、日本手外科学会
※	日本植物学会
※	日本蚕糸学会、日本応用動物昆虫学会
※	日本救急医学会、日本内科学会、日本外科学会、日本運動生理学会、日本体力学会に所属しています。
※	未所属
※	比較内分泌学会
※	植物バイオテクノロジー学会、生物工学学会、園芸学会
※	無所属
※	日本アレルギー学会 日本実験動物学会
※	学部3年のためまだどこにも所属していません。
※	日本再生医療学会日本肝臓学会肝細胞研究会
※	なし
※	日本循環器学会
※	日本ケミカルバイオロジー学会
※	日本進化学会、日本霊長類学会

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	日本蛋白質科学会
※	日本宇宙生物科学会、日本栄養・食糧学会
※	日本再生医療学会
※	日本解剖学会、日本動物学会
※	日本植物学会
※	日本酸化ストレス学会、日本アミノ酸学会
※	日本薬学会
※	動物学会
※	日本栄養食糧学会、日本食生活学会
※	血管生物医学学会
※	日本薬学会
※	日本ケミカルバイオロジー学会日本ウイルス学会
※	日本衛生動物学会
※	英国発生生物学会
※	日本放射線影響学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本寄生虫学会、日本熱帯医学会
※	がん免疫学会
※	日本進化学会
※	日本蛋白質科学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本血管生物医学学会、日本リンパ学会
※	寄生虫学会、熱帯医学会、生体防御学会、
※	RNA学会、ウイルス学会
※	日本薬学会AAAS
※	日本薬学会
※	日本RNA学会
※	神経化学学会
※	日本RNA学会
※	日本植物学会
※	日本育種学会
※	日本筋学会
※	日本血液学会、日本病理学会
※	日本霊長類学会
※	日本肝臓学会
※	日本味と匂学会、日本生物工学会
※	エピジェネティクス研究会
※	日本動物学会
※	日本血液学会
※	日本Cell Death学会
※	日本認知症学会、日本生理学会
※	日本エピジェネティクス研究会、日本蛋白質科学会
※	日本動物学会
※	日本エピジェネティクス研究会日本蛋白質科学会
※	日本血管生物医学学会
※	日本血管生物医学学会、日本動脈硬化学会
※	日本バイオインフォマティクス学会日本物理学会
※	酵母遺伝学フォーラム
※	日本放射線影響学会、日本基礎老化学会
※	D-アミノ酸学会
※	日本未病学会
※	日本糖尿病学会、日本実験動物学会
※	日本腎臓学会
※	日本細菌学会日本栄養改善学会
※	日本動物学会
※	日本ウイルス学会
※	酵母遺伝学フォーラム
※	薬学会、薬理学会
※	日本RNA学会
※	日本体力医学会、日本臨床スポーツ医学会、日本体育学会
※	日本薬学会
※	日本組織培養学会、日本薬学会、日本薬剤師会、日本再生医療学会、日本がん分子標的治療学会
※	ウイルス学会
※	霊長類学会
※	日本蛋白質科学会
※	人工知能学会
※	日本生物工学会

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	Chemical Society of Japan
※	蛋白質科学会
※	日本植物学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本人類遺伝学会
※	日本放射線影響学会、米国Radiation Research Society
※	日本実験動物学会
※	日本エピジェネティクス研究会
※	血管生物医学会
※	日本内科学会、日本循環器学会
※	日本血液学会
※	日本畜産学会
※	日本リスク学会
※	日本薬学会、がん治療学会
※	日本生理学会
※	日本動物学会
※	日本動物学会
※	無回答
※	核磁気共鳴学会、日本RNA学会
※	日本蛋白質科学会、日本結晶学会
※	脂質生化学会
※	日本整形外科学会 日本生理学会
※	日本細菌学会
※	再生医療学会
※	日本病態プロテアーゼ学会
※	日本ミトコンドリア学会
※	日本実験動物学会、日本ゲノム編集学会
※	日本育種学会
※	日本再生医療学会
※	日本RNA学会、日本進化学会
※	日本実験動物学会、日本薬学会
※	日本実験動物学会
※	日本筋学会
※	日本化学会、日本蛋白質科学会
※	日本蛋白質科学会
※	Society for Neuroscience
※	バイオインフォマティクス学会
※	日本ゲノム微生物学会
※	日本神経化学会
※	日本化学会
※	日本ウイルス学会
※	日本バイオインフォマティクス学会、日本進化学会
※	所属はしていないが、大会に参加している。
※	日本生態学会、日本進化学会
※	日本エピジェネティクス研究会、日本繁殖生物学会
※	日本蛋白質科学会
※	日本基礎老化学会、日本老年学会、日本未病システム学会、日本栄養・食糧学会
※	日本繁殖生物学会、日本受精着床学会
※	日本進化学会、日本ゲノム微生物学会
※	臨床検査医学会
※	日本筋学会
※	日本エピジェネティクス研究会
※	日本人類遺伝学会日本耳科学会
※	日本実験動物学会
※	極限環境生物学会
※	日本応用動物昆虫学会日本動物学会
※	染色体学会、日本人類遺伝学会、日本再生医療学会、日本エピジェネティクス研究会
※	日本血管生物医学会
※	日本蛋白質科学会
※	日本生物工学会、日本動物遺伝育種学会、日本ゲノム編集学会、

質問5-2. シンポジウムについて <複数回答可> (テーマが偏っている)

回答者番号	テーマが偏っている記述
※	もう少し裾野を広げた方が良い
※	SARS-CoV-2のシンポジウムとか用意できなかったのか？
※	偏っているとは思わないが、テーマの幅が乏しいと感じた。もっと幅広い分野からの積極的な企画提案が望まれる。海外の大物のプレナリーレクチャーをもっと聞きたかったが、なくて残念だった。
※	いつも同じメンバーが講演している印象。
※	もう少し植物の話題があると毎回、参加したいと思える。
※	ワークショップとシンポジウムの違いを感じない。発表済みの大きな仕事か、on goingのポテンシャルのある仕事かをコンセプトとして揃えるか、あるいは敢えて色々ありなのか発表済みの仕事は、基本的にすべて後で視聴できるようにしていただけるとありがたいです。
※	偏っているというより、テーマが specific すぎる印象でした。
※	もっと偏らないとただの一般受け(普遍性でなく)発表で終わってしまう
※	女性、と銘打ったセッションはいらないのでは？
※	内容が(事実上)重複するものが多い。
※	同じラボから別のシンポ・ワークショップへの演題が散見された。参加者が激減した一因と思われる。いろんなところに何度も出てくるオーガナイザーがいる。偏っている証拠。
※	医学系が多くなった。
※	「シンポジウム・ワークショップ共通の意見」流行ではあるものの、全体的にRNA関連やLLPS関連のセッションが多かった
※	今年はCOVID19が流行した年なので、もっとたくさん、関連した演題が欲しかった。情報収集や興味の両方で、かなり物足りない学会と思えた。
※	偏っているというよりも、満遍なさすぎる。多彩だけどいつも同じような分野で、ワークショップとの違いもあまり見えないし、新しい科学の芽吹き、息吹を感じられるような企画もあまりない。もっとテーマを絞って各自の研究紹介の場にすることでなく、その分野の先端的な内容をエキスパートが討論することで、今後の展望が見えてくるような本当のシンポジウムの企画
※	あまり例年ほど、面白くなかった
※	例年と比較してワークショップやシンポジウムの数が少ないように感じました(現場に行かずにオンラインで見たためそう感じただけかもしれません)。
※	テーマはともかく、京大ばかり
※	サテライトシンポジウムが非常によかった。このアンケートでは無視されているようですが。
※	今回は興味が湧くテーマが多くはなかった。
※	全体を俯瞰していないので、回答不可。
※	例年に比べて、聞きたいと思うシンポジウムが少なかったように思います(特に初日)。
※	シンポジウムオーガナイザーの方を京都大学の先生方に限るのはいかがなものかと思いました

質問5-8. シンポジウムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	言語を全英語にするのであれば海外からの講演者・参加者をもっと増やすよう努力すべきであるが、欧米からのオンライン参加は時差があり難しい。また、ワークショップの締め切りが1月であったので入念な招待者の準備は難しいと感じる。使用言語を含め学会の方向性を改めて検討した方がよいと思われる。
※	web環境等の違いによって、音声が届きにくいケースがいくつか見受けられた
※	質問しても、チェアが気づいてくれないことがある。
※	海外から招待する場合は、時差等を考慮した時間設定にすべきだ。
※	匿名で質問がしたかったです。
※	音質が一定にならない。演者によってはマイクから遠くで喋っており、聞き取り辛かった。
※	プレゼンターの発表が長いと質疑の時間が相対的に短くなるが、Q&Aに質問をタイピングしているうちにタイムアップしてしまうことが何度もあった。そのあとに“Meet the Speakers”へ行っても質問しづらかった。
※	書き込もうと考えている間に、時間が過ぎてしまう。
※	チャットによる質問内容をリアルタイムで見れるようにしてほしい。
※	私は今、学位取得後のポストドクの行き先を考える時期で、海外も考えていたため、海外からの講演者がより多くいらっしやうの方が良かったのですが、移動ができない中で時差を考えると、難しかったのだと思います。
※	通信トラブルが発生した場合の事後処理と対応についても、一般参加者にも伝えていただいた方が良いと思う。事故事例を今後にも生かした方がよい。
※	英語発表のため、演者によっては理解が難しい場合がある。
※	オンデマンド配信を全員に求めて、標準にしてほしい。ワークショップの演題は印刷して欲しかった。
※	昨日の18:30からの〇〇〇での〇〇〇先生(?)でしょうか、時間を守らず、お粗末で独善的なプレゼンテーションには、観ている方も辟易しました。今後、こういった先生に講演させないようにして戴きたいものです。
※	英語のプレゼンをしなくてはならないのなら、海外からのシンポジストを増やした方がよい。なんのために不自由な英語で話しているのかわからない。プレゼンを聞きながら、質問を英語で書き込むのはなかなか難しい。口頭で質問したいと感じ一部にしか参加しておらず適切なコメントができませんが、全てのオンライン会議に共通なのは、参加者に対して質問者が非常に少ないように思う。
※	シンポジウムは1つしか参加しなかったので意見なし。
※	多数のポスターをオンラインで聞くのは大変だった。
※	質疑をチャットで行くと臨場感が足りない感じがしました。できれば聴衆からも直接マイクで質問できるような方がよいと思います。
※	オンラインで招待旅費が浮くので、その分、たくさん呼べるのでは？
※	同時発表の複数の演題に興味があることも多いので、後でオンデマンド視聴できるのは大変有難いです。
※	海外からの発表は、時差がある為、録画で十分であり、その方が多くの海外シンポジストの参加が期待できる。
※	終わった後の個別ルームは制度としては良いものの、スケジュールがかなりタイトなため、入りにくいと思いました。
※	シンポジウム、ワークショップ、フォーラムについてはオンラインの方がむしろよい。・スライドが見やすい。・音声が聞きやすい。・座席の空きや位置を気にしなくてよい。・別な講演を聞きに行くために講演途中で部屋を移ることが容易。シンポジウム、ワークショップともに講演が連続して長すぎる。ひとかたまりを50から70分くらいにして間に休憩を入れるべき。
※	Q&Aでの質問の他に、聴衆同士で反応を共有できるようなchatのページがあると良いと思いました。Q&Aへ質問が投稿された際、座長が[Liveで応答]をクリックするまで他の参加者には質問が見えないのですが、質問が先に出ていると参加者の投稿のハードルが大きくなるので、活発な議論のために質問をすぐに見えるようにしておくのと良いと思います。
※	参加者の英語力を上げないと、海外からの参加者を増やしていくのが難しいと感じましたので、それに対応していかないといけないと思います。
※	チャットで質問は、打ち込み速度と打ち損じて難しいと感じました。
※	聞き逃した演題をオンデマンド配信で閲覧できてよかった。
※	オーガナイザーがQAの質問を読み上げることになっていましたが、オーガナイザーが読み上げる英語を理解するのが難しかった。QAに書かれている内容を理解しながら読み上げることになるので、オーガナイザーにとっても難しかったのではないのでしょうか。QAに書き込む側にも、対面で質問する時と異なるスキルが求められているように思いました。
※	質疑応答に関して座長が拾って通訳するという形だが、座長の英語力？依存的であり、きちんとこちらの質問の意図を汲み取っていただけない場合があり、残念でした。
※	質問のテキスト入力には手間がかかり、結果、質問の数が極めて少なかったように思う。パネリストや聴取からの質問は、自動的に全員が閲覧できるよう設定出来た方が良かったように思う。
※	アメリカからの講演者が深夜の時間帯での発表かわいそうだったが、それでも来日せずともライブで講演・質疑応答できるメリットの方が大きいと感じた。
※	ウェビナーのシステムだと、チャットに質問を書き込まなくてはいけないから大変口頭で質問できないのは、特に英語だとやりづらい書いてる間に終わってしまう質疑応答だけでも言語自由にしても良かったと思う
※	参加していない
※	質疑はその後も閲覧、議論できるような仕組みにしてほしい。Cold Spring harbor meetingではSlackチャンネルを解説して交流にも役買っていた。
※	「シンポジウム・ワークショップ共通の意見」オンライン質疑は、質問時間に質問事項をタイプしている間に、座長が「質問はないようなので…」と座長と発表者(または発表者間)で話を始めてしまい、その間に質問が終わることが多々あった。オンライン開催では、セッションの最後にチャットルームとは別に質疑応答の時間を再度用意してもいいと思う。またそのセッションの参加者情報が、座長・発表者以外にも分かるとうれしいと思った。
※	シンポジウムでもワークショップでも同じだが、海外のスピーカーから先端的な話を聞く機会を作るなら、分野ごとに個別に講演会をリモートで視聴する方がもはや良い。今回は緊急対応だったので、既存の分子生物学会をリモートでそのまま実施しようとする試みの意義や大変さもわかるし、よくできていたと思う。ただ、海外ゲストの話を聞く機会と国内でクローズして母国語で異分野の幅広い意見を聞く機会を作ること、どっちを重要視すべきなのか、リモートにあっているのはどちらだったか、今一度、しっかり総括する必要はあると思われる。
※	若い人にとってはオンラインの方が、シンポジウム等の大きな開錠でも緊張せずに質問ができるように感じました。

質問5-8. シンポジウムについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	チャット形式の質問は会場でするよりも気軽に行えてよかったですと思います。会場の移動も楽で、口頭の講演や発表を聞くのはオンラインがよいと思いました。
※	パラレルセッションなので、聴講したくてもできないものが複数あった。
※	視聴者が、発表者に拍手を行える様なシステムがほしかったQ&Aやチャットの更新にタイムラグがあったように思う
※	例年、顔ぶれがマンネリ化している傾向があったが、今回は新鮮さがあった。
※	zoomにおけるオーラル発表が下手な人が多く、目が疲れた。
※	時差が・・・申し訳なかった。
※	Some people faced trouble while connecting during the poster presentation. Also, the webpage details were only available in Japanese which makes it difficult to join some workshops.
※	チャートで質問したときに、お互いに質疑を理解し合っていない、議論もできない場合があった。
※	オンデマンド配信をもっと多くしてほしい
※	オンデマンドの演者をプログラムの前半あるいは後半にまとめて欲しかった。海外からの参加したが、時差の関係で非常につらかった。オンデマンドでない発表が固まっていれば、そこだけ集中して当日に聞くことが可能だが、オンデマンドとそうでない演者が混ざっていると、当日全部聞くことになり、非常につらかった。
※	興味はあったが会議等と重なって聴講できなかった
※	コメントや感想を気軽に書き込める仕組みが欲しかった。いいね！ボタンとかもあっていいのでは。
※	英語のみでの発表、質疑応答では参加者全員にとって十分な理解を得られないのではないかと感じた。
※	参加する余裕がなかったので、回答不可。
※	英語の質疑応答は、ストレスを感じました。
※	オンサイトと比べて、オンラインでの開催に非常に大きなメリットを感じた。オンサイトとは異なり、自分の参加しやすい環境で集中して参加できたことが非常に良かった。また質疑はオンラインの方がオンサイトでの実施よりもハードルが下がり、活発に行われていたように感じた。
※	スピーカーがQ&Aに書き込めないのは物足りなかった。一方で、一般聴衆の質問がQ&Aに書き込むだけだったら、一往復しか応答ができず物足りない。
※	他の学会のオンラインでの年会と比較して、質疑がとても行いやすく、良いシステムだと思った。

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	もう少し裾野を広げた方が良い
※	質問しても、チェアが気づいてくれないことがある。
※	同時に開催するセッション数が多すぎるので期間を4日にしてもっと分散させるべきだと思います。質問時間が短いと思います。参加人数が視聴者にもわかるようにすべきだと思います。
※	聞きたいテーマが同じ時間帯にばかり重なる。一部オンデマンドがあるとはいえ関連テーマは日程を分けてほしい。
※	偏っているとは思わないが、テーマの幅が乏しいと感じた。もっと幅広い分野からの積極的な企画提案が望まれる。せっかくオンライン開催なので、興味のあるトークを多く聴けるように、ワークショップの時間をずらすなどの配慮が明らかに欠如しており、とても残念だった。昼の時間も有効に使えるはず。
※	似ているテーマのワークショップが同じ時間帯にやっていて、残念だった。発表者の場合、片方のワークショップにしきられないので、時間帯をわけるなど配慮をして欲しかった。
※	何人がそのzoomに参加しているのか個人的には知りたかったです。
※	聞きたいセッションが複数あったので、もっとオンデマンドが多いと良いと思った。
※	Q&Aの反映が少し遅く感じた
※	Q&Aを介した質疑には困難があることもあった。Slackなどに連動させてQ&Aのやり取りをセッション後も残して議論を継続させることが良いと思う。
※	1日目の発表時に、残り時間の表示が出なかった
※	部屋の移動が簡単で同時視聴もできてありがたかったです。
※	チャットによる質問内容をリアルタイムで見れるようにしてほしい。
※	質問者の顔が見えないのがやや不満な点ですが、zoom開催の関係上、仕方がないのかも知れません。
※	英語発表のため、演者によっては理解が難しい場合がある。
※	慣れていないヒトが多いので、継続して、作法が成熟するのを待つべきだと思います。
※	・オンデマンド配信がいつからスタートしたのかわからなかった
※	議長によって、聴衆からのQ&A質問を全員が見られる場合と、議長が読み上げるだけの場合があった。質問を全員が見られるようにしてもらったほうが、質問内容が理解しやすかった。
※	質疑に関しては必ずしも双方向性が確保されていないため、議論を膨らませることが困難だと感じた。Q&Aボックスの内容を間接的に司会者が演者に伝えたり、聴衆側の表示にタイムラグがあったりして、質疑の進行にもどかしさを感じた。
※	プレゼンを聞きながら、質問を英語で書き込むのはなかなか難しい。口頭で質問したいと感じた。
※	一部にしか参加しておらず適切なコメントができませんが、全てのオンライン会議に共通なのは、参加者に対して質問者が非常に少ないように思う。
※	オンラインでの発表者とオーガナイザーの不測の事態に対するシミュレーションが足りない。
※	今回オンラインとなり、海外からの参加がほとんどない中で、英語での討論に意味をあまり感じなかった。(ディスカッションが崩壊した事例が散見された)
※	オンラインだと質疑のコミュニケーションは2方向性になりにくいので、オンサイトより難しい。単純な質問でない、的確な答えが得にくい。
※	オンサイトと同じ時間では、オンラインの方が疲れやすく、聞き取りづらかったりするなどもありもう少し細かく休憩時間が欲しかった。
※	ワークショップの発表時間を揃えてほしい
※	同時発表の複数の演題に興味があることも多いので、後でオンデマンド視聴できるのは大変有難いです。
※	オンラインでも、~2時間に一度、15分くらいの休憩時間が必要。また、一演題15分の発表時間はやや短い。最低20分(質疑応答時間除き)必要。
※	糖鎖のワークショップやシンポジウムがあると嬉しい。
※	Q&Aがオーディエンスに見えているのかいないのかが、演者にはわかりにくいのと、演者側が質問を見えるようにするのを忘れがちなので、質問は自動的にオーディエンスにも見えるようにしてほしいと感じた。不適切なものだけを、後からリジェクトできれば、荒らしなどにも対応可能だと思う。
※	シンポジウム、ワークショップ、フォーラムについてはオンラインの方がむしろよい。・スライドが見やすい。・音声が聞きやすい。・座席の空きや位置を気にしなくてよい。・別な講演を聞きに行くために講演途中で部屋を移ることが容易。シンポジウム、ワークショップともに講演が連続して長すぎる。ひとかたまりを50から70分くらいにして間に休憩を入れるべき。
※	参加者の英語力を上げないと、海外からの参加者を増やしていくのが難しいと感じましたので、それに対応していかないといけないと思います。
※	後日配信のあり、なしはワークショップ毎に(できれば基本的にあり)の方が予定が立てやすかった。
※	学術的に何のこだわりも感じない採択されることや国内政治が目的のワークショップが増加中
※	参加してないのでわかりません。
※	ワークショップは日本語言語の方が良いと感じた。
※	座長が質問を読み上げる形式では、質問者の意図が通じないと思う。また、質問に対して演者が答えられているかを、読み上げた座長は理解するのは難しいと思う。また、通常の学会に比べて質問の数が明らかに少ないと感じた。
※	質問のテキスト入力には手間がかかり、結果、質問の数が極めて少なかったように思う。パネリストや聴取からの質問は、自動的に全員が閲覧できるよう設定出来た方が良かったように思う。
※	5時になると参加者が一気に減るような気がしました。少し早めに始めても良いかも知れないと思いました。
※	ウェビナー形式の場合、質問者の顔が見えないのは残念である。リアル学会では、若手研究者が質問に立つことで顔が売れる(存在感が増す)ケースもあるので。
※	机に座った状態で、混雑をきこえずに視聴できるので、集中できました。
※	同上
※	参加していない
※	発表する側としても、聴衆としても、オンラインといえども1セッションの半ばに、5-10分の休憩は必要だと感じた。
※	オンラインでの質疑応答の方が、現地開催に比べテンポがよかったです。文章として伝えるので、質問内容が簡潔になるのかもしれない。これなら演者として質問に答える側になったときありがたいと感じました。
※	質問がやはりしにくい。気軽に聞くことができないので、どうしてもスピーカー同士のやりとりで終始してしまします。

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	シンポジウムと同様、オンラインのプログラムを開くまで、内容がわからず、どのワークショップに行くか探すのに少し困難を感じました。紙面のプログラムに、発表者とタイトルまでは掲載していただければよりよかったですと思います。
※	パラレルセッションなので、聴講したくてもできないものが複数あった。
※	どうしてチャット機能をオフにしたのか理解できない。プラス、参加者名はもちろん、参加人数すら参加者側はわからない(発表側はわかるので、チャットで情報をシェアした)。チャット機能が切られているので、発表していても聞いているのか反応がなく虚しいと発表側からもいわれたし、参加者側もたとえばどよめきのような反応を送ることができない。分子生物学会はもっと議論ができる場だと思ったのに失望。今時の座長はzoomの使い方が慣れていると思うので、そのあたりのコントロールもできると思うのだが。
※	座長の中には座の仕切り方を知らないような人もいた。若い研究者にとって座長の仕事を学ぶ場でもあるので、座長の事前準備も重要だと感じた。
※	zoomにおけるオーラル発表が下手な人が多く、目が疲れた。
※	オンデマンド配信をもっと多くしてほしい
※	英語での質疑応答は、予想に反してオンラインだと難しいように思いました。生物物理学会の時は、結構質問が出ていたのですが、なぜか分子生物学会ではほとんどなかったです。英語で書き込むことが難しいと思う学生さんが多いのでしょうか
※	WS演者として参加しました。海外の演者を招いているにも関わらず、直前の説明等が日本語のみで困惑しました。運営側が各WSで英語で説明することが現実的に難しいのであれば、少なくとも一ヶ所英語での説明を聞ける場所を設けるなどあれば良かったと思います。オーガナイザーからの説明に任せるのであれば海外演者は日本人演者と同じ時間にZoomにアクセスを求めない方が良いと思います。自分にはわからない日本語のやり取りを聞かされるのは海外演者の年会へのコミットメントを損なうのではないかと思います。
※	テキストベースの質問形式だと、十分に意図が伝わらないことがあったので、口頭質問できるようになればさらに活発な議論ができたと思います。
※	興味はあったが会議等と重なってあまり聴講できなかった
※	似たような内容のセッションが同じ時間に開催されていたので、聞き逃しがあった。
※	コメントや感想を気軽に書き込める仕組みが欲しかった。いいね！ボタンとかもあっていいのでは。
※	同上
※	チャットで質問を提出し、座長がpick upするという形態は、気軽に質問でき、予想外に快適でした。
※	オンデマンド配信がもう少し多いと良かった
※	例年のように一般演題からのワークショップのトークへの採択があるほうが良かったですNew Facesをうたう割にはシンポジウムやワークショップのオーガナイザーが知っているひとだけを集めるというある種の排他的な流れになっているのは矛盾しているようにも感じました
※	オンサイトと比べて、オンラインでの開催に非常に大きなメリットを感じた。オンサイトとは異なり、自分の参加しやすい環境で集中して参加できたことが非常に良かった。また質疑はオンラインの方がオンサイトでの実施よりもハードルが下がり、活発に行われていたように感じた。
※	質疑応答は日本語可能とするとチャットから質問しやすと感じた
※	ワークショップは質疑応答を入れて20分程度の発表が多かったと思いますが、発表時間を20分と勘違いされていた発表者やオーガナイザーがいらしたと思います。その後、質疑応答などが続いて時間がかかり、後の方の発表は聞けませんでした
※	ワークショップ後のディスカッションルームで直接話げできたのが良かった
※	他の学会のオンラインでの年会と比較して、質疑がとても行いやすく、良いシステムだと思った。

質問7. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	アップロードしたポスターを見るときに、別ページへ行く必要があり、とても不便。発表者のページからワンクリックでアップロードしたポスターが表示されるようにしてほしい。
※	短い口頭発表になっており、途中参加ですとポスターの全体像も見えず、話にもついていけないという難しさを感じました。また、ポスターのPDFが公開されていますが、ほとんどの場合「保護のため非表示にしています」と表示されアクセスできませんでした。何回か試みているとアクセスできることもございますので、保護のためというよりアクセス障害なのかなと思います
※	説明の途中から入室することも多かったので、質疑応答が難しいと感じた。
※	おそらく参加人数の多さに起因すると思うが回線が不安定になることがたびたびあった。また、ポスターとはいえほぼ口頭発表と同じであり、あまりポスターセッションという感じはしなかった。ポスター発表者にとってはポスターに人を呼び込む方法が少なく、ポスター前を離れることもかなわず、難しい。なおオンライン検索システムは演題をクリックするたびに最初に戻ってしまい使いづらい。昨年までのシステムを活かしてもらえればと思う。
※	ポスターのサイトが見にくい。★の意味がわからなかった。ポスター(PDF)上に番号のない人が多かったので実際にオンライン視聴する際に番号を控えていないとtraceできず二度手間になった。
※	ポスター発表の移動時間がオンラインだとほぼ無いので、聞きたい発表へスムーズにアクセス出来た。が、途中から入った場合に、ポスターの全体像が見られないので、その点がストレスか。
※	オンラインのポスターは通信状況が悪かった。初日のポスター発表の前半では、音声が届かない、画面がフリーズするなどのトラブルがあった。
※	各ZOOM部屋に入っている人数が分かれば、発表を聞きに行く際の参考になると感じた。Spatial Chat等の擬似空間でポスター発表できれば臨場感があると感じた。
※	声を出せない環境下で参加していたので、チャットで質問をしていた。しかしそれに気づいてくれなかった発表者が多かった。事前に告知されていなかったので発表者の心情を思うと、気づいてくれないのは仕方がなかったと思うが、事前にこのような環境で視聴することを想定しておき、運営側が発表者側に告知すべきだったと思う。また欲を言えば、発表者の画面を共有したのではなく、聴衆が自由にポスターやパワーポイントを閲覧できるシステムが良い。(自由に閲覧はできるが、発表者のポインターは表示されている状態)
※	アクセス混雑の問題があった
※	ポスターを見にきた人の名刺交換機能があると便利だと思います。また、発表者は誰が来たかを確認、記録できるシステムがあると便利だと思います。
※	時間外でも質問したりできる方がいい
※	ポスター時間帯にアクセスが集中するのか、ポスターの閲覧に時間がかかった。また、要旨からポスター本体のPDFにアクセスできないのが不便だった。
※	ポスターが自由に見やすければよかった
※	三次元の仮想空間のなかにポスター発表会場を再現してもらいたい。システムは(https://cluster.mu/) やそれに類するものを使用。
※	サーバーダウンしている状態に何度かなって、改善する必要があると感じた。
※	あまり多くを回れないので5分程度のフラッシュトークがあればよいと思いました後、ポスター時間になるとサーバーが重たくなりました。ログインするにも何度か通信エラーとなりログインに失敗することがありました。zoomの設定の問題かもしれませんが、ポスターに参加するときにホストの許可が必要だったので面倒でした。シンポジウムのように許可なし参加でき
※	非常に見にくかった。プレビューを表示するのではなく、テーマ一覧から選択してプレビュー表示した方が見やすかったと思
※	ページ遷移すると「時間外です」のようなメッセージが出てポスターへアクセスできず、非常に戸惑った。もう一度スタートページからアクセスをやり直さないとポスターに行きつけず、不便極まりない。ポスター・セッション・要旨・発表一覧の間を自由に行き来できるようにしてもらいたい。
※	途中からの参加がしにくい。どこが今演者がいるのかわかりにくい。ポスターと発表を同時に開き辛いので、発表の確認などし辛かった。解像度の問題かいくつかデータが見辛かった。
※	視聴者がポスターを自由に見られない(講演者しか縮小拡大を操作できないなど)ことは、困った。
※	混んでて参加できなかった
※	一ページでわかるプログラムが欲しい。共著者が多すぎて、演題が多くてスクロールが大変だった。
※	ポスター発表に関しては、従来のポスター会場の空間的な視認性や移動ができるとう少し、各発表へのアクセスしやすく、プレゼンターとの距離の把握にも役立つのではないかと感じました。zoomで各発表に小部屋を作るだけでなく、そのひとつ前のUIとして、SpatialChatで従来のポスター会場のパネルに各発表者を割り当てたり、GatherTownで会場を移動しつつ、参加者とのコミュニケーションをとれるようにするなどの工夫があってもよいと感じました。
※	ポスターセッションはどこに演者がいてどこが混んでいるのかわからずオンサイトの集会よりも全体の俯瞰性が低いと感じました。見たいポスターと演者を見つけやすく、偶然の出会いを促進できるような形式が望ましいです。REMOのようなものが候補ですが今後の検討課題ですね。
※	ポスタータイトル一覧がPDF等でダウンロード可能であるとよかった。(例年のプログラムのように)もしくは、タイムテーブルで表示されるポスタータイトル一覧からポスターセッションに飛べると良かったかもしれない。
※	Zoomを用いたポスター発表そのものにやりにくさを感じることはなかった。しかし、オンライン要旨システムでの演題検索は自分の研究に関連したものになりがちであるため聴講するポスターが偏ったものになってしまった。なじみのある演題を聴きがちになったり、なじみない演題のzoomには入りにくさがあった。自分を含め、Zoomに誰も入ってこなかったという話をよく耳にしたが、これもポスターとの出会いにくさに起因すると思った。
※	私自身ポスター発表をさせていただきましたが、参加者以外が見えず、新規参加者が急に出現するので戸惑いました。スライドを使って発表したため、途中参加者に対し不親切な説明にだったと感じています。実際、退出される方もいて、結果として1対1では深く議論できましたが、1時間で2~3人しかセッションできませんでした。一方で、会議IDは時間外も使用できたため、時間外のセッション依頼もありました。お互いに時間が合えばセッションできる利点を有効利用するのも手だと感じました。ポスターセッション時間を規定した上で、発表者による、時間外対応可能な意思表示システムがあると、より深い
※	ポスターのサムネイルが少し見づらかったです。一画面に表示されるポスター数が少なくて探すのに時間がかかりました。
※	質問できる人が限られていた。複数でズームに参加できないのか？
※	ポスター発表の全体像が非常に把握しにくい。

質問7. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	現場にいる場合、知り合いではない研究者にも気軽に声をかけることができるが、オンラインの場合知り合いではない個人ページにアクセスするのはハードルが高いように感じた。
※	オンラインでのポスター発表は、ポスターが見やすくかなり良かったのですが、ポスター発表の時間が短く感じました。(1時間に3演題を見るのがやっとでした)
※	アクセスできない時間があり、興味のあるポスターの方の話を十分に聞けなかった。
※	ポスターの検索画面が見にくいので、一画面に表示できる数を増やしてほしい。
※	各ポスターのZoomの部屋に何人今いるのか、が入る前に可視化されればより参加しやすいように思う。
※	抄録を事前に見る時間が不足した。会期前に閲覧できないか！
※	聴衆の数に偏りがあり、ひとりも来なかった演者がいた。
※	オンラインの時間が限られているので、2日間、繰り返すのが良いかと思えます。
※	・PCTトラブルで時間のロスが生じてしまった。・ポスターの表示に時間がかかった
※	オンラインでのポスター発表を初めて聞くことになったので、普段のように色々眺めて歩くようにする方法(流し見機能)に最初は気づけなかった。自分の目的に応じたWebサイトの使い方ができるように、どのような仕様が実装されているのか予め概略を知っておくべきだった。
※	演者がフォーカスしている部分のポスターしか見られないのが良くなかった。Zoom 画面以外に、ポスターの画像を個別に見れるようにした方が良いと思う。
※	ポスターに行く前のwebページがなかなか開かず、しばらくポスターに訪問できなかった。
※	多くの方がppt fileでの説明を好み、ポスターの意味を感じませんでした。偶数奇数で時間を区切るのはとても悪習だと思います。もともとは隣に迷惑をかけるからの偶数奇数ですから、zoomで区切る必要はないと思います。口頭発表の機会は重要ですし、zoomを使うのであればすべて口頭発表にするのも意味があるとおもいました。
※	ポスターの閲覧もしやすく、発表者の話もよく聞こえてオンサイトのポスター発表と比較して非常に回りやすい内容になっていた。ポスターの閲覧だけ、と発表者と会話で別空間になっているところがオンサイトとはまた違った期待しなかった良さだと思った。視聴者のためには非常によかったが、発表者側としてはできれば多くの人と接触したいと思う。予想ではポスターを閲覧している人は山ほどいるが実際にウェブナーに入ってくる人はわずか、という感じがするので、それでもポスター閲覧者のリストとか人数くらいがわかれば励みになるかもしれないと思った。演者にもメリットがないと続かないと思う。
※	初日のポスター発表開始直後は、サーバーが重すぎてまともにプログラムを表示、zoomにアクセスができなかったため、以後ポスターセッションは発表時間には見なかった。
※	ポスターを読むのが大変だった。現地でポスターを眺めるようにポスターを見れるようにしてもらえれば助かります。
※	良いメント悪い面、両方あるので何とも言えない。参加者が少ないと1:1になり、なかなか抜けにくい。チラ見しにくい。参加者が多いと質問するタイミングが難しい。時間内に見ることができるポスターが少なくなった。
※	時間外でのディスカッションができなかったのが残念(おそらくSpeakerがログアウト)ウェブプログラム上で要旨からポスター閲覧へのリンクがあると便利だったと思う。(いちいち探しに行かなくてはいけなかった)
※	ポスターの詳細を見たあと戻った際にリセットされてしまうのは困る。タブで新たに開けるようにしてほしい。
※	ポスターの要旨やポスター一覧を閲覧するページからZoomに直接飛べないのが不便に感じました。またブックマーク一覧画面からセッションのページに飛べないのも不便に感じました。
※	発表時に聞いている方の様子が分からないため、話すペースやどこをどれくらい説明するかがつかみにくかった。発表を聞くときに、何人の方がそのポスターにいるかわからない。また、zoomという一つの個室に入ってしまうので、あまり気軽に話しかけるのが難しいと感じた。
※	Zoomで入ってみて、議論が白熱していると、しばらく待たないといけなくて、それはon-siteでも同じだけど、遠目に様子を見ながら、周りのポスターを見たりできるけど、zoomだとタイミングが、まあ仕方ないことですが、その辺のタイミングが難しく感じました。概ね良好にコミュニケーションとれました。
※	スライドを共有している人とポスターをPDFで共有している人といったが、ポスターだと他のデータなども表示されているので、比較的オンサイトに近い状態で聞けたが、図一つ一つが小さく見えづらい。逆にスライドだと途中から入ると最初に戻るまでの時間が分からずしばらくそこにいることになるので、やや時間が勿体ない気がした。ただ、おおよそ20分前後で質疑応答込みで説明が1周りしていた印象だったので、全部説明を聞こうとすると1日に6ポスターしか見られずあらかじめ要旨をかなりみて厳選しないといけないと思った。
※	オンラインの特徴が良いかされていと思います。欲を言えば、抄録のページからポスターにも直接リンクしてあるとよかったです。また、普段のポスターでは出来ないこととして、誰がポスターのリンクをクリックしたかや何人ぐらいがクリックしたかなどが発表者側が確認できると興味を持っている人の傾向が分かってよいかと思いました。
※	zoomで繋がっていない時にも、発表者あてに質問・コメントを残せるとより良い。
※	ポスターpdfを開けない演題が幾つかありました。特定の研究室のようですが、大変不公平感を感じました。わざとuploadしていないのか、それともHPの不備なのか判断が付きません。ポスター発表前にあらかじめ予習しておきたいのに非常によくないです。学会終了後でもポスター公開期間中に是非改善していただきたいです。
※	オンラインでのトークは、質疑応答が難しいこと意外は問題なく行えると思うが、ポスターセッションはかなり難しいと感じた。ポスターを閲覧している人がいるかどうか、リアルタイムでわかるような仕組みがあるとベターだと思った。
※	ポスターを貼り出さず、ZOOMで演者が公開する形式は盗用防止に一定の効果はあると感じた。一方、long talkの演者もおり、エッセンスだけを聞いたりその結果だけを把握して議論したいときに冗長であることも多かった。ただ、ポスターそのものを閲覧できるシステムも考えてほしいと思った。
※	実際にはA0ポスターの形式である必要はなかったと思う。zoomを使用するので、普通のスライドを示してもらった方がわかりやすかったと感じた。
※	詳しく聞きたかったが不在?開かれていなかったところがあった。
※	ポスター発表の演題と要旨の一覧が無く、発表会場を全てのぞいていくことは難しかったので、発表を確認することができなかった。どこかに演題の一覧くらいはあったのかもしれないが、事務局に問い合わせても回答がなかった。
※	ポスターの投稿先が細分化されすぎており、気になるポスターを探しづらい。投稿されたポスターを数秒毎にランダムに表示するような機能があれば、ポスターのザッピングができて良いと思う。

質問7. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスターセッションはオンラインではやりずらかった。・Zoomで途中から入ると話が分からない。・現実のポスターと違い、そのポスターが込んでいるかが事前に分からない。・ポスターなのに、口頭発表のごとく初めから15分かけて説明されると他を見る時間がない。・いくつものポスターを眺めて歩くようなことがやりづらい。・BookMarkからポスターのZoomには行けたが、PDFには行けなかった。結局TimeTableのポスターのところから見るので面倒だった。・ポスターの一覧性が悪い。目次のページがどれも使いにくかった。
※	ポスターの縮小一覧画面にもっとたくさん(6つくらい?)のポスターが載るようにレイアウトして欲しかった。要旨の画面からもポスター詳細やzoomに直接リンクするようにして欲しかった。要旨の画面にも戻るボタンをつけて欲しかった。(ブラウザの戻るボタンでは、1日目のポスターの分類の画面に行ってしまうので…)
※	初日のポスターセッションの開始と共にサイトにアクセスできなくなり、奇数番号のポスターをほとんど訪問できませんでした。お気に入りに入れたポスターのリンクだけを予めまとめてDLしておく機能があれば良かったかと思えます。発表時間以外にもポスターが見られるのはとても良いと思えました。入室してみないと人がどのくらいいるかわからないので、入ってみたら既に議論が始まっていて他へ移動する、ということが何度もありました。話している人の数の見えるspatialchatやgather.townのほうが良かったのではないかと思います。
※	ポスターでRemoを使う方が良かったかもしれない。
※	ポスターセッション、とても良さそうでしたが、時間的に訪ねられませんでした。スママセン。
※	目的の演題のみを数題聴くだけになってしまい、オンサイトなら可能な他の演題をなんとなく探すということができなかった
※	工学系の学会は査読付きブローディングによって、発表の質やプライオリティーを維持する。生物系の学会発表はほぼ査読なしのアブストのみ。それでオンラインポスター発表は相互理解やプライオリティー維持の観点で厳しい。
※	オンラインでのポスター発表は無理がある。エスタブリッシュされた研究者は良いだろうが、学生が気軽に質問できるものではない。
※	人気のあるポスターでは、ずっと待っていないと途中からしか話を聞けない点が問題であるが、それ以外は、on lineの方が見やすいし、分かりやすいように感じた。
※	ふと興味の湧いたポスター発表に入って行くのは、すぐに退出しづらいので困る。対面の発表ならば、ポイントだけ聞いたら周りの様子を見て、他の人が聞いていれば容易にその場を立ち去れる。結果的に、時間内で見るポスター数が少なくな
※	予め録音した簡単な解説(5分以内)が聞けるといいかもしれない。
※	それぞれのポスターに何名参加しているのか情報があると良い。
※	ポスターを流し見るのが困難zoomでの発表形式は良いと思いますが、webがあまり良くなかった目的のポスターまでたどり着くのが煩雑もう少し単純化して欲しい
※	・自分のポスター発表の時、チャット可能なことを忘れており、チャットの記録に後で気づいて結局やりとりできなかった。・ポスタープログラムから興味あるテーマのポスターを探すのが難しかった。流し見るには小さかったので、拡大縮小が必要だった。・ポスタールームに入ると、少ない人数で、特に一対一となったとき発表を聞いて質疑応答するため、時間が長くなってしまい、ポスターをいくつも見ることは難しかった。・ポスタールームに入る前にポスター発表に訪問している人数がわかると良いと思った。・オンラインでのポスター発表は難しく感じた。
※	オンラインでポスター発表をする場合は、通常のポスターは使わず口頭発表と同じ様にスライドにした方がみやすいと思う。オンラインでは自分でみたいところが自由にポスターをみえれないため、すぐストレスが溜まる印象を受けた。
※	オンラインではポスターを見に来る人が少ないように感じた。少ないが故に、ゆっくりと説明を聞いたり、質問することができてよかった。
※	発表者の外部のノイズが大きく聞きづらい時がありました。(多分、複数人が同時に発表しているためだと思います)但し、通常の大きな会場での発表と比べて、対面で話が出るのは良かったと思います。
※	参加していない
※	演者がパスワード設定してミーティングルームに入れなかったり(設定ミス?)、聴衆の数がミーティングルームに入るまでは分からないので、そのあたりはオンラインでのポスター発表の欠点だったと思う。その他は概ねよかった。
※	みなかった。演題の検索、一覧が見にくいいため、見ようと思わなかった。オンラインでのポスターはかなり難しさを感じた。
※	参加していない
※	今回の方式ではアクセスした時点で密にディスカッションを始めることになり、時間が足りずに十分なポスター発表を見ることができなかった。
※	対象の研究領域が1日にまとまっており、特にオンラインだと複数の発表を聞くことが難しいと感じました。オンサイトと違い、研究領域を1箇所にとめる必要性が低いと思うので、3日に渡って均等に配置してもいいと思いました。
※	ポスターのzoomルーム内に発表者が要るのか、また、どれくらい混んでいるのかが「外」から分らず、いちいちzoomにログインしなおさないと分からないのは不便すぎだ。それをログインしなくても分かるように表示すべき
※	対面の場合、通りすがりで興味あるポスターが見つけれそして質問ができるが、オンラインだとつなぐのも考慮してしまう。ただし、オンラインだからこそ掲示板などで質問がしやすい環境にあるとも感じた。オンライン故、本当に興味ある人だけがポスターを見に来ると思った。その分、対面時よりポスターに訪れる人は少ない。
※	ポスターのサイトが使いにくかった。空いているスペースがあるので、利用すると良かったかもしれない。何人視聴しているかがわかると良いかもしれない。アブストラクトの下にポスターを載せると良かったかもしれない。
※	検索してbookmarkした演題からはポスターのPDFが見られなかった。プログラムからたどっていくとポスターのPDFが見られたが、やはり検索して選んだ演題からPDFが見られなかったのが不便だった。
※	例年のポスター発表とは異なり、ポスターの一部を映し出す形式だったため途中から入ってきた人がどこを説明しているかを掴みにくく、説明が入ってきた人の数だけしなければならなかった。加えて質問がたくさん出ると、なかなか時間が足りな
※	一覧がもう少し見やすくなればと思います全体像が3枚ずつしか表示できないのは探すときに不便でした
※	・ポスター発表者が設定するzoomが複数人パスワードを設定しており入室できないことがあった。その辺りの設定方法などマニュアルなどを通して徹底して欲しかった。・ポスター発表の奇数番号偶数番号の発表時間とfacebookでのお知らせが逆転していた時があり、混乱した。
※	これまでの学会でよくあった、「人ばかりでポスターが見えない、説明が聞こえない」という、問題が解消された。
※	ポスターにお客さんが何人いるか、アクセスする前にわかった方が、訪問するポスターの順番を調整しやすいと感じた。ポスター発表の説明は、5分程度にしてもらいたい。奇数、偶数、一時間ずつじゃなくて、30分(or 40分程度)ずつにして、交互に2ラウンドするのも良いかも。

質問7. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	対面のように見て回って、たまたま面白い発表を見つけることが楽しみだったが、オンラインだとそれは難しかった。
※	一回zoomで入ってしまうと、面白くなくても退出しにくいので、あまり数を見るのが出来ませんでした。見て回れる工夫がもう一つあると良いと感じました。
※	誰も質問に来てくれなかった。そのため、つながっているのか不安になった。
※	議論することを決めていたポスターに関しては、しっかりと議論できたが、会場を歩きながら流し見することができないので、思わぬ出会いが生まれにくい。
※	興味のある内容について、周りを気にせずじっくり見るのが出来た点は良かったと思う。発表内容についてもう少し詳しい分類や説明があると良かった。サムネイルやポスターPDFファイルが、かなり小さく表示されるため、ノートPCの画面では拡大しなければわからなかった。
※	zoom meeting roomに入る前に、他の質問者対応中かどうか、参加人数がどの程度いるのかわかると良かった。
※	プログラム検索でヒットしても、そこから直接ポスターに移動出来ないことに非常にストレスを感じた。
※	ポスター発表の時間に発表者が待っていても誰も来ないので、発表時間をわざわざ設けるよりは、オンライン上で質問する機能をもっと充実させた方がいいのではないかと感じました。また、スライドなりポスターPDFを使ってZoomで話すなら、通常の発表とあまり変わらないと思いました。
※	・身分を明かさない人が多かった・同じ分野の人が、同じ日の時間帯にかたまりすぎのように感じた
※	対面開催の時はポスター全体を常に見渡せるが、オンラインではやや口頭発表と近い状態になるので、内容が多いと全体の把握が難しかった。
※	ポスターの用意に割いた時間だけのメリットが感じられなかった。オンラインで行うのであれば、ポスターという形式ではなく、短時間でプレゼン大会のようなものが良いと感じた。
※	ふらふら歩いて気になったものに立ち寄りというのが出来ないのは残念
※	参加していない
※	オンサイトだとポスターの前に人だかりができていてよく見えない・聞こえないという問題があったが、オンラインだとそれが解消されて見やすくなった。
※	一枚絵で概要を観られるとわかりやすくよい(画面スクロールは演者しかコントロールできないので)
※	歩き回らずとも、いつでもポスターを見ることができたのは非常に良かった。しかしポスター発表時間の際には、HPへのアクセスが非常にしにくかった、アクセス数が多くても対応できるようにしてほしい。
※	zoomの中の様子がわからないのが困った。すぐ発表を聞ける状態なのか、待たないといけないのか。発表する側としてもどんな人が入ってくるかわからない不安があった。zoom内にいる人数を表示するシステムか、中の人自由の外に発信できる掲示板のようなものがあるといい。「今空いてます！」など
※	散歩をしている途中に、思いのほか、興味あるポスターに出会うということが出来ず、それに関しては、寂しいと思った。
※	ポスター発表をしようと思っていたのですが、オンライン版だと長時間PDFを掲示しなければならず、データを持ち去られる可能性があるため、年会での発表を見合わせました。
※	画像共有中はチャットが見れなかったため、音声が出せない方に来ていただいた場合の意思疎通が難しかった。
※	ポスター発表会場のルームを個人で設定する手順がよくわからなかったため、運営側で準備してもらった方がよかった。また、発表に関する質問をやり取りする掲示板があったようだが、ページのデザインが悪く、誰も存在に気付くことがないのではないかと感じた。問題なくアクセスできる環境が整わなければ、ポスター発表は無駄な時間を過ごすことになると感じた。
※	今後もZoomと併用できると良いかもしれない。たまに不在のまままで終わる方もいるので良かった。
※	会場の制約が無いのだから、もっと時間に余裕をもたせてほしい。会期中二回発表の時間を設定してもいいかもしれない。特に、オンラインだとポスターを探す手間はオンラインのほうが時間がかかる。見に行けたポスター発表が多くなかった。全ポスターの一覧と、そこから別ウィンドウでポスターを開けるようなアクセスしやすいシステムを作りたい。
※	カメラ非表示にする質問者が見られ、質問者の表情が少し読み取りにくくなっていました。可能な限りカメラ表示をオンにするように積極的に働きかけていただけると幸いです。
※	オンラインでのポスターセッションの場合、ポスターをざっと見て回ることができない。そのため、その場で気になったポスターの話聞きに行く、というようなことが難しい。縮小ポスターだけでなくグラフィカルアブストラクトのようなものを一覧できるとよいのではないかと。
※	要旨から、あるいはポスター番号からポスターに飛べなかったのは非常に不便だった。検索機能をもっと充実させて欲しい。
※	見知らぬ人のポスターのZoomに入るのはやや抵抗があった。知らない人とZoomで対面になるのは、特に女性は抵抗がある気がする。Zoomに入る前に、何人入室しているか分かるとうれしいと思った。
※	ポスターセッションが、かなりやりにくいと感じました。まずはwebのページ。どんな発表があるかかなりわかりにくかったです。jpegのサムネイル、意味ありません。また、人が多くいる場所、そうでない場所など、全くわかりません。学会会場では、通行しながら聞きに行く形ができるのがポスターのいいところですが、その良さが全くありませんでした。とにかくシステムの悪さばかりが目立つ、ポスター発表会でした。非常に残念です。来年もこのシステムなら、学会に参加しないかもしれま
※	Zoomの外から各部屋の参加人数がわからないのが不便だった。誰が聞きに来たか、自動で記録してほしい。
※	一部のポスターにおいて、Zoomのリンクが適切でなかったようで、発表を聞くことができなかった。
※	ポスターをちらっとみて、要点だけおさえて次のポスターにいくということができない。どうしても一つのポスターに15分近くの時間をとられます。限られた時間内において、ポスターの内容をざっと閲覧できるようにしてほしい。
※	Zoomに入室してからでない、発表者がどのような人なのかかわからない(年配の方なのか、学生なのかなど)ので、リアルのポスター発表よりも聞くのに勇気がいる。顔写真とか、職種などを掲示していれば少しは違うかもしれないと思った。あと、現在会議に何人が参加しているのかもわかればよりよいと思った。
※	ポスターはそもそも著者名やキーワードによる要旨集の検索からポスターそのものに飛べず、ポスター番号を調べてそれを使って検索して、そのポスターの列に移動してから何度も横にクリックしていったどり着かないといけず、一度も組織委員がテストしていないのではないかと感じる酷いUIだった。
※	リモートでいつでもポスターは見られるので、紹介動画も完全オンデマンドにした方がよかったが、発表者全員が紹介動画を作ってくれるとは限らないので、次善の策としてこうなったのかと思うので仕方ない。
※	オンラインになったことで参加者が少なくなったように感じた。議論する人数が減ったので、セッションの時間を長くして参加者が増えるようにした方がよいのではないのでしょうか。

質問7. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	同日、同時刻に自分と同じ分野の発表があり(似たようなテーマがまとめてあるので仕方ないが)、そのポスターの質問をすることができなかった。(自身がZOOMに繋げている状態だと、他の人のZOOMに参加できない。例年だと、自分のところに質問者がいない時を見計らって、質問に行く。同じ分野なだけにより有益な議論ができる。)
※	システムの難しいかもしれませんが、ポスターの混雑状況や進行状況・さらにプレゼンターの在席をプレビューできるとありがたいです。
※	プログラムが非常に見にくかったです。例年であれば印刷された冊子にすべての演題が書かれているので、ざっと全体を見て、興味のあるものをピックアップしやすかったのですが、今回そういった冊子やタイトルが一覧になっているようなものがなかったので、興味のある演題を見つけるのが非常に難しかったです。例年のように一覧になっていると、普段は頭にないような演題でも「こんな内容もあるのか」とパッと見て分かったのですが・・・
※	私の発表を誰も見にこなかった。オンサイトならこんなことはないはずだ。他の発表でも、誰もいない状態というのが多々あったようだ。
※	画面が撮影できる等の情報セキュリティン問題がある。当研究室からの発表演題についても一部情報の制限を加えた。未発表の演題について、ディスカッションすることが困難と思われる。
※	ポスターはリアルな会場の方が、一覧性に優れているとは思いましたが、オンラインでもサムネイルなどよく工夫されていたと思いました。いつもよりも、ピンポイントに検索してそれを見に行くという方法になり、思いがけずいい発表に巡り会うというは少なかつたと思います。
※	Zoomを利用したものと、発表者によってアカウント差(有料・無料)があつて、議論中にZoom meetingが切れることが度々あつた。
※	対面であればポスターセッションの時間の終了が周りの動きをみてわかるが、オンラインだとアナウンスがないため気が付くと時間が過ぎて次のワークショップがすでに始まっているということがあつた。なので、技術的に難しいかもしれないが、またオンラインで行うときは時間になれば字幕で終了を知ることができると助かる。
※	ポスター発表のために2つのzoom URLを提出しましたが、特に記載が無かつたため先に提出したものが本番用だろうと思ひ、当日は予備のURLで30分ほど待機してしまいました(参加者の方からDMが来て、別のURLだと気づきました)。そのため実際に発表できたのは20分弱でとても残念な思いをしました。どちらが予備かわかるようなシステムを作ってほしいと思ふ。
※	通常のポスターに比べて割り込んで議論に加わるのが難かつたとの参加者の声があつた。発表する側も、目配りが必要だつたかもしれない。
※	ポスターの時間がより長ければよいが、現行のフォーマットでは難しい。シンポジウムやワークショップの数をぐつと減らして、ポスター発表の一部を、一般口頭発表数を回す試みがあつてもよいかもしれない。
※	PDFで説明するのはやめたほうが良い。
※	全て口頭にした方が良かった。その上で discuss したければ演者に質問するとか?ポスターの良さがオンラインでは出な
※	Not many joined as my poster description was in English. I attended only one visitor successful while 4 failed to connect.
※	閲覧可能期間をもつと長くしてほしい
※	見たいポスターをクリックするといちいち新しいタブが立ち上がり、見終わったらタブを消すという作業が苦痛だつたため、たくさんポスターを見ようと思えなかつた。今後もオンライン開催を予定するなら、改善して頂けると助かります。
※	参加者の一存でポスターを見られないのはオンラインならではのデメリットだと感じた。
※	ネットアクセスの問題かポスター発表に入れない、途中で落ちてしまう、という事例があつた。また発表時間になつても発表者がミーティングを開始せず質疑ができずに終わった例もあつた。
※	ポスターに関しては、会場で全体を眺めるということがオンラインではできないと感じたので、見逃した情報がかなりあるのではないかと思ふ。
※	自分の発表時間内に、他の発表を見に行けない(ZOOMには入れない)ことに、オンライン開催の限界を感じた。
※	オフライン開催よりも多くの参加者に見ていただいた印象でした。せっかくなので聞きにきてくださった先生方の所属を知りたかつたため名刺交換などできると良かった。また、チャットでも質疑応答があると気軽に意見交換ができたように思ひ聞きたいポスターが、自分の発表と同じ時間に重なると聞けない。ポスターを、小さな画面で共有しながら説明するのは難しい。ほとんどの人がカメラオフで参加していたので、どのような人が聞いているのかわからなかつた。せっかくなので、ポスター発表の時間を設けず、気になったポスターに対してチャットとかでいつでも議論できるようなスタイルで良かったのでは? zoomがものすごく重かつた。
※	質問者や聞いている人の所属・氏名が分からず、得体のしれない人に説明をしないとイケないのが嫌でした。またビデオも音声もつけずチャット欄だけで質問をしてくる方などもいて、対応が非常に困難でした。
※	未発表データを含む、特にLBAはオンサイトで実施してほしい。
※	これまでの現地開催では気にならなかつたが、今回のポスター発表の場では、発表者ではなく他の視聴者との会話を楽しんでいる参加者がいると発表の妨げになつてしまい良くないと感じた。挨拶や少しの雑談かもしれないが、視聴者側も発表者への配慮が必要だと思ふ。
※	発表中にZOOMに入ってくる人を毎回Admitしなければならず、何分も入室を待たせてしまつり、自身の発表に集中できなかった。40分でZOOMが閉じてしまつたため、発表途中に来客者を強制退場をさせてしまい、円滑な議論ができなかつた。
※	指導学生の発表に関して、来訪者が限られたため、濃い議論はできたものの、幅広さはなかつた。工夫の余地があるかも知れない。
※	Zoomに入つて議論する人が少ない(あるいは偏っている)可能性があり、時間を持って余し気味の発表者がいたように思ふ。改善の方法は思ひつかないが、改善の余地はあるように思ふ。
※	聴衆が少なめに感じたし、演題によっては自分1人のみ(自分が退出したら誰もいなくなる)の場合もあつた。このような状況は、発表経験の少ない(特に学会発表が初めての)学生にとっては辛いのではないか。発表経験の少ない(特に学会発表が初めての)学生の発表がこのような状況にならずに、発表している学生を励ませるような工夫が必要ではないか。
※	これまでの形式に比べて、対話に関してはどうしても限界があると感じた。
※	Zoomだと入室しないと雰囲気から分からないので、質問しづらさを感じた。オンラインで発表できること自体は歓迎だが、ポスターについてはオンラインの良さが生かせていなかつたと思ふ。進化学会では、LinkBizでチャットでも質問ができるようになっていた。これは他の人の質問とその流れが可視化されて、何度も同じ事を聞かなくても/話さなくてもよく、新しい質問を誘導するのに効率的だつた。また、見たいポスターを事前にabstractからチェックして保存しておいたが、ポスター画像が保存した状態からは見れなかつた。結局、事前チェックした意味が無かつた。

質問7. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスター登録時に、zoomのリンクを本人アカウントにして、後からポスター用のミーティングを作成した人もいたようで、セッションがつかない場面が多々あった。登録の説明に改善の余地がある。
※	よくなかった、とは言いすぎですが、oralの発表への参加と違って、ポスター発表への参加と議論には難しさを感じました。zoomで議論されているところに顔を出して突然出ていくのははばかられ、顔を出してしまうと急にいなくなるのははばかられました。なんとなく覗いて、という人が多かったら他に移動、といういつものポスター発表への気軽な参加がしにくい
※	ポスターをもっと一覧で見やすくなると良いと思った。
※	初日の前半でアクセスが集中し、途中まで検索もできなかったため、困りました。検索も、詳細検索ができず、スピードも遅くストレスでした。ポスター発表から入っても、戻るボタンを押すとトップページに戻ってしまい、非常に使いづらかったです。Zoomに気軽に入らず、対面に比べるとちょっと見て情報収集が難しかったです。
※	ワークショップへの応募ができなかったためにポスター演題登録のモチベーションが(研究室内では)かなり下がっていました
※	ポスターセッションの形式に大きな課題があるように感じた。オンサイトに比べポスター間の移動に制限が加わるため、同じ発表時間のポスターを聞くことはほぼ不可能であった。結果として専門の近い者同士での議論の機会が激減し、不満の残るものとなった。オンラインの自由度を生かし、ポスター番号の偶数奇数で前後半を分けるのではなく、そもそもの発表日を分けるなどの工夫が必要だったと思う。来年度のポスターセッションが同様の形式であるならば、情報漏洩のリスクや発表準備のコストに見合うメリットが感じられないため、おそらく演題投稿をしない。
※	オンラインのポスター発表は、相手の様子を伺い知るのが難しく(特にカメラがOFFの場合)、どの程度の説明が必要なのか、分からない。従って、全ての方に対して、序論から結論まで、一つ一つ、細かく説明した。聞いて頂いた方の中には、説明を長く感じられた方もいらっしゃるかも知れない。オンラインのポスター発表は、相手の様子を汲み取りながら、発表を進
※	何人がZoomで会話しているのかを事前に知ることができたらよかった。基本的に複数人を同時に対応するのが難しかった。空いている時間と混んでいる時間がはっきりしていて、さらにいろいろな方と話せたはずだったと感じた。
※	zoomだとゆっくり聞けるのは良いが、一度入ると出にくいので時間中に見れるポスター数が極端に限られる。自分の発表時間に誰も入室しない時間帯は辛い。30分以上誰も来なかったため別のパソコンで他の人のポスターzoomに参加した。1時間誰一人来なかったという話も聞いた。
※	オンサイトに比べると、ポスター発表を見る&議論するのは難しいように感じました。
※	ポスターセッションにおいてZOOMへの入室に敷居を感じました。テキストベースの質疑応答があるとよいと思いました。
※	オンラインでのポスター発表に限界を感じた。質問のタイミングが難しく、また、じっくり見たい箇所があるのに、画面を自分で操作できないのが残念であった。また、どの発表の傍聴者が少ないかが表示されていると、空いている発表に移動しや
※	結局時間がなくて見られなかった
※	要旨は英語だけ、ポスターも英語だけというやり方には無理がある。要旨は日本語でも出すようにし、ポスターは日本語表記+図の英語ラベルでも良いとすれば、分かりやすくなる。またポスタータイトルの一覧表も、冊子にして配布するべきである。Zoomで発表するのであれば、スライド形式でポスターを提出して貰っても良いはずである。通知を早めにして頂けると準備がやりやすくなる。
※	PDFを見ながら、そのまま、質疑に入れるシステムが良いと思った。PDFで発表番号をチェックしてから、発表のシステムの入らなければならない、手間取った。時間外でも議論できるシステムが欲しかった。

質問8. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オンサイトの学会だと、会に合わせて動けますが、日常生活(子供の世話)等を続けながらだと参加が厳しい時間帯が出てきました。オンサイトのタイムスケジュールに縛られないで時間を編成してもよいかと思いました。
※	夕方からのセッションは、もう少し遅い時間(夕食後)でもいいのかと思います？
※	オンラインだと日常の生活の中で対応することが期待されるので、育児をしている年代だと夜間開催のセッションには非常に参加しにくい。本当に夜の時間帯が必要なのか再検討すべき。また、朝、ランチ、ポスター、午後のセッションと参加するとトイレ休憩も取るのが難しいタイトなスケジュールであり、もう少し余裕が欲しい。
※	セッション間のインターバルは要らない。常に何かのセッションが開催されている方が良いと思う。
※	webシステムが使いづらかった。例年の冊子体プログラム集やwebアプリのほうが使いやすいと思う。「前ページに戻る」と今は2日目なのに1日目のプログラムに戻ったり、要旨を読んですぐにzoomへ行こうとしてもリンクが無かったり、スムーズに活動できなかった。動物学会のslack型システムや、google上にポスターをアップするスタイルなど、ほかの学会でどんなシステムを採用したか調査して、今後に生かしてほしい。
※	オンデマンド配信を原則にしてこそオンライン学会のメリットがあると思う。今回の形では、興味ある発表が重なるときにどちらにもオンデマンドがないと結局オンサイトの時と同じでどちらかがきけなくなってしまう。
※	興味あるワークショップが同時刻に開催される場合、オンデマンドの、講演は後日拝聴できるのでよいのですが、そうでない講演の場合は部屋の入退室をくりかえして行き来してしまいました。現在、どの講演が進行中なのかがどこかで確認できて、それを踏まえて入室できれば便利だと思いました。
※	シンポジウムなどはオンデマンドで会期中いつでも視聴できるのは非常に助かりました。unpublishデータが出にくいシンポジウムなどは、全講演オンデマンド化していただけると、LIVEで発表のポスター発表の時間だけに集中して時間が割けるのでよいかと感じました。その場合には、現状のUIではポスター発表の行き来が非常にまどろっこしいため、ポスター発表の時間枠はもう少し長くしていただきたいです。
※	セッション数が多いのは良いと思うが、空き時間が食事及び買い出しをするのには短く、休憩としては長く感じた。短い休憩を増やしてセッション間は短い休憩とし、昼と夜にはもう少し長い食事休憩が欲しかった。
※	イブニングセッションを増やしてほしい。
※	12/3(木)〇〇〇のセッションは、押せ押せになって、21時に終了しました。本当は、20時ですよ？もう少し早く終わる/終わらせる努力をお願いします。
※	視聴したいセッションが同じ時間に複数重なっていた。
※	海外の演者があるセッションはなるべく時差を考慮して欲しかった。あまりにも申し訳なかった。
※	9-20時はちょっと長い。職場もしくは自宅を考えるとどうしても聞けないところが出る。
※	後で視聴できるシステムはとてもありがたいです。発表済みの話など、差し支えなければもっと広がると思います。
※	ポスターもオンデマンドにして欲しい
※	企業のセミナーは、昼休みの時間帯である必要はなかった。
※	一日の聴講時間としては結構長く、さらにオンラインのため三日間の疲労はかなりのものになった。
※	全てがオンデマンドにはなっていないので、どれがライブのみかを確認してから予定を組むのが大変だった。
※	オンラインでの参加の場合、会場に行っているときとは異なり、通常の業務から完全に逃れることはできないので、一日中ほとんど空き時間がないスケジュールは困った。
※	18:00~18:30の休憩時間を入れていただけたのは子育て世代には大変ありがたかったです。子供のお迎えから帰ってからでもフォーラムに最初から参加できました。
※	朝9時から始めて、20時に終わるとすると、かなり疲弊するので、オンラインであれくらいの分量でやるなら、もう一日増やして4日間が望ましいと感じた。
※	オンラインでは勤務先や自宅(在宅勤務)での参加となるため、遅くても午後5時半までに終わる方が望ましいと感じた。それ以降の時間帯は、プライベート(育児や介護を含む)で有効に使いたい、勤務先での超過勤務はなるべく避けたいと考える参加者も多いはずである。
※	参加していないのでわかりません。
※	フォーラムの時間帯が遅いように感じた
※	企業のセミナーが初日のみに集中しオンデマンドのものもすくなかったので、視聴できないものが多かった。3日間にバラして、時間帯もずらして開催して欲しかった。
※	初めての試みとしては大成功だと思う。オンデマンドで聞くことができるtalkが多かったことは助かった。マイスケジュールは、昨年までのアプリの方が見易かった様に思う。
※	18時半からの時間帯は遅く感じた。
※	海外からのシンポジストやワークショップスピーカーがいる場合、時差を考慮して、時間帯の途中からでも参加可能であったりしても良いのではないかと思った。
※	移動なく色々な発表が聞ける点はオンライン開催の強みと感じた。会場に入れなくて聞くのをあきらめることがないので、良かった。
※	ポスターの議論の時間は、偶数・奇数ともに2時間くらいは欲しい。
※	タイムテーブル自体は本来であればそれほど悪くはないのと思うが、ワークショップ大量型はダメだと思う。多分、(気ををてらいた味の)小さいテーマが分散した感じなので、聞きたいのを聞いたらもういいという感じになる。いつでも仕事に戻れるので、単なる中座でなく、飽きて、学会参加自体を辞めたくなるし、院生もやめてしまっていた。オンラインなのでよく考えた方がいい。むしろ同じ大枠のテーマ(例えば「免疫」とか「再生」とか)をずっと続けた方がいいのではないだろうか。
※	パラレルセッションが多く、限られた発表しか聞けなかった。
※	オンラインでやるのであれば、実験などをやることが多い時間を避けると、両立できていいなと思いました。
※	参加していない
※	ポスターの時間がもう少し欲しかった
※	ポスター発表に関して関連演題が分散している印象を受けた。
※	17時以降の夜のセッションはなくてほしい。子どものお迎えや夕食と重複すると参加できない。上にも書いたが、オンラインで会場の制約がかからないので、ゆとりを持って長期間開催してほしい。また、
※	現実世界で開催すると、聞きたい話が同じ時刻に別々の会場で行われると、移動が大変だったり、聞くのをあきらめたりしていた。オンライン世界であれば、あちこち自由に出入りできるので、とても良かった。

質問8. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	自身の発表時間と被ったポスターセッションを聞けず残念だった。発表時間は二回設けてほしい。もしくはオンデマンドにしてほしい。
※	リモートだと横で仕事ができってしまうので、日本人の英語の聞きづらさの問題もあり、あまり集中して見る気にならなかった。なので、時間帯はあまり問題ではない。
※	今回はオンライン開催が初めての試みだったため、セッション間のインターバルを長めにとられたのだと思います。インターバルを短くして、終了時間を前倒ししていただけると良いなと思いました。
※	午後18:30~20:00は子供がいる家庭にとって一番忙しい時間帯なので、オンタイムでセッションに参加するのは非常に難しい。当日中限定でもいいので、すべて事後配信をしてもらえるとありがたい。
※	高校生発表が最終日のフォーラムと被っているのはかわいそうだと感じた。
※	普段だとランチョンセミナーに、展示会もあり、空き時間も非常に有効に使えるのですが、今回はなかなかうまく空き時間を使えず、、といった感じでした(現地に行く必要がない代わりに、横で実験をしながら発表を聞くことができたという意味では有効に時間を使えましたので、メリットデメリットはあるかと思います)。例年のように、広い会場でいろんな部屋を移動する必要はなかったため、気になる演題がぼつぼつとあった場合にいろんなシンポジウムをすぐに聞きにいけたのはよかったです。
※	ポスターは頭に持ってくるべき。ワークショップが先だと、ポスターに人が来ない。(疲れてるから)。
※	通常業務が次々と入ってくるため、学会に時間を割くことが出来ない。このため、学会どころではなかった。
※	参加していないので分からない
※	ポスターをなくすべきだった
※	個人的に1日目の午前中に見たいセッションが3つ被ってしまい、スケジュール調整が大変だった。ただ、オンデマンド配信のおかげでだいぶ助けてもらいました。
※	海外からの演者をオンラインで呼べる時間に、ワークショップやシンポジウムの枠を設ければいいのではないかと思う。
※	ポスター発表の時間進行が、よく分からなかった。
※	主催側でオンデマンド配信をもっと取り入れてもらいたいです。
※	大学にいたので全体に聴講が難しかった。
※	育児世代にとっては、夕方はコアタイムであり、学会と異なり託児できないので参加できない点で残念だった(保育園は園にもよるが19時くらいまで、かつ、学会会場と異なりお迎えに要する時間が発生するので、参加できない時間が生じる)。
※	全体を俯瞰していないので、回答不可。
※	午前・午後にシンポジウム系、夕方にポスターが良かったです。
※	似通ったテーマのワークショップが重なってしまいどれに参加するか迷うことが多いと感じた。
※	夜間に開催されるフォーラムは時間帯が遅いせいで参加しにくかったです。

質問9. 発表言語について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	聞き取りづらい発表が大半でした。初参加のため英語発表にされている理由は存じませんが、留学生や海外参加の方のためでしたらやむなしと思います。一方で、もし日本人の英語発表練習のためとお考えでしたら、原稿を読み上げている方が多数いらっしゃる状況では、あまり練習にはなっておらず、デメリットの方が大きいのではと感じました。
※	学会を全英語にするこのメリットはあると思うがそのメリットを活かしきれているかというよくわからない。発表者・聴衆がほぼ日本人であるワークショップでもあえて英語を使う意義があるのかどうかは改めて議論されるべきと思う。英語にしては海外からの発表者が多かったとは言えない。これだけのメガ学会であるのなら英語と日本語の両者が存在するハイブリッド学会にした方がベネフィットが享受できるのではないか。
※	日本語と英語のバランスがちょうど良いと感じた
※	すべてのワークショップが事後配信していないのが不満である。
※	全て事後視聴可能にして欲しかった
※	通信状況が悪く、聞きとれない、画面がフリーズするなどの問題があったので、特に英語の講演の聴講時には不満があった。事後配信で聴き直せるのは良かった。
※	発表者に英語を無理強いしたのはよくなかったと思う。発表者の英語が下手すぎて聞く気も失せるような発表をいくつか見た。英語での発表は聞く側にはおそらく問題がないだろうが、話す側に問題がある場合のみ日本語での発表を認めたらよかったと思う。
※	英語の訓練は確かに必要だが、内容の理解が不十分のままの人もあると思うのでそのあたりへの配慮があるとよい。逐次通訳など。
※	全て英語だったことに不満はないが、特にそれがよかったとも感じない。発表者全員が日本語を母国語とするならば日本語で開催する、使用言語はそのシンポジウム・ワークショップのオーガナイザーに一任するなど柔軟な対応があってよいのではないだろうか。
※	日本語の方がわかりやすいと思います。
※	こういう時期だからこそ海外の研究者とのオンライン議論を積極的に進めたいという欲求は理解できるが、ドメスティックに頑張っている人々へのフォローも大切である。少なくとも英語「必須」というのは考え直すべきだ。オンラインでの機器操作にも慣れないうえ英語も堪能とは言えないという人が表に出ていると、正直辛い場面があったのも確かである。
※	ある程度演者に発表環境整えてもらわないと声が聞こえず何をいっているのかわからなくなった。続けるならある程度スライドで内容を追えるようにしてほしい。
※	専門外のセッションは、日本語で聞く方が理解しやすい。
※	コミュニケーションを図るのに母国語でない英語で発表するのはまだ無理がある。発音が悪いだけなら語彙表現がよくても聞きにくい発表が半数以上あるように思う。字幕、同時通訳ソフトなどでの発表補助の選択肢を加えることを検討して
※	どちらの言語でもよいが配慮は必要だと思う
※	講演の英語レベルは高いと思う。英語化には賛否両論であろうがやせ我慢しても継続する事が大事だと思う。
※	Japanese Englishは聞き取りにくく、英語であることが質疑応答の妨げになっている場面も見かけたので、無理に英語を使用することは国内学会を掲げる以上は不適切だと思った。分子生物学会のような多様な分野が一堂に会する学会で英語だけが使用言語になることは、分野を越えた議論を遠ざけることになり学会の趣旨に反するとすら思う。
※	質疑に関しては適宜日本語使用を許可したり、オーガナイザーに訳や補足を入れるなどの配慮がきちんとあり、私のように英語を話し慣れていない人に対しても親切だと感じました。お心遣い、ありがとうございます。
※	日本語でも英語でも、どちらでも良いと思う。しかし、他分野の方を積極的に歓迎するようなセッションであれば、聞きなれない単語も多いと思うので、日本語が理解に優しいと感じた。
※	他人のことは言えませんが、日本人の英語発表は聞きづらいです。カンペを棒読みしてる割合が増え、頭に入ってきた
※	英語力を上げるためなのか、全編英語での発表と質疑であるが、学会員全員が本当に英語で理解できているのか、非常に疑問に感じた。より活発な議論や学会及びgene to cellの発展を考えるのならば、もっと日本人向けに日本語で議論を行うべきではないか。英語による発表を行っても、本学会は国際学会として各大学や企業には認められておらず、また、招待会員以外の海外研究者も見当たらないため、日本分子生物学会にグローバルな知名度がないという事しかわからなかった。英語での発表と質疑に関しての意義を感じる事ができなかった。
※	すべての講演についてオンデマンド配信にほしい。
※	発表者によっては、英語のせいで話の内容を非常に聞き取りづらい場合があった。
※	学生が内容を把握できない。
※	英語での発表を義務付けるのであれば、学会の位置づけを「国際学会」にして方が良いと思いました。例えば大会名を「International annual meeting of 」にするとか。そうすることで、本大会で発表した実績を国際学会発表業績としてカウントすることができ、発表者にとって多少なりとも英語で話したメリットがあるかと思われます。また、国際学会としての位置づけをグローバルに発信することで、海外の参加者も増えることが見込まれ、真に英語で発表することに意味合いが深まっていく
※	ポスター発表を記録可にいただけるケースを作ってほしい。
※	私は、臨床で外科・救急医学を専攻してきた者です。留学経験がないので、正直、100%の理解はできませんが、可能なら、最近のトピックスに関して、日本語のspeskerも入れて欲しいです。今は内科で診療所をしています。生化学・分子生物学会等からの最新の情報は、本当に役に立ちます！
※	要旨などは英語でもよいと思うが、演者・参加者がほとんど日本人の状態、すべての発表を英語でやる必要があるのか疑問。実際質疑応答や発表でもたついたり、深い議論の妨げになっている部分が多々見られた。英語のセッションを作れば十分ではないか？
※	英語のプレゼンにするのであれば、半分くらい海外演者であってもいいと思います。
※	分子生物学会を学生の発表の練習会と、大人の英語の勉強会にしてはいけないとは思いますが。十分な議論を限られた時間では、まだできていないと感じます。
※	英語での会議とした方が活性化すると思うが必ずしも全ての演者が流暢に英語を話すわけではないのできちんと理解できなかった。

質問9. 発表言語について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	シンポジウム・ワークショップ共に、ベテラン教員の発表でも英語では不完全燃焼の印象が非常に強かった(発表内容・質疑応答共に)。また、自身の専門領域以外の発表では理解が難しくなることや、全て英語では、学生に聞かせるという視点が欠如していると感じられることも問題である。このままではお金を払ってまで学会員でいるメリットがなくなるため、主催者の自己満足ではなく、クオリティの維持を心掛けて欲しい。英語を導入することそのものには反対ではないため、棲み分けられるようにしてもらいたい。
※	分生の特徴の1つは幅広い分野の研究に学会中に触れることで視野を広げることができることだと思います。英語だけでなく専門領域の研究は問題ないですが、自分の専門外の分野の研究内容の発表についていくのが難しいです。これでは分生の良さが半減してしまうと思いました。
※	英語トレーニングしましょう
※	当初すべて事後配信かと思っていたので見逃したセッションあり。(自分の確認ミスなのですが。。。)ただオンラインだとデータ開示が難しくあまり新しいデータを出さないといった点もあり、バランスが難しいと思いました。
※	セッションによる偏りが大きいと思うが、英語ではお話しにならないトークも存在し、ものすごく損をしているように感じた。面白そうな内容でも重要な点が非常に聞き取りにくかったり、意味がうまく伝わっていないケースを多々見た。英語で日本語と同じレベルで会議を行えるのが理想であるが、現実的には聴衆としても学ぶことが格段に減ってしまうので、「どうにか」しなくてはいいように思う。
※	自分の分野以外の分野を聞くときに英語だとわかりづらい。日本語のセッションも入れて欲しい。
※	日本人同士の英語での質疑応答は、極く一部の例外を除き、非常に分かりづらく無意味な場合が多い。何らかの対策が必要。例えば、優秀な日本語>英語同時通訳ソフト(もしあれば)を利用して、日本人同士の日本語での質疑応答を、英語
※	英語に関する賛否は諸所あると思うが、日本語での質疑応答は可能にしてみたいのではないかと。日本語でサイエンスができることも大切。なぜなら、世間に対して英語ではなく日本語でサイエンスを説明しなきゃならん時は多々あります。
※	英語での発表という趣旨には大いに賛同するが、発表者の英語スキルが足りないと感じる発表もしばしば見受けられた。どうにかして発表者の英語スキルの底上げをする必要があるのではないのでしょうか。
※	ディスカッションが加熱してきたときは、日本語と英語の的確な通訳と、がするような気がします(今回というわけではなく)
※	全て英語で良い。国内大学院ですら留学生が少数派でない時代に日本語で大規模学会をやることに無理がある。
※	いったいどのくらいの外国人が参加しているのか(セッションごとに)、統計を取ってもよいと思います。スピーカーに外国人がいる場合は英語でよいですが、母語でない表現にときどき非常に理解しにくいと感じました。
※	参加してないのでわかりませんが、全部英語で行うことはまだ無理なのかなという印象です。
※	今後は、googleなどの同時通訳などを導入した方がよいのかもしれません。聞きたい言語を視聴者側で自由に選択することができる時代があと数年で来るように思いますので、発表言語を指定するのは無意味になるように思います。英語が標準言語であることに変わりはないと思いますが・・・
※	シンポジウム・ワークショップの言語を英語にする方針自体は良いと思うが、発表者が必ずしもそれに対応できていない事が問題だと思われる。
※	日本語でできるシンポジウムをもっと増やすべき。
※	・外国の方がイントロのスライドに文章を入れて説明していた方がいたので理解に役立った。
※	当初から今回の大会は英語のみという目的ではあったと思うが、コロナでオンライン開催になったことを考えて、もっと柔軟に対応すべきだったのではないかと。オンラインで完全英語ということも、参加者が減った原因になっているのではな
※	事後配信は、興味のあるトークが複数重なっている時にも有効だと感じる。
※	英語の必要だけど、日本語の発表の方がいいなあ～特に違う分野の発表を聞いたりする場合は、日本語の方が良いと思います。異なる分野の研究者の発表を聞いたりするのも、大きな学会の良いところなのでその場合は、日本語の方がすんなり入ります。
※	発表者に依存するのが良い。
※	研究は国際的なものであるので英語化を推進することは理解できるが、地方大の修士学生たちが参加できる学会が一つ減ったと思いました。
※	しかし、国際学会と位置付けることが前提である。もしそうでないならば、例年通り、英語のセッション半分、日本語のセッション半分の配分の方が良い。日本人初学者にはやはり日本語の方が伝わりやすく、分子生物学に対する関心を持ってもらいやすいと考える。
※	英語によるプレゼンのレベルが低く、聞いているのが苦痛な発表が多数あった。英語の発音の善し悪しというよりは、事前に発表練習を十分にしたかどうかの方が重要ではと感じられた。アーとかウーとかが何度も入って、つかえつかえのトークを聞くのは本当につらい。若手のほうが十分に練習してから発表しているのか、発音が上手でなくてもプレゼンとしては聞きやすいものが多かった。一方、名のある研究者の方々に、発表準備を十分にしたようには見えず、アーとかウーとか言いながら、つかえつかえ話す人が多くて驚いた。シンポジウムやワークショップで発表する人は、もう少しきちんとプレゼンの準備をして欲しい。特にPIクラスの人たち。
※	分子生物学会は専門分野以外の知識や進捗を勉強する良い機会ですが、多くの日本人にとって、英語よりも日本語の方がその概念まで含めて深く理解することができるのではないのでしょうか。私は過去、日本人が日本語で最新の学問(の精神)を学べたところで明治以降、なんとか欧米に肩を並べることができたと思っています。外国語を得意とする人が日本語に翻訳してひろめることで、外国語を得意としないものも学問に触れたことがその背景にあると思います。もちろん、英語を勉強することの重要性は否定しませんが、最新の学問を日本語で学べる機会が必要だと私は思っています。
※	発表自体は英語でいいと思うが、英語が下手で研究の理解力も低いオーガナイザーが、発表者に質問を伝え切れていない局面がよくあり、気になった。もっともこれは他の学会や研究会でも散見される難しい問題。
※	全て英語にしてしまうと、専門外の分野の講演を聞く際に専門用語の意味がわからず、内容をフォローしきれない部分があった。比較的近い分野のセッションが複数ある場合は、一方を英語、他方を日本語可とすることで、分野間での人(特に学生や若手研究員)の流動性を生み出せるのではないかと。
※	他分野の発表を気軽に聞くことができたことが良い点だったが、英語だと他分野の内容は理解が難しく残念である。
※	言語が英語なら徹底してほしかった。決まりが曖昧で、英語で準備していたのに、質問者は日本語で話しかけてきて、結局日本語で話すことになった。その後はお互いどちらの言語で話すのか迷って、余計な気を遣った。
※	英語での発表、やりとりに移行していくことには賛成するが、発表内容について、何かしらの日本語での案内が欲しかった。字幕、要旨など。

質問9. 発表言語について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	学会の英語化には大賛成である。今回は、日本語での発表を希望する人のためにフォーラムが存在していて、うまく機能していたように思います。今後も、発表は基本的に英語とし、日本語話者以外を積極的に学会に呼び込めるよう、進めてもらいたいと思いました。
※	日本人の参加がほとんどであるにも関わらず発表を全て英語で行ったことで、内容の理解が難しくなったり、質疑応答の内容が薄くなっていると感じた。また、口頭発表に挑戦する際の敷居が高くなってしまったのではないと思う。国際化も大事だが、それによってしっかりと深い議論ができなくなってしまっは、本末転倒ではないか。
※	国内学会を英語で行うことにメリットを感じなかった。どうしても英語での発表を推進したいのであれば、海外からのスピーカーを増やす必要があると感じた。
※	参加していない
※	国際化を目指して海外からの参加者の増加を狙うのであれば、シンポジウム・ワークショップは英語にすべき。もちろん、日本人どうしでの議論が低調にならないような工夫も必要かと思う。
※	事後配信は画期的だと思う。ぜひ継続してほしい。質疑応答は日本語で書かれた場合にはチェアが訳すなど、臨機応変に対応したらいいと思う。オンラインのためか、時間超過が多かった気がする。もう少しゆとりを持ったスケジュールにしてもいいのかもしれない。
※	国際化を目指すのであれば国際分子生物学会で行うべきであり、“日本”分子生物学会で英語で発表する意味を感じなかった。特に今回は発表者ツールトラブルが多かったので、日本語での発表にしておけば、ここまで、発表者ツールに依存する必要はなかったと思われる。
※	分子生物学会程度の大規模の年会で、全部を英語にするのはかなり挑戦的であると思う。少しでも研究分野が違くと、細かいニュアンスが英語では伝わりにくい、または質疑応答が噛み合わない、と感じた。またオンライン学会の英語開催は全世界から気軽に参加できる反面、仮に世界の大御所ラボが参加した場合に未発表データを簡単に取り除けられる可能性がある。ということで、自分が発表するならば、未発表データといってももうin pressかすぐにアクセプトされる内容に限られる
※	英語での発表に慣れないため生じるデメリットもあるが、日頃からそのつもりで準備することで長期的には英語力の向上につながるメリットの方が大きいと思う。また学部学生や院生に対する教育効果も大きいのではないと思う。
※	英語が不得手な人の発表は、聞いていてこっちも辛い。発表言語は、英語推奨としつつも、最終的には本人に任せてはどうだろうか？英語の上手な人の発表は、とても勉強になる。うらやましいです。
※	英語での発表だと聞き取りづらい。日本の学生の学びを深めるため、また、より意義深い議論をするためにも、日本語での発表や質疑応答を行うべきだと考える。
※	回答者自身のことを棚に上げる意見で非常に恐縮ですが、今回のシンポジウムでは発表内容よりも、聞き取りやすい英語のスピーカーがいるシンポジウムを選んでしまいました。シンポジウム・ワークショップを全て英語にする主目的が日本語を母国語としない参加者への配慮である場合、日本語での発表に英語字幕がリアルタイムでつけばよいのになと思います。
※	国際化を考えると英語でのプレゼンテーションは仕方ないと思うが、上手く議論ができたとは思えないセッションもあった。
※	すべてのセッションを英語にするのは反対。英語に難のある研究者が高いレベルで日本語で議論する場もあるべき。英語発表の準備不足の発表者が多くいたように感じた。学会を「英語発表の練習の場」にしてほしくない。
※	zoomの試みがはつだったのに、英語しばかりだとほとんど議論が深まらないような気がした。
※	質疑応答の議論を英語で全てするのは、なかなか苦労されているようにおもう。議論を深めるという点では、日本語で行うことが一番いいだろう。しかし、偉い先生たちが、英語での議論に苦労しているところを若い人が見て、その重要性に気づいてくれれば、それはそれでいいのではないか。
※	母国語で研究できるメリットを大事にすべき。科学の感性は使う言語で変わり、それが独自の研究につながっていく。また、リモート英語開催では伝えたいことの半分くらいしか伝わっていないと思われ、これを続けるのは、大規模学会の幅広い交流による研究のタネ、ヒントの創出を減少させるのでは。外国人の質疑も多くな、英語化が誰に向けたものなのか曖昧なので、開催言語と質疑の活発さの相関とか、共同研究への発展性など定量的な分析がほしい(日本の研究力が学会の国際化で盛り返した例があるのか)。オンサイトを日本語、英語でリモートとか、年2回ずらして実施とか、これまでとは違った
※	昨今ではGoogle翻訳などの機械翻訳が精度を高めており、原文の質が高ければ、翻訳文も十分に意味を理解できるレベルに到達しています。そこで、シンポジウム・ワークショップの講演者にあらかじめ母国語で原稿を送ってもらい、その機械翻訳文を字幕のような形で表示できるようにすれば、国籍に依らず聴衆はよりサイエンスに没頭できるのになと思います。
※	私は母国語が英語ですからとても助かりました。
※	分子生物学会では自分の専門分野でない話を聞いて発想をえる楽しみがあると思うのですが、全て英語ですと、初めての分野の発表を理解することに困難を感じました。スライドに日本語が入っていると、理解が深まると思いました。
※	日本語でも質問しても大丈夫だと学会HPでは告知されていたが、基本質問は英語で行われていたので、オーガナイザーがシンポジウム・ワークショップがスタートする前に「日本語でも質問しても大丈夫」ということを連絡しておくのと良かったかもしれない(特に学生にとって)。
※	先日参加したISFRCB2020では同時通訳を雇って、通訳ありで聞きたい人は、通訳ONにすると日本語で聴けた。また英語の字幕も出た(喋った音声をそのまま文字変換)。このような工夫は良いなと感じた。
※	オンデマンド配信を許可してくれた演者には、リアルタイムで英語で発表するのは別に、日本語でも録画/録音して配信してくれると助かる。
※	専門的な学会ならともかく、間口の広い分子生物学会が英語だけだと、研究を始めたばかりの学生には障壁が高すぎて参加させることに躊躇させる。
※	難しい質問になると、結局は日本語で質疑応答になる場面が多々見受けられましたし、残念ながら演者も質問者も自分が言いたいことを100%伝えきれていないようにみえました。このシンポジウムが日本人の英語力向上のために存在するのなら仕方ありません。しかし参加者の大多数が日本人研究者であることは紛れもない事実でしょう？日本人同士で情報交換するのに日本語では本当にダメなのではないか？国際化だからどうしても英語というなら、昨今の自動翻訳の技術向上から考えて、日本語発表と同時に機械的な同時通訳を流すことも検討してもいいのでは？
※	英語が聞きづらく、理解不能な発表者が多かった。日本語でやってほしいし、質疑応答など意味が分からない。しかし、オンサイトで聞くよりは音声の調節ができるので、良かったと思う。英語が正確な人だけが英語で話してほしい。

質問9. 発表言語について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オンラインだとデータが見えるので、言語のハンデはオンサイトより小さいのでは。選ばれたワークショップで10-15分とか話す(しかもオンラインで)のに、英語で話せないとは情けなくないか？スライド、発表原稿、想定質問の準備もしない演者は、ワークショップで話さなくてよい。ポスター発表に回った私に口頭発表をさせてください。座長によっては、質疑応答での言語の使用は柔軟に対応していたので、それでよいと思う。ただし、そのためには座長も経験と事前の準備が必要。
※	残念ながら、質問がほとんど出ませんでした。発表は英語で良いですが、質疑応答は日本語OKを基本にした方が良かったかもしれません。会場の大勢の聴衆の前でマイクスタンドへ向かう緊張感がないのにも関わらず、質問にハードルがあるのが不思議な気がしました。
※	事後配信は良い試みだと思うが、数が少なかったのは残念。また分野が少し違うと英語の専門用語等が分からず理解しづらい。以前に比べて英語発表が浸透してきたので、むしろ無理に英語化を行わなくても良いように思う。
※	zoomの質疑応答の作法が成熟していないので、演者のマイクが音になっている場合、座長を飛ばして質問されていた方がいました。
※	精度が低くてもAI自動翻訳があれば良いかも
※	すべて英語であるメリットを全く見いだせなかった。異分野を知ることが分子生物学会のメリットだと思うので、英語だとハードルが高いと思う。99%は日本人が参加しているし、専門性の高い学会ではないのでできるだけ日本語でよいのではないかと思う。(もちろん、研究者における英語の重要性は理解しています)
※	発表は英語、質疑応答は日本語というのは何をやりたいのかわからない
※	我々は日本語発表でした。
※	海外の発表者で、英語で話しながら、その内容を文字で表示してくれている人がいた。とても丁寧な発表に感じた。手間はかかるのかもしれないが、オンラインならではと思った。今回の年会に限らないことだが、参加者のおそらく9割は日本人である集まりにおいて、使用言語が非日本語というのは、おかしいと思う。英語では表面を追うことはできたにしても、その内容を深く理解することは難しいと思う。
※	英語だとしても学生の参加が減る。質問が激減する。結局、誰のための年会なのかを考えて欲しい。日本分子生物学会は日本の学会であり、国際学会ではない。ならば、日本人が一番ディスカッションしやすい形態をとるべき。
※	発表言語が英語だからという理由で海外の研究者が日本分子生物学会に参加しようと考えとは思えないので、全て英語化するというのは無駄だと思う。原稿を読み上げているだけのつまらない発表が多々あった。
※	回答できるほどの回数、参加していないので、回答不可。ただ、参加した限りでは、特に不満はなかった。オンラインだと明瞭に聞こえるし、オンサイトで参加する場合よりも、聴きやすかったように思う。
※	事後配信の期間をもっと長くしてほしい。延長を希望します。
※	英語化を推進する意図は十分に理解しています。自身では講演や講義などで英語化に対応するように努力を続けているつもりです。ただ、学生、特に英語を苦手とするような大学にあつまる学生にとっては英語での学会はハードルが高いように思います。英語というだけで発表はおろか参加も躊躇します。さらに問題は、自分の関連分野の発表はなんとか理解できたとしても、少し分野の離れた発表は全く理解が追い付かないことです。分子生物学会は日本でも最大規模の学会です。自分の専門とする分野以外の最新情報を得ることもこの学会の良い部分だと理解しています。その意味では、この学会での英語化は、その良さをスポイルすると感じます。

質問10. フォーラムについて（その他）

回答者番号	その他記述
※	フォーラムのプログラムがサイトに明示されていないのは不便だと思いました。
※	フォーラムって何？
※	とても役に立った。
※	分子生物学会らしさが表れていると思う
※	自由な企画が多く楽しんだ。
※	家庭の事情でなかなか時間帯が合わず参加できませんでした。オンラインなので現地開催だったら参加はできなかったことを考えるとオンライン開催は大変ありがたいのですが、こちらもオンデマンドで視聴できると助かります。
※	フォーラムも複数聞きたいものがあつたので、オンラインで行うのであれば事後配信も行なって欲しかった。
※	フォーラムが20時までであると参加しにくかったです。
※	フォーラムの演者の要旨のサイトがなくて、議論できず、残念でした。ワークショップと同じ体裁にして欲しかった。
※	年会長企画フォーラムに参加予定
※	時間が遅い
※	フォーラムで講演したが、ワークショップやシンポジウムと同様に時間設定ができるようにしていただきたい。
※	参加したかったが時間の都合がつけられなかった
※	オンライン開催だと、参加しやすい。
※	シンポジウム、ワークショップ、フォーラムについてはオンラインの方がむしろよい。・スライドが見やすい。・音声が聞きやすい。・座席の空きや位置を気にしなくてよい。・別な講演を聞きに行くために講演途中で部屋を移ることが容易。
※	2F-06「EMBOのハンズオントレーニングをうけてみよう」のような、論文執筆・投稿に関するフォーラムを今後も続けてほしいです。あるいは増やして欲しいです。
※	Q&A入力後、オンタイムでの司会者のレスポンスは非常に良かったです。
※	興味のあるフォーラムが重なっていた。
※	参加したかったが、時間帯が参加できない時間帯であった。
※	フォーラムの内容自体は良かったが、時間帯については工夫する余地があると思われる。特に今回は在宅勤務で参加された方も多からうと思うので、19時までには終わるように設定すべき。
※	フォーラムの開催時間が遅かったため、視聴できなかった。残念に感じた。
※	遅い時間帯で、この点はオンサイト時とタイムテーブルを変更し、日中の時間帯に開催して欲しかった。
※	講演プログラムがなかったのは、とても不便。誰が何時から話されるのかがわからないと参加できない。
※	フォーラムに限らず、AMEDやJST主催の各研究領域のセッションは非常によいと思った。
※	フォーラムの意味がよくわからない
※	フォーラムへの質問はこれだけですか？フォーラムも大事なプログラムの一つだと思いますが。勝手に書きますが、時間や長さなどは適切だったかと思います。むしろフォーラムが非常におもしろかったです。どうしてフォーラムは録画しての事後公開をしなかったのでしょうか。時間が被って泣く泣くやめたものが多々ありました。
※	フォーラムの扱いが中途半端に感じました。ワークショップと同様にzoomのコメント機能をつけるべきと思いました。
※	研究不正の話は興味深かった。また途中からしか聞けなかったが、コロナの話もタイムリーで良かったと思う。
※	フォーラムの伸び伸びとした雰囲気は楽しい。ワークショップがこのような雰囲気になればいいのに、と思う。現状、ワークショップとシンポジウムの違いは極めて小さい。
※	フォーラムもオンデマンド配信があると良かった。
※	年会長企画がよかった。
※	いつもはフォーラムに参加したいと思いつつ、一日発表を聞くと疲れてしまい、聞かずに帰っていました。でも、オンラインだと余裕もあり、3日ともフォーラムに参加することができました。とても面白く、有意義でした。思いがけないオンライン効果で夜間に開催されるフォーラムは時間帯が遅いせいで参加しにくかったです。

質問11. 年会の特別企画について、良かったと思うものにチェックしてください <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	spatial chatは使いにくかった
※	特に、海外へGOの企画は、普段聞けないような貴重な話を聞くことができたのでとても良かったと思います。こういう企画はオンラインではないと聞けなかったと思うので、今年がオンライン開催で良かったと思います。
※	Meet the Speakerではチャットだけで盛り上がらない zoomがいい
※	“Meet the Speakers”は、入室した時に既に複数人で話が盛り上がっていると、そこに割って入るのは困難だった。まだチャット形式のほうが聞きたい質問はできたと思う。
※	特別企画ではない？が ポスターセッションがよかった。オンラインで検索するときやや使いにくいところもあった。
※	spatial.chat は使いにくかった。home page, zoomを行き来するのでプラットフォームは少ない方が楽である。しかし年を重ねれば利用者も慣れてくるだろう。
※	ランチタイムセミナーでは雑談含め、先生方の率直な意見が聞けてとても面白かったです。
※	会期後のオンデマンド配信期間について、いつまで閲覧可能か事前に会報で教えていただきたいかった。
※	ランチタイムセミナーがオンラインの閲覧ページに掲載されておらず見逃すところでした。
※	meet the speakerはよかったと思う。参加にハードルが高いのか、あまり参加者がいなかったのが少し残念。
※	Meet the Speakersへのアクセスが分からなかった(残念)
※	講演者と交流することや発表内容以外の相談することが、オンラインでは難しく感じた。
※	オンライン学会の「発表後の個別質問ができない」問題への対策としてSpatialchatを用意してくださったのはとても良かったです。参加者同士の交流の場にもなりました。音声でのコミュニケーションだけでなく、チャット機能のあるgather.townなどのサービスもご検討いただけると、寝ている子供の側で参加したい人など様々な参加形式が可能になるかと思えます。セッション終了時にspatialchatへのリンクをアナウンスして頂く際、どのチャンネルに移動するのかの案内もあると良かった
※	参加できなかったのですが、よいと思っているものにはチェックしています。
※	学会でキャリアパス系いらない。もっと具体的に人事マッチングでもしてください。
※	Meet the Speakersは苦肉の策だったのだと思うが、演者以外が参加しているのは稀だった様に思う。対面ではない場合のコミュニケーションの取る方法に難しさを感じた。
※	“Meet the Speakers”にもっと参加する仕組みが欲しかった
※	Meet the Speakersはいまいち議論できなかった
※	参加していない
※	キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナーで、ポジションを得るためには「人柄」が重要であることを伝えられており、これからジョブハントをする者に良いメッセージとなったのではないかと思います。
※	Meet the Speakersは最終日だったためか、発表者以外ほとんど入室がなかった。今年初めてのことであったためだとは思いますが、PR方法を考慮したほうが良いように思う。
※	Spatial Chatは良かった。もっと前宣伝しても良いかと思った。
※	Meet the Speakersには参加していないのだけど、いいアイデアだと思う。
※	spatial.chatはWS後の打ち上げ的な利用でとてもよかった。
※	Meet the Speakers のアナウンスや使用方法を広くアピールするべき。せっかく講演者と気軽に話をする機会と思えるのに、聴衆や講演者の参加が芳しくないように思う。
※	参加しなかったので、解答不可。
※	参加していない
※	Meet the Speakersのおかげでセッション後に演者をちょっとつかまえて話を聞くことができ、オンラインのデメリットがかなり解消されたと感じた。
※	Meet the Speakersには演者が基本的には入室してほしかった。
※	高校生発表で1つぐらいの質疑応答があった方がよい。
※	Meet the Speakersは何度か覗いたが参加者が少なく、会話には参加しなかった。良い取り組みなので、工夫して継続してほしい。
※	特別企画の存在を知らなかった。
※	キャリアパス委員会のランチオンセミナーがとても楽しかった
※	並行したフォーラムに参加していたので、高校生発表に参加できませんでした。高校生に皆さん、ごめんなさい。
※	様々なセッションでその仕組みがわかりにくかった。
※	Detail must be available in english to connect with the peers.
※	参加していないのでコメントできません。
※	WS演者としてmeet the speakerで他の演者と議論ができとても有意義でした。海外からの演者から、海外(アメリカ)の学会ではそのような時間が取られない場合もあり残念だ(分子生物学会にはあって良かった)というコメントもありました。演者以外の参加者は少なく、勿体ないとも感じました。
※	Spatial Chatは面白そうだったのでちょっとだけ覗いてみたが、その時間にあまり人がいなかったなので、活用には至らなかった。仕組みとしては面白いと思う。
※	サテライトシンポジウムがすばらしかった。土曜日なのももったいなかった。来年は年会期間中のランチオンに設定すべき。
※	出席していない
※	参加していないので、回答不可
※	Showcaseは登壇したベンチャー企業の多くの経営に、企画主催者の先生が入っており、企画の私物化・自己ビジネス化を感じた。企画自体は良かったが、もう少し学会として公平な立場で行うべきではないか。
※	年会長企画フォーラムが良かった
※	Meet the Speakers は少し入りづらい(心理的に)ように感じました。

質問12. オンライン企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて（要望・その他）

回答者番号	要望・その他記述
※	Lunch on seminarと異なり、聞きに行くincentiveが小さく感じる。ただし、実際に参加したセミナーの内容はよかった。
※	やはりオンサイトがよいです。
※	担当者や顔なじみが、すぐには解らないので、気軽さが少しかけてるのかな、と感じた
※	facebookで案内はあったものの参加方法がよくわからず、企業展示会場へは入れませんでした。
※	ビデオを事後に視聴できるのが良い。有用な情報が得られた。
※	タイムテーブルが見にくかった。
※	オンライン学会の場合、オンライン企業展示会の意味をあまり感じない。普段からHPIに載せておいてくれれば良い情報ばかりのように思う。
※	時間外にビデオを聞けるのは良かった。
※	人気があるセミナーでも定員制限を気にせずに参加できることにメリットを感じた。更に、オンデマンド配信も利用できるので複数のセミナーを聞けるのも良かった。
※	オンライン企業展示は学会がオンサイト開催になっても並行して続けて欲しい。時間も節約できて効率がよかった。企業にとっても効率が上がると思う。
※	プレゼンが良くないだけかも知れません。
※	普段の実験で抱いていた疑問など気軽に聞けるのは大変有難かった。ただ、Remoだと会場に入った途端意図しない場所(特定の企業ブース)に飛ばされるので非常にきまずい 是非改善していただきたい
※	- 各バーチャルフロアに入室した時、いきなり展示者の机にランダムに割り当てられ、展示者、参加者とも戸惑った。フロア移動の際には「入口」のようなサイトに最初に入らせて欲しい。- REMOのテーブルについての時に、展示資料も見られるようにして欲しい
※	オンラインだと参加にかなり心理的ハードルがある。(なんとなくふらつと訪れるということがない) 出展された企業さんは苦労されたと思う。
※	例年だとお弁当が出るので昼のランチョンセミナーを聞くことができるが、今回はあらかじめ手で食事の用意をしておかないとポスターセッションの時間まで間がなくて困った。
※	企業展示が閑散としていました。オンラインを生かすアイデアが足りていないのが残念と感じました。運営事務局〇〇〇様が企業担当者と会話している場面で同席したのですが、対応が真摯で好感をもちました。宣伝してくれたランチョンセミナーもおもしろかったです。
※	参加できませんでしたが、新しい試みなどなかなか良い企画で学会には必須かなと思います
※	積極的に見に行く人は殆どいないのではないかと思います。
※	企業のセミナーが初日のみに集中しオンデマンドのものもすくなかったので、視聴できないものが多かった。3日間にバラして、時間帯もずらして開催して欲しい。
※	商談会としてしまうと、尻込みして参加しにくかったのではないだろうか。また、Remoが使いにくく、もっと使いやすいツールを開発してほしい。
※	やっぱり企業のヒトの話も聞いてみたいなと思いました。
※	参加していない
※	大学のネットワークを介するとRemoに接続できなかったので、学外にいる時にしかアクセスできず残念でした。
※	Remoの機能が良くわからないまま参加して、少しトラブルがありました。使い方のマニュアルが必要だと思いました。
※	展示会場で実機を見ながら議論できる方が良い部分もあるが、一方で、同じ展示に興味を持つ他の研究者が当該技術や機器にどのような感想を持っているかを聞く機会が増え、参考になった。
※	商品がないので、会話が進まない。
※	オンライン企業展示はほとんどが少し物足りなく感じた。バイオテクセミナーは良かったので、企業展示もできれば発表の形式で実施されてはどうか。
※	オンサイトでは空き時間にフラッと企業展示を見たりしていたが、オンラインだと空き時間に別の仕事ができるのでなかなか展示を見に行く気にならなかった…。
※	今後、オンラインでも行ってほしい。
※	会場開催ならば覗くこともあったが、オンラインだと一切参加しなかった。シンポジウムやワークショップとつなげてしまうなど、工夫が必要だおもう。
※	オンサイトで不便を感じていた点の中でオンラインで解消された点があったが、オンサイトで当たり前になってきたことがオンラインではやりにくい部分もあった。
※	バグだと思うが、展示会場に入ると、自動的にどっかのブースに強制的に入室させられた。入る気のなかった企業ブースに入り、一対一での会話になってしまい、とても気まずかった。企業ブースは、知り合いがいるか、よほど興味がない限り、入室しない気がする。
※	録画はダメ。
※	コロナ禍において、今回の対応は致し方ないと思いますが、企業展示へ参加させる工夫があつてよいと思いました。
※	これは失敗だおもう。使い方がよくわからない。新製品等に興味があるし、試薬の使い方等をききたいが、聞けない。また、企業系の発表で3日目になっても、オンデマンドのリンクがアクティブになってなかった。工夫の余地がある。
※	展示はそもそも全く展示に対する配慮があったように思えず、これでは今後協賛が激減するのではないかと懸念してしまう。オンサイトでも展示会場への誘導は必ずしも十分でなかったところに、今回の展示は致命的にその視点で組み上げられているように思えなかった。
※	Remoによる入室がどのような状況になるのか、あらかじめ知っておきたい。軽く見学のような形も可能だったのかどうか
※	普段の研究室から展示にいけたので、ちょうど今したい研究で欲しい試薬の問い合わせがすぐにでき、よい製品の購入につながったのは良かったです。しかし、Remoで展示室に入室した時に、いきなり企業の席に配置されてしまうことがわかった後、入室を躊躇するようになってしまいました。おそらく、休憩所をうまく利用しなければいけないのだと思いますが、そのあたりがよくわからなかったです。
※	オンライン企業展示会は素通りしながらチラ見するのがよいのに、蟻地獄のように待ち構えるブースにわざわざ入るのは障壁が高すぎた。
※	参加者が少なかったため、自分は思ったように話せたが、企業さん側からしたらメリットは少なかったはず。今後オンライン開催には協賛してもらえなかったら、どうしよう。。

質問12. オンライン企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて（要望・その他）

回答者 番号	要望・その他記述
※	オンラインではぶらぶらできないので行く気が出なかった
※	大失敗だったのではないのでしょうか。企業展示会の面白さは、本屋に入って幾つもの知らない本を手取るような楽しさの部分にあるのに、今大会のオンライン展示会では予め見たいと思う会社のサイトの決まった広告を見るだけで、何一つ未知の喜びに出会う楽しみを見出せなかった。
※	参加していないのでコメントできません。
※	どこから見に行ったらよいかわからなかった。何かを買う目的ではなくふらっと見に行きたかったが、「商談」と書かれていてハードルが高いと感じた。無料サンプルとか抽選会とか毎年楽しみにしていたが、オンラインだとそういうイベントがなくなって悲しかった。書籍とかもって見たかった。
※	気軽に参加しづらいと感じました。オンサイトの時は、企業展示に少し立ち寄ってお話を聞いて帰ることもありましたが、オンラインだと途中で抜けにくいのではないかと思い、時間的拘束を気にして参加しづらかったです。
※	オンライン展示が、別にログインする必要があり、ハードルが高かった。これまで企業展示は、明確な目的がなくても、流しで製品を見る＋サンプル品を貰う、という目的を達成できたが、それができなかったのも、入る意味を感じなかった。見たい製品が決まっている単なる商談なら分子生物学会は不要で個別に連絡を取れば良いので、出展企業にもメリットがなさそうに感じる。企業展示も「出会いの場」であることを意識したやり方が必要に思う。
※	目的の企業ブースにたどり着くまでのステップやクリック回数が多くて面倒だった。多くの人が途中で離脱したのではないかと予想します。大幅な改善を行わないと、出典企業がかわいそうです。
※	参加していないので、回答不可
※	バイオテクノロジーセミナーが定員オーバーのため参加できないという事がなく、良かった。
※	シンポジウムやワークショップといったセッション間の時間的余裕がなく、展示会などに参加することができなかった。

質問13. MBSJ2020 Onlineの視聴サイトや、各種マニュアル・リハーサル機会の設定といった事前の対応、当日のトラブル対応など、オンライン年会のサポート体制についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	タイムテーブルで演題の詳細を確認後、戻るボタンをクリックした際、その日程全体のタイムテーブルの画面に遷移しなかったのは不便だった。演題検索機能に、詳細検索機能(日付選択や演題形式選択)などのソーディング機能をつけて欲
※	視聴サイトは大変わかりやすく、助かりました。一方で1日目のポスター発表序盤はページに全く繋がらなくなったり、今日もタイムテーブルにアクセスできなくなったりといった問題に遭遇しました。
※	聴衆として参加した発表の中では、発表者のスライド全画面表示がうまくいかなかったり、発表者の接続が突然切れる(再起動?)などのトラブルが複数見受けられた。いずれもリハーサルでの事前チェックにより回避可能であったように思われるが、当人がチェックを怠ったのか、あるいはあまりにも参加者が多いことによる当日限定のトラブルなのか、検証が待た
※	HPで、posterや発表演題を探しにくさを感じた。
※	基本的に使い勝手がよくない。いつものように冊子のプログラムを作ってほしかった。
※	毎年分生はとも楽しみな学会なのでオンラインでも開催して下さって面白い話がたくさん聴けて本当に良かったです。ありがとうございます。
※	参加、視聴するにあたり、最低限のネット環境やシステム環境の整備が必要かと感じた。
※	検索画面からポスターやzoomに直接リンクされておらず、使いにくかった。また、一旦zoomにログインしないとポスターの混み具合(参加人数)がわからない、ポスター説明中に訪問された方を認証する手間は不便、ポスター発表時、特に初日の13:15-13:30頃に通信状況が悪く説明が行えなかった等、不満が残った。他の学会も同じだが、ポスターとオンライン学会は現在のところ相性が悪く、工夫が必要なようだ。
※	スムーズなアクセスが難しかった。
※	ブックマーク機能(星マーク)は機能していなかった
※	たまにサイトが落ちる時があるのが非常に問題だと思います。
※	参加証明書の入手方法がわからない
※	Twitterでの情報が不足だった(ただいま回線が混雑している、などの情報があつたら良かった)プログラムのサイトが見ずらかった。(戻るをすると日付がリセットされてる、ポスターのページの演題から直接PDFに飛べない)
※	サイトに接続しにくくなることもあり、システムの不安を感じます。
※	初めてのオンライン開催にしては、よく運営されていたと思う。細かいトラブルは今後の運営に生かして欲しい。
※	接続がわるい
※	カスペルスキーが邪魔して、Zoomのボタンが表示されなく、原因が分かるまで参加できなかった。
※	フォーラムの説明文も検索できるようにしてほしいです(フォーラムの発表者が検索で出てきません)
※	特になし
※	時間帯になるとプログラムサイトが重く移動がしにくかった。スライドの共有がうまく行っておらず見えなかった発表があっ
※	発表者のマイク音量が小さいときは、誰かが教えてあげるべき。
※	色々なセクションのポスターや要旨を見たいとき、一度戻ると1日目の最初のページになる点が使いつらかった。
※	この学会でのZoomの使い方がよくわからず、「参加者用Zoomマニュアル」のPDFを見つけるのに手間取りました。視聴サイトのリンクをたたくとTime TableやSearchなどのページに入るので、その左側のカラムにZoomの使い方のPDFリンクが張ってあるとわかりやすかったと思います。
※	同じ時間帯の別のセッションに移動する手間が面倒に感じた
※	facebookの詳細が配置的に邪魔でした。
※	ポスターページへのアクセスができず、かなり時間を消費しました。できればブックマークした講演は個々の発表のサイトへのURLをつけた状態でGoogleカレンダーへの同期などをしていただけると、通知機能で漏らさず視聴できること、アクセスが集中するポスタートップページを介さずに直接個々の発表のサイトにアクセスできるため助かると思いました。オンライン開催に限らず、現地開催でもこの機能はあると助かります。
※	オンライン要旨システムは少し使いつらかった。タイムテーブルについては3日目を見ていたのに画面を戻ると1日目の画面になっていたりと細かい仕様が使いつらかった。
※	通信上のトラブルは想定されていたと思うが、臨機応変な対応がありスムーズであったと感じました。
※	Webページが重い時期があった(ポスター発表が始まった時間帯)。
※	オンラインでのタイムスケジュールが非常に見づらく、ポスターに関しては最悪だった。特に事前に演題を探す作業に多大な不満が残る。具体的には、タイトルに行きつくまでのページが多く、またページを戻った時には初期状態になってしまい、日付選択からやりなおしであった。来年も全く同じ形式であれば、参加を見送る可能性が高い。参加した場合、ポスターはポスター演題にも検索機能が欲しかったです。全体の演題数も多く、興味のある発表を網羅的に探すことに時間がかかってしまいました。
※	MBSJ2020のサイトで、検索結果からzoomIDまでたどりつけないのは、不便だった。検索結果画面からセッションやポスターのzoomIDも表示できるようにしてほしい。
※	初日に、ポスター発表に参加しようと試みたが、40分程度入ることが出来なかった。大変だとは思いますが、今後はこのようなことが課題かなと感じます。
※	初日のポスターセッションで奇数/偶数の発表順が前もって発表されていたものと異なり、戸惑いました。どちらが正しいにせよ、訂正のコメントはいただきました。
※	快適なオンライン環境が整備されていました。どのようなヒトがどのように苦労されて実現したのか、後学のために教えてほしいと思います。
※	ポスターセッションのページが少し見にくかった。多くの(~50とか)ポスターのタイトルを一覧で表示して、興味のあるポスターを見つけられるとよかったが、そのような機能は見つけれなかった。
※	司会者によっては、当該の視聴サイトの運用方法を十分に把握していなかったり、オンラインミーティング自体に不慣れな様子が見えたりしたので、事前準備にはもっと手間暇をかける必要があったと思う。
※	セッション開始に合わせて視聴サイトへログインしようとしたが、当初できず、事務局に連絡して解決できた。事務局の対応は適切だったが、一度トラブルが生じると解決にどうしても時間がかかると感じた。
※	視聴サイトが開かないことがあった
※	運営の方には非常に感謝しております。ポスターは要旨をみるとポスターを見たくても戻れないなど、使用導線には疑問は残りました。聞きたい講演、ポスターを探すのに通年よりも苦労しました。検索方法が変わったのではないのでしょうか。

質問13. MBSJ2020 Onlineの視聴サイトや、各種マニュアル・リハーサル機会の設定といった事前の対応、当日のトラブル対応など、オンライン年会のサポート体制についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	・プログラムで演題を選んだ後にもとに戻ると最初に戻ってしまう。後ろの方で演題を選ぶとどこにいたかわからなくなる。クリックした時点に戻るのでなければ別ウィンドウで表示して欲しい。・職場と自宅の両方で視聴する際に、前日にMBSJ2020をログアウトしないと重複のためかログインできない。事務局の素早い対応には感謝するが、事前にもっと注意喚起して欲しかった(自分の不注意を棚に上げてすみません)。
※	ポスター発表が始まる前がとてもしばしばサーバーが重く、なかなか接続できなかった。
※	視聴サイトのポスター発表のページを開くと、デフォルトが学会初日になっていてストレスを感じた。ポスターの抄録を開くと、戻るの機能がなく、学会初日の発表一覧のページになる等。
※	Abstractの画面にZoomやOn Demand視聴へのリンクがないことが不便です。
※	Session後のチャット機能で、deviceによっては音声のミュートが解除されずつながらなかった人が一定数いたようです。原因はわかりませんが、システムトラブルの可能性はありますか？
※	ブックマークから直接ポスターが見られるところに行けないのが不便だと思った。ブックマークのリンク先に飛んだ後、元のブックマークに戻ると先頭が表示されるのが不便だった。
※	もう少し早め(年会プログラムが送付されたころ)に、シンポジウムやワークショップの講演者と演題、要旨がわかるようにしてもらおうとよかった。
※	ポスター発表に参加したかったが、キーワード検索とか著者名検索の仕方が分からず、諦めた。
※	初見の人がどこでつまづくのか、予めテストをした方が良いのではないかと。3日間使って、徐々に慣れたが、あまり使いやすいシステムではなかった。
※	ポスターセッション開始時間前から繋いでいてもつながりにくかったこともありましたが、つながってからはトラブルなくきちんと聞けました。事前に聞きに行くつもりでお気に入りの☆マークをポスターにつけたのですが、ブックマークされなかったので結局当日毎日探す羽目になったのは不満でした。
※	毎回HPの右上にSNS画面が表示されるのが見にくくて困った。一度詳細を閉じるボタンを押しても次のページに移るとまた見えてしまう。
※	ブックマークに入れたポスター演題のポスターを直接見るができないのは、仕様ですか？
※	ポスターの演題一覧がないため、興味のある演題を探すことができず、どこかに一覧があるのか事務局に問い合わせたが、回答は全くなかったため、結局ポスター発表には参加できなかった。
※	BookMarkはもっと改良できたと思う。ページは長さで切るのではなく、1日ごとに切った方がよい。どうせ手元のPCでスクロールできるので、ページがいくら長くてもよい。また、以前の年会アプリであったように、現在時刻の線がタイムテーブルに表示されるとわかりやすいと思った。
※	1つのアカウントでログインできる数に制限があり、他のPCで使用する場合には、前回使用していたPCでログアウトすることが必要になる可能性などについて事前に周知して欲しかった。
※	数千人規模でのリハーサルは難しいので、アクセスが殺到して繋ぎにくくなったことは運営の責任ではないと思います。ただ視聴サイトについては、ポスターの要旨のページにzoomへのリンクがない、セッション概要ページからtimetableに戻るボタンで戻れないなど不便な点が多かったです。
※	視聴サイトの重さがきつかったです。
※	サポートの担当者によって、対応がばらつきがあって、それによってトラブルの対応力が変わるので、最低限のマニュアルを徹底したほうがよい。
※	細かい操作上の点で不満がありましたが(戻るボタンでうまく戻れない、要旨のページからzoomに入れられないなど)、概ね問題なかったと思います。
※	通信環境の改善が必要と感じたアクセスに時間がかかった。
※	ポスターが小さいので見づらいのと、各セッションに番号を記載して頂けると見やすい。
※	参加してないのでわかりません。
※	アクセスが集中したのか、時折、開始時間につながらないsessionがあった。
※	全体スケジュールと個別の要旨サイトの行き来がスムーズではなかったので工夫が必要かと思う。
※	ひとつのポスターから次のポスターに行くときに、Webブラウザではやりにくかった。
※	一部REMOだったのがわかりにくかった。また、事前のメール配信が多すぎ、なにが重要で何が重要でないかわからなかった。
※	・Zoom設定を細かく支持していただいたので難なくこなせた。ただ、周囲に本会への参加者がおらず、本当につながるの、発表間際まで不安だった。
※	発表者への連絡がくるのが遅すぎたと思う。コロナの影響で運営の大変さも非常にわかる場所ではあるが、webに記載されているにもかかわらず、発表者への連絡には書かれていないことも多々あった。
※	他の学会(日本血液学会、日本癌学会など)のweb開催に比べて、web操作の使い勝手が極めて悪かった。たとえば前日まで個人の抽象集を作ることが出来なかった、日程表から目的のセッションに行く場合に、日程表が固定された日に戻ってしまう。当初はポスターの一覧がlate-breaking abstractでされておらず大変見にくかった、など4月以降多く参加したweb開催で最低の出来でした。参加費が低く抑えられていたから値段相応なのかも知れませんが、。
※	ポスター発表の時に、先に偶数番のヒトを指定してたけどあれはまちがいですよね。2日目そのままでしたが。
※	参加しなかった
※	利用していない
※	会期中の忙しいなか、こちらのトラブルに対処いただき感謝しかありません。
※	zoom発表時に、自分の発表の際にはタイマーが見えなかった。
※	検索からはポスターのPDFファイルが見られなかった
※	視聴サイトのうち、演題の保存機能が非常に使いにくかった。星を付けた演題をタイムテーブル形式で見られるようにしてほしい(セッションごとの表示ではなく、セッション間を行き来することも多いため時系列で表示したい)。また、タイムテーブルから一覧に戻ると、当日のタブに戻ってしまう。演題に目星をつける際にいちいち日付のタブを押すのはものすごく
※	視聴自体は悪くないが、検索エンジンやZoomにつなげるところのサイトがここ数年で最悪といってもいいほど、使いづら
※	自分のポスター発表を本当に開始できるのか、その時刻になるまでわからず不安だった。
※	・タイムテーブルからセッションに入った後にタイムテーブルへ戻ると、閲覧していた日付12/3のタイムテーブルではなく、閲覧している日付12/2のタイムテーブルに戻ってしまい面倒だった。・ページ全体の動作が重かった。

質問13. MBSJ2020 Onlineの視聴サイトや、各種マニュアル・リハーサル機会の設定といった事前の対応、当日のトラブル対応など、オンライン年会のサポート体制についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	自身がオーガナイザーを務めるWSで、共同オーガナイザーがパネリストとしてログイン出来ない事態が生じ、WSの開始が僅かに遅れるなどの問題があった。
※	オンラインページを見た際に右上に出てくる学会事務局からのコメントが邪魔で、ページを移動するたびに「詳細を閉じる」を押さないといけなかったのがとても煩わしかった。
※	サーバーが貧弱なのか、いちいち表示に時間がかかりストレスだった。
※	不参加のため特になし
※	zoomでの口述発表に関して、事前確認時間があり、大変よかった。当日、発表者ツールが使えない、スライドが重たくて動きが悪いなどのトラブルに対して、どう対処していいのか困ったが、あとはスムーズにできた。
※	ブラウザから毎回ログアウトしないと、別のデバイスから入れないことに当初気がついておらず、苦勞した。複数項目で絞り込める高度な検索機能がなかったのは不便であった。
※	タイムテーブルの時間欄が狭いため、特にバイオテクセミナーが分かりにくかった。またポスター発表はもう少し表示を工夫してほしいと感じた。
※	オンラインプログラムがとても使いやすかった。名前やキーワードで検索して、口頭発表・ポスター発表が見つかって、そこから直接発表のサイトに移動できるようになっていると良かった。
※	対応ブラウザが限定されることと、facebookの掲示位置や掲示方法が良くない。
※	ブックマークへの登録ができないなど、前年からサイト作成に関しては不満がある。外部委託業者の変更・改善を希望す
※	参加していない
※	全体的にわかりやすかったが、bookmark内のポスター情報から実際のポスターを見に行くまでの間の道筋には改善の余地があると感じた。
※	視聴サイト右上のfacebook表示が邪魔だった
※	聴衆として参加した場合はタイマーが見えていたが、発表者の際にはタイマーが見えなかった。できれば、発表者にもタイマーが見えるようにしてほしい。
※	2日目以降の発表を検索した際、ページを戻ると1日目の演題に戻ってしまったり、各項目ごとの演題が数個ごとにしか表示されないため全体の演題をオンラインでざっと見て探すが非常に難しい点に不満を感じた。また、オンラインでは聴講者数が少ない時に発表の途中で説明を抜けることが難しいと感じた。
※	ポスターの要旨を表示するところにポスターも一緒に見れるようにしてほしい
※	2.に関して。i) 総会でも議論されたが、サイトが上手く表示されなかったり、bookmarkへの登録が反映されなかったりした。ii) ポスターが3個ずつしか表示されなかったのが使いにくかった。iii) Bookmarkや検索結果からポスターを表示できず、ポスターの一覧から探さないといけないのが使いにくかった。
※	マニュアルが複数に分散していて、非常にわかりにくかった。また、ポスター発表に関しても紙媒体もしくは印刷できるような要旨集が欲しかった。ブックマークしたものだけしかPDF化できず、企業としては個人が代表として参加するため、他の人が興味をもつ内容を聴講するのに不便であった。
※	参加していないので視聴していない。
※	シンポジウムなどは問題なかった。ポスター発表のサイトが開始時刻直後は重くて入れなかった。また、お気に入りに入れたスケジュールサイトが、戻るたびに初日に戻ってしまうなど、使い勝手は改善の余地があった。
※	ポスターセッション部分は使いやすかった。お気に入りからポスターのPDFにいければよかったと思います。また、3枚ずつ表示するよりは、題名を一覧にしてくれた方が見やすいと思います。
※	運営側のサポートは完璧でした。最終日にFacebookに運営の皆さんの集合写真が掲載されたのがとても良かった。「裏方」で活躍されている方々の顔が表に出てくることは、とても大切だと思う。で本当にありがとうございました。
※	視聴サイトに戻るボタンがなく、ブラウザの戻るボタンを押すと日程選択まで全て最初に戻ってしまうなど不便さが気になった
※	サポートは良かった。運営自体は非常に苦勞して実施したことが良くわかり、短い期間でよく準備できたと思う。その一方、学会運営サイトの出来が非常に悪い。・ブックマークしても反映されないことがある。・演題の検索が手間など、数え上げればきりが無い。
※	タイムテーブルは分かりやすく利用しやすかったです。視聴会場への入り口はもっと目立たせてもよいのではないのでしょうか。特設ページへの入り口の方が目立っているし、登録ボタンと同じサイズなので押し間違いそうになりました。また、ポスター発表のところで、タイトルをクリックして要旨を確認したあと前の画面(その発表区分のポスター一覧)に戻ろうとすると、ポスターセッションの大区分(1a~)のところまで戻ってしまうのが大変不便でした。
※	当日サイトにつながりにくかった。日程表が扱いにくい。例えば、ワークショップで聞きたい発表をブラウザのタブで開いて、アブストを比べる等ができなかった。ブックマークの不具合があった。初日に全ての項目になぜかブックマークがされてしまい、解除するのに苦勞した。例えば、全てのブックマークを解除する等のコマンドがあったもいいと思う。総じて、サイトの構造と繋がりが悪い。オンライン開催での最大のメリットが薄れたように思う。検索機能を含め、サイトの工夫が必要。
※	ポスターのプログラム(ポスター発表リスト)のPDFが欲しい。
※	下にも書いたが、検索能力、ポスター・展示に対してUIがよくなかった。
※	今回推奨されていたZoomやgoogle chromeが、社内セキュリティシステムの都合で、社内環境では使用しにくく、準備に時間を要した。また、社内ではZoomが使用できないことから、当日は在宅勤務にて学会に参加した。準備段階で事務局に相談した際は丁寧に対応いただいた。
※	視聴サイトと、MBSJサイトのログインを統一してほしいです。いちいち名前とパスワードが違う状態では混乱します。
※	視聴サイトのUIがかなり不便だった。例えば、リストから気になる発表をクリックしたあとにリストに戻ったときに、リストのトップに戻ってしまった。また、表示ページによってはZoom・ポスタープレビュー等へのリンクがあったりなかったりした。
※	ポスター開始時、重たい。ログインできない。
※	オンラインでの学会で続くのであれば、退会も検討したい。
※	参加していないので分からない
※	タイムテーブルから個別のセッションをクリックしなくても、各日の演題・演者が一覧で見られるようになっていて、便利だったかなと思いました。

質問13. MBSJ2020 Onlineの視聴サイトや、各種マニュアル・リハーサル機会の設定といった事前の対応、当日のトラブル対応など、オンライン年会のサポート体制についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスター番号はとカテゴリーがわかるように設定していただきかった。検索してもポスター番号しか出てこず、いざ視聴する時にはポスター番号からは入れないというのは厳しかった。聞きたいポスターセッションが本番で機能していなかった。zoom設定不備でミーティングが開始できない演者に対して年会側でしっかり把握すべきで、1時間もの時間があるわけですので、その旨演者に伝える措置があっても良いかと感じた。
※	視聴サイトにて、お気に入り登録したポスター演題をクリックした際に、そのポスターPDFを見れるようにして頂けると、スムーズにPDFを開覧できたと感じる。
※	視聴サイトが少し使いづらく感じました。検索の際、興味のあるポスターを見つけたとしてもそのポスターに直接飛べないのは使いづらかったです。zoomリンク、要旨だけでなく直接そのポスターを見に行けるようにしてほしいと思います。
※	サーバーに繋がりにくいことなどもありましたが、大型のオンライン学会としてとても充実したものでした。
※	ブックマークで演題一覧やポスターの種別一覧にある「次のページへ」ボタンが分かりづらく、存在に気づいたのは会期3日目の朝だった。
※	オンラインなのに、事前参加登録期間が直前までになっていないことは大いに疑問。
※	発表者側のトラブルがしばしばありました。面倒ですが、事前テストがしていなかったように感じました
※	ポスター発表開始直後のみ、視聴サイトが繋がりにくい状況であり、聞けるポスターの数が減ってしまいました。
※	要旨と視聴頁が分かれている点、前後の講演や前のページに戻りにくい点、などプログラムページの作り方に不満が残った
※	何度も接続が重くなったり落ちたりした。おかげで聞きたかった発表が聞けず、正直、お金返して!と思った。
※	ワークショップで発表させていただきましたが、発表時間がわからなかったのが残念でした。
※	zoomを使った大学の講義ではトラブルが多発したので、心配していたが、どのような工夫により、完璧な運営ができたのかが知りたいです。高額なシステムだったのでしょうか。分子生物学会用に準備された特注品なのでしょうか。善意の性善説による管理は今回は成功したかもしれませんが、悪意のある見方、攻撃には無防備のように思います。想定していた対策も教えて欲しいと思います。
※	例年と比較して、サイトが使いにくい。検索などもしにくい。
※	ポスター関連のリンク構造がわかりにくく、「戻る」が聞かないのが不便だった
※	人名・キーワード検索から各セッションへのリンクがわかりにくく、より細かなリンクがあると良かった。
※	オンライン視聴で良かった点は、・普段は会場が満席で聴けないような発表が聴けた事。・パソコンを2台以上使うと、同時帯の発表を同時視聴が出来る事。オンライン視聴で悪かった点は、・臨場感がないので、話が頭に入りづらい事。だと思
※	検索機能を使ってポスター発表を検索すると、発表要旨は閲覧できるがポスターを閲覧できないことに不便を感じた。
※	慣れてしまえば使えるようになるのだが、運営側の問題というよりもシステム上、使いにくさは仕方のないことと思う。
※	ポスターの閲覧がブラウザによっては見えないのを二日目に初めて知った。
※	分子生物学会のような巨大会では、場所移動だけで時間を使うので、オンラインで検索して会場間を「瞬間移動」できること自体にはメリットを感じる。コロナに関係なく、育児や講義などで出られないときの手段としては有用だ。しかし、質問がしづらい、偶然の出会いやネットワークが作りにくい、ポスター発表や企業展示でのコミュニケーションのハードルなどのデメリットもあった。デメリットは参加者のITリテラシーや、ツールの使い方改善できる可能性があるため、どのように誘導すべきか、メディアコミュニケーション(?)の観点から可能性を探ると今後の発展に繋がると思う。
※	ポスターなどの日程を見て、一つ前に戻りたい場合でも初日の最初のページに戻されるのは、とてつもなく不便でした。ポスターのリンク作成など、うまくできていなかった人が多いと感じたので、わかりにくかったのではないかと思う。
※	評価できるほど参加していないので、回答不可。ただ、参加した限りでは、特にトラブルはなく、不満もなく、初めての試みなのに、非常によく運営されていると感じました。
※	発表準備の情報が逐次的に公開されて、混乱した。公開したことを告知してくれないと分からない。サイトは、例年よりも圧倒的に使いにくかった。ポスターの偶数が前半とアナウンスがあったり、接続しにくいのに何のアナウンスもなく、困った。サイト右上のポップが、ポスターの検索ボタンに重なったり、毎回毎回開くので邪魔でしようがなかった。
※	全体的にとてもしっかりサポートしていただきました途中で接続が不安定であったり、ログインできなくなったりといったトラブルもありましたが、はじめての試みなので仕方ないかと思いました
※	検索結果から「ポスターの流し見機能」に直接繋がらず、ポスターの項目から「ポスターの流し見機能」に入るのが、少し使い辛かった。
※	ポスターを探すのが少し手間取った。
※	発表者のパワポが発表者ツールのまま視聴者に表示される、といったトラブル時に、オーガナイザー・運営側の対応をマニュアル化しておくのが良いと感じた。またトラブルに備え、事前に念のため運営側にパワポまたはpdfファイルを送っておくのも一案かも知れない。
※	ポスターの閲覧がしにくかったです。クリックで次々ポスターが見られるとよいと思いました。
※	視聴サイトに行き着くまでの道筋がわかりにくかった。サイト変更のアナウンスの場所がわかりにくかった。

質問14. 年会終了後の約1週間、すべての一般演題ポスターデータ閲覧と一部のシンポジウム・ワークショップ講演視聴を可能としたことについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	前述のように短い口頭発表と化している影響で1クール中に2・3ポスターしか聞けないことが判明したため、ポスターの公開はとて有難いです。
※	シンポジウムで時間が重なっている興味のある発表について、後に確認できるのはありがたい。
※	フォーラムもオンデマンド視聴可能にして欲しかった
※	来年はzoomでなく「対面がやはりいい
※	これまで、何千もあるポスターが日替わりで、時間的な制約からなかなか興味ある発表をすべて見て回るということが難しかった。時間的・空間的制約がないオンラインだからこそ、視聴・閲覧期間の大幅延長は当然に積極的に進めるべきだとシンポジウム・ワークショップについては、全てを可能としてほしかった。
※	全シンポジウム・ワークショップ講演で視聴を可能にすべき
※	事後視聴することでこれまで以上に多くの講演を聞くことができた。特に過程、その他の都合で全期間参加できない人にとっては大きなメリットで今後も続けてほしい。オンデマンド可とする講演が半分程度だった。この率を上げることが大事だとポスターデータは会期中だけでいいと思う。普通に怖い。オンデマンドで見られるのはとてもありがたい、オンライン学会の良さだと思った。
※	シンポジウム・ワークショップ講演を全てオンデマンド配信してほしい。
※	配信なし・ライブのみの発表が重なった場合、興味があるすべての口演を閲覧できないことは非常に残念である。
※	ポスターの記録を許可するオプションがほしいです。
※	海外の学会で、一部を「事前(1-2週間前)」に公開していて、事前に関覧が可能というケースがありました。その間に各自で視聴しておき、学会当日はQAセッションがメインという形でした。発表できる内容に制限が生じるかもしれませんが、トークが活発になりディスカッションも深まり非常に勉強になったので、そういう方法も良いかと思います。
※	どうせならすべてのシンポジウム・ワークショップの講演視聴かスライド閲覧を可能にしてほしかった。
※	ポスター発表も含めて、閲覧可能かどうかを発表者が選択できるようにするのが良いと感じた。
※	閲覧可能な演題を増やしてほしい。
※	ポスターpdfを開けない演題が幾つかありました。特定の研究室のようですが、大変不公平感を感じました。わざとuploadしていないのか、それともHPの不備なのか判断が付きません。ポスター発表前にあらかじめ予習しておけないし、非常によくないです。ただ、学会終了後1週間もポスターが公開されると聞きました。それは良くないと思います。(学会前に事前承諾を問われていなかったと思う。思い違いならすみません)
※	全演題を後日も閲覧できるようにしてほしい
※	発表の時間が重なってしまって聴き逃す問題を回避する、オンラインならではの良い取り組みだと思います。
※	オンライン形式では未発表データが出づらい
※	ポスター発表者で1時間くらいフルに説明した方がいました。内容は面白かったのですが、他の演題に全くアクセスできなかったです。ポスター発表にも座長さんを付けてください。
※	参加してないのでわかりませんが、そもそも全てオンラインで行うことに反対です。
※	同時時間帯で聞けなかった講演を視聴することができた点、②倍速で時間を節約することが出来た点は、非常に良かった
※	聴衆としては便利ではあるが、演者としては未発表データの盗用の恐れを感じた。
※	学会後の公開期間がいつまでか学会のホームページ等をもて確認できなかった。12/8のメールで1週間とした。各種掲示が不十分だったように思われる。それから当初は半分以上がオンラインで視聴できるようにするとアナウンスされていましたが、実際に公開された演題数は少数に留まっているように思われます。
※	参加しなかった
※	もっと事後視聴できるものが多い方が良い
※	なぜポスターについてののみ「すべての演題を終了後も閲覧可能」とするのかよくわからなかった。今回は、その部分がネックとなり、発表を見合わせた。
※	視聴可能にしたおかげで、未発表データを本大会で発表するのが難しい。また、視聴可の期間は大会期間に限定した方が、年会の価値が上がると思う。
※	不参加のため特になし
※	今回はリアルからオンラインへの変更が急遽決定され、オンライン年会のノウハウも蓄積していないので致し方ないが、視聴期間の延長やパラレルに行うセッション数減等は検討の余地があると思います。
※	複数の興味あるセッションが重複しても、オンデマンド視聴できるのはとても良かった。
※	公開視聴許可を学会直前まで受付けてもらえれば、もっと閲覧視聴可能な演題が増えたのではないかと。
※	事後配信のために、未発表データを話しにくい面があったと思う。
※	閲覧できないシンポジウムが多い。もっと増やしてほしい。閲覧しようとしたらアクセスできないものが多々あった。
※	シンポジウム・ワークショップの講演視聴がなぜ一部なのか？講演者に視聴可能を判断させるなら、ポスター発表を含めて全発表者にオンラインで開示するかを判断させるべき。少し不公平に感じた。
※	やはり、unpublishなdataの取扱いがonlineでは悩ましい。
※	シンポジウムやワークショップの講演の中で、後にオンデマンド聴講できるものが極めて少ない。基本すべてを閲覧できるようにしてほしい。
※	年会開催の期的に忙しいので、1カ月間は閲覧可能としてほしかったです。あるいは、可能かどうかわかりませんが、まとまった時間を確保できたときに3回までワンタイムパスワード入力で視聴可能などのルールがあればいいでしょうか。
※	よかったと思うが、オンデマンド対応の動画の数が少ない。タイムシフトのためや、分生の性質上パラレルセッションが多いことを考えても、オンデマンド配信があることはオンラインの大きな利点であり、オンサイトの学会に対する強いメリットである。例えば、オンライン配信したくない部分をカットするなどしても、なるべくオンデマンド対応するべきである。
※	フォーラムも視聴したい
※	そのようなことが可能であると知らなかった。
※	参加していないので分からない
※	1週間は短すぎますね。複数がかぶっていたらその分、時間をかけてみないといけないわけで、最低でもまとまった時間の取れる年末年始までは公開してほしいです。
※	1週間視聴できることをこのアンケートで初めて知った
※	悪用される恐れはないのでしょうか？

質問14. 年会終了後の約1週間、すべての一般演題ポスターデータ閲覧と一部のシンポジウム・ワークショップ講演視聴を可能としたことについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	一般演題も学会終了後の閲覧視聴を可能にするか否かを選択できるほうがよいかと思います。
※	・事後視聴でも、オンライン時と同様、演者の姿を見せてほしい。・発表資料の保護(不正に複写・撮影の防止)対策はしっかりしてほしい。
※	終了後も視聴できたことに気づかなかった
※	利用したいが、時間がないので、期間を延ばしてほしい。
※	結局、会期終了後はなかなか見ない。しかし、同時間帯に重なり見逃したセッションを見直せるのは有り難いです。

質問15. MBSJ2020 Online視聴のためのツールのうち、よかったと思うものについてお聞きします <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	プログラムの閲覧機能ですが、1つでも戻ると最初からまた探さなければいけないのは不便でした。ポスターを会期中に閲覧できるのは、便利で助かりました。口頭発表の方の資料もあとよかったです。
※	他の学会でのポスター発表は、テキストベースの質疑応答で非常に虚しかったが、Zoomでのコミュニケーションは良かった
※	ブックマークとタイムスケジュール表の連動をしてほしい。例年用意していただいていたアプリのほうが使いやすかったので合体させてくれたらかなり楽になる。
※	ポスター視聴サイトが非常に重い。拡大しないと見ることができないので、流し見することはできない。
※	特になし
※	ワークショップ・シンポジウムについて大きな不満はなかった。ただポスターセッションに関しては、なかなか「気軽に話を聞きに行く」というのは難しいと感じた。みんなが一斉にプレゼンを始めるので、結局ごく少しの話しか聞けない。ならばリアルタイムのプレゼンではなくツイッター的なオフライン議論に力点を移したほうが实际的ではとも感じる。
※	ポスターセッションをzoomシステムメインにしたのは良くなかったと思う。チャット形式であれば知らない人・気になったポスターに気軽にアクセスして質問できるが、いきなりzoomから入るのは抵抗があった。ウインドウショッピングのように、オンサイトのポスター会場では気楽にポスターを閲覧して発表者に軽く声をかけたり、思い切り詰め寄ったり、のめり込み具合を調整できるが、zoomメインのオンラインではこれができないと思う。
※	要旨閲覧機能は、ざっと眺められる従来の要旨集の電子版があるとよかったかと思えます。
※	ポスター流し見機能は更に多くのポスターを見ることが望ましい。項目毎に何枚のポスターがある川刈るようにしてほしい
※	要旨のページからポスター本体へのリンクがあったらよかったと思う。
※	ポスターを見る機能が使えなかった。当方、MacからSafari、Chrome等を試したがエラーが出て、ポスターが見られなかった
※	ポスター流し見機能は軽快に動けばよかったと思うが、重くて閲覧のストレスが大きかった。検索結果からzoomのリンクへ飛べるとよかった。ポスターごとにコメントを残せるようにしていつでも議論が出来るようになった。
※	閲覧済みの画面に戻る機能など、使いにくい点の改善を希望する。
※	・ブックマークがうまく登録されないことがあった・ポスターの一覧表示は、画面が小さく良く見えないので、あまりメリットを感じなかった
※	Q&Aボックスへの質問にお答えを頂いたのに、その場では感想もお礼も伝えられずにもどかしかったので、ダイレクトメッセージ機能を利用した。
※	ポスターを探して見に行く操作性があまり良くなかった
※	視聴サイトのポスター流し見機能(オンサイトの感覚で、ポスターのサムネイルをざっと眺め、興味のあるポスターを詳しく見ることができる機能これは、そこにいきつきにくく、サムネイルも小さすぎるため機能したとは思えませんでした。
※	非常によくできていたと思います！特にポスターセッションはオンサイトでの開催と比べて疲労度が激減して見やすさが抜群によかった
※	サムネールやアブストラクトを見るだけではだめで、実際のデータをチラ見したい。これはオンラインでは難しい。
※	6. に関しては使わなかったですが、あるとよいと思います。
※	特になし。
※	ポスターのサムネイルが3つしか見えなかったので、一度にもっと見えるようにしてほしい
※	使いこなせていないので回答できない。
※	5.視聴サイトのポスター流し見機能はうまく機能していませんでした。ポスターをクリックしても見れないものがあった。可能なら各ポスターの要旨ページにポスターのpdfを見れるようにリンクをつけてほしい8視聴サイトのプログラム検索・要旨閲覧機能では戻るボタンを押すと一日目のプログラムに戻ってしまう、など使い勝手の悪い点がありました。オンライン学会だと、これまで以上にHPの使いやすさが気になる。
※	Spatial.chat(講演終了後に講演者と議論できるトークルーム)は、慣れないせいか、何となく利用しにくい。
※	Spatial Chatは良い機能だと思ったのですが、参加者がほとんどおらず残念でした。ですが、初めてのオンライン開催で参加者の交流に様々な工夫がなされたことは素晴らしいと思います。
※	spatialchatが設置されることやダイレクトメッセージがメールで通知されることについて、事前にアナウンスがあるとよかったと思います。特にspatialchatについては、座長が事前に知っていれば参加を誘導する工夫ができたかと思いました。
※	企業スペースはSpatial chatを使った方がいいかもしれない。もちろん使い慣れていないと声が聞こえにくい等もあるが、Remoだと机に行くときすぐ担当者が話しかけてくるため困った。
※	特別良かったものはない。平均的。
※	参加してないのでわかりません。
※	良かったものはない。
※	参加しなかった
※	ポスター演題をトップから流して確認する際、興味のある演題について要旨をみて、再度一覧サイトに戻ると、ポスターの先頭に戻ってしまうため、不便を感じた。
※	特になし
※	全てのツールは、ほとんど最低限の機能のみで使いやすさが皆無であった。
※	特になし
※	よかったと感じたものはなかった
※	・オンライン要旨は非常に使い勝手が悪かったので、従来のアプリと紙の要旨が手元にあるといいと思った。・マイタイムテーブルは1セッションの1演題のみをマークしている場合でもセッション全体がタイムテーブルに表示されるため、複数のセッションにまたがって演題を行き来する計画を立てる上では参考にならなかった。オンラインは会場間の行き来の時間を省略できるため、このような視聴方法をやる人もいたと思うので、改善してほしい。
※	ポスター流し見機能に気づかず、事前に把握しておけばより効率的にpポスターを聞くことが出来た。
※	不参加のため特になし
※	特になし。
※	参加していない
※	特になし。
※	Zoomのみでの発表とこのことだったので参加を取りやめた。発表方法も発表者によって選択させてほしい。例えば、PowerPoint内容に発表を録音でWeb視聴(質問はchat形式や後日質問者にメールで回答など)という方法もあってもいいか

質問15. MBSJ2020 Online視聴のためのツールのうち、よかったと思うものについてお聞きします <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	トークのQ&A。
※	自分用のプログラム(時間割)作成ツールについて、セッションごとではなく講演ごとに時間割が作れると便利だったと思
※	質疑応答が文字だけというのは・・・?
※	ポスターの流し見機能、プログラムのブラウジングなどが今後さらに使いやすくなっていくことを期待します。
※	サムネイルを流し見できる機能があることを知らなかった
※	ポスター流し見機能これは、とにかく重かった。複数のブラウザのタブでポスターを開けるようにしてもらおうと助かる。アブス
※	Spatial.chatはよく機能していたと思われる。ポスター会場、展示会場、オンラインプログラムはかなりの改善を要すると思
※	視聴サイトのブックマーク機能がよかった
※	ポスター流し見機能があることに気が付かなかった。
※	ポスターの流し見がしにくかった。
※	プログラムが見づらかったです。例年のようにタイトルが一覧になっているものがなかったの、興味のある演題を拾うの
※	現場に行かないと通常業務から解放されず、全くほったらかしとなった。
※	参加していないので分からない
※	チャットは、機能的には良いのかもしれないけど使い方がよくわからなくて残念でした。
※	あまり深い興味は無いポスターのZoom Meetingに入って聴衆が自分一人しかいなかった場合に、演者(偉い先生)が延々
※	ポスターの見方の説明がなかったの、試行錯誤に苦労した。
※	ポスターは少人数なのでZOOMとの相性が良かったと思う。
※	自分のセッション以外参加できませんでした。
※	ポスターの流し見ができる機能が一番便利でした。顕微鏡写真を拡大したデータで見ることができるため、今回の学会に
※	特にありません
※	ポスター閲覧ページは一覧性がなく、後ろのページに表示された人ほど表示するまでのクリックが大変で発表を聞きに来
※	zoomはイマイチ信用できないので、他のシステムにして欲しかった。
※	bookmarkで個々のポスターが選べず、セッション全体が選ばれてしまい、自分の要旨集があまり機能的でなかった
※	視聴サイトのコメント機能が右の下の方にあり、気づかなかった。
※	ツールの中に検索システムがありとても役に立ちましたが、それだけでは全体像がつかめない気がする、昨年まで配
※	視聴サイトのポスターはもっと簡単に見られればよいと思いました。
※	Spatial.chatは面白いシステムだったが、私自身も周りの方々でもトラブルが多発していた。他の方法の方が良かったと思

質問16. 今後の年会の開催形式についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オンラインの方が様々な発表を聞くことが出来るため、オンサイトにはない利点があると実感しました。ただ、直接会って話をすることもとても大事であると思うので、ハイブリッド開催を上手いこと調整していただきたいと思います。
※	オンライン学会は出張の必要がなく参加しやすい、感染防止対策等、多くのメリットはあるが、セミナー聴講中や発表中にも通常業務が入り集中して参加しにくい、分子生物学会のような大きな学会では聴講や発表が通信状況に左右されるというデメリットがある。個室を持たない身分では周囲への配慮および周囲からの配慮が必要なので、オンサイトの方が集中して参加できる。また、オンラインでは新たな人間関係の構築、共同研究への発展などにハードルがあるように思われる。
※	3と4を隔年に行うのが良いと思う
※	興味のあるポスターを、オンラインで探せるのは便利だった。オンサイト開催になっても、会期中はこのシステムを使用した
※	オンライン、オンサインそれぞれ利点がある。一概に言えないが、発表の視聴は問題ないが、ウェットな人との繋がりをつくれぬ。
※	私のように診療業務と研究を並行している立場からしますと、オンライン開催は予定の調整がたやすく、非常に助かります。来年以降も、完全オンライン化を強く希望いたします。
※	基本はオンラインでいいと思う。サテライトミーティングをオンサイトで開催し、その状況をオンラインで流すのは参加する人にもしない人にも便利でいいと思う。
※	毎回、会場が大きすぎて、目当ての部屋にたどり着くまで疲勞困憊という感じだった。運動不足のおっさんにはきつ過ぎる。その点、今年は本当に楽にワークショップやポスター閲覧ができてありがたい。オフラインでないとできないことといえば夜の飲み会ぐらいだろう。一部の「パリピ」にしか享受できないメリットである。来年以降も完全オンラインでよい。メリット
※	オンライン開催では、自分の仕事と並行しながら聞きたい発表を聞けることに満足していた(2.3の他学会に参加してそう感じていた)。しかし分子生物学会のような巨大なスケールになると、仕事も発表聴講も中途半端で、例年のように学会で頑張る気持ちになれなかった。オンサイトは出張が面倒だが、気持ちを切り替えて学会参加するには適切な方法
※	セッション参加人数が多くても、座ってみられるのはオンラインの良いところ。今後も対面とオンラインの両方があっても良いと思った。会場の廊下や休憩室でオンラインで視聴できるなど。
※	学生の交通費負担を解消するためにオンライン、オンデマンドは続けるべき。また、オンサイトとオンラインの内容は同一
※	たまには完全オンラインも良いと思います。出張費もかからないし、感染症がある間は完全オンラインでいいと思います。でもコロナが落ち着いたら、オンサイト3回にオンライン1回程度がいいかもしれません。ハイブリッドはあまりメリットを感じ
※	出張費用の捻出が厳しいため、今後もオンライン開催をメインで行って欲しいです。
※	今回の経験でオンライン開催の利点が見えてきたと思う。オンライン開催をメインとして別途、安全確保が容易な小規模のオンサイト集会を企画するのが良いのではないかと
※	ワークショップやシンポジウムをオンサイトとオンラインの両方可とし一部をオンデマンド配信にしてほしい。ポスターや企業ブースはオンサイトが良い。
※	ワクチンの効果、普及や特効薬の開発の有無によってどの対応が良いかわかってきてしまうと思います。ただし、分子生物学会は、開催が12月であること、参加者数が多いことから、より小規模の夏開催の学会よりも慎重な対応をせざるを得ないでしょう。学会が開催できないよりは、開催できた方が良くと思います。一方で競合の可能性が高く未投稿の研究内容は、オンデマンド配信を選びにくいので感染症のリスクが低下すれば、オンサイト開催の方が良いと思います。ハイブリッド形式にするならオンラインとオンサイトの日を分けておくほうが良いと思います。
※	VR技術が大きく進展すれば完全オンライン開催でもいいのかと思いますが、、、。
※	家庭の事情で出張が難しいのは是非今後もオンラインでの参加が出来るようにしてほしい。シンポジウム・ワークショップ間の移動も簡単で、例年より幅広い内容をきくことが出来、楽しめた。
※	完全オンラインだと、場所の制限がなく参加できるためかなり良いと感じました。私は今回は参加のみでしたが、研究との両立も可能であり、参加へのハードルが下がったと感じています。
※	オンラインを導入することで、開催地の選択の幅も増えるのではないかと
※	教員の立場からすると、現地に赴くことで雑務から物理的かつ強制的に解放されるため、現地開催の方が学会参加に専念しやすい。また、現地開催の一つのメリットとして、分子生物学会でなければ出会うことのできない人たちとの懇親を深めるため、ご当地料理などを楽しみながら交流することができることが挙げられる。完全オンライン開催にしてしまうとこれができなくなり、学会参加の魅力が多少なりとも損なわれると思う。
※	コロナのことが収束すれば、オンサイトが基本とした方がよいと思います。ただ、いろいろな事情や考えもあると思いますので、シンポジウムやワークショップをオンラインで聞けるようにするという選択肢があった方がよいのかなと感じます。
※	現地もオンラインもどちらも大事！
※	子育て中なのでオンライン開催は大変助かった
※	職場で参加していたのでマイクやカメラをオンにすることができず、双方向性を確保した議論ができなかった。更に、学会視聴中でも学内業務などで呼ばれるなど、中断を余儀なくされることが多々あったので、職場と切り離す必要を感じた。研究発表を聞くだけことはオンラインでも可能でも、それは年会の参加目的の一部であり、議論を深めること、予定・偶然両方で研究者同士の交流を図ること、多くの参加者たちが研究に取り組む姿や雰囲気から学術的刺激を受けることなどが参加目的で重要な部分を占めるので、やはりオンサイト開催が必要だと感じた。
※	ハイブリッド開催は費用や運営側の負担が大きいのではないかと感じる。
※	国際化を進めるのであれば、オンライン開催し、海外演者を増やすとよい。
※	ハイブリッド開催が良いと思います。育児や介護をしながら研究活動をしている研究者も多いので、オンラインでの発表は、そういった方たちの学会参加の機会を増やすので良いと思います。一方で、オンサイトは学会会場外での親密な議論が可能で、普段はつながりにくい海外の研究者とのつながりを作る良い機会になりますので、オンサイトも残したほうがよい
※	シンポジウムやワークショップはオンラインで十分だが、ポスターセッションはオンサイトの方が効果的に議論ができると
※	学会は単に発表を聞く場所ではない。発表のみで良いならなら全てオンラインでポスターとすべき。シンポジウムもワークショップも不要ではないかと
※	ポスター発表はオンサイト開催のほうがよい
※	毎年大学での講義日程と重なり、また学齢期の子どもがいるのでオンサイトの学会に参加できない年が続いていましたが、今年は講義もオンデマンドのオンライン講義になり、また学会にも自宅から離れずに(出張費もかかずに)参加できるようになったので、数年ぶりに参加でき、非常に嬉しく思いました。オンサイトでの参加を希望する会員も多かったらと思うのですが、今後もオンライン参加を中心に、或いはオンラインでも不自由なく参加できるような形態にしていただけると有難い

質問16. 今後の年会の開催形式についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	コロナが終息しても、Webで参加できるシステムを残してほしい。授業や会議等が入っていても終了後にすぐに参加できるのは便利だった。
※	オンサイト開催が良いし、これ以上凝った演出は必要ないと思います。
※	オンサイトを併用するなら、小規模に分割する方が、議論も活発になりそう。
※	オンラインも色々なメリットがあり、そう悪くないと思えました。ポスター発表者でもビデオをONにしていない方がいましたが、発表者・視聴者ともにONだとオンサイトに近い良さが出ると思います。
※	完全オンサイトか完全オンラインのどちらかが良い。完全オンサイトの一部はオンライン(オンデマンド)でも良いと思う。
※	やはりオンサイトの方が交流ができるので圧倒的に良い。ただ、予定が合わないひとのためにも、オンラインのメリットがよくわかった。今後はほとんどの学会がハイブリッド型になるだろうと感じた。
※	すべてはコロナの状況自体と思います。オンサイトはやはり基盤とすべきと思います。ただ、基調講演や一部の企業展示などをオンラインでも参加できるシステムが併用されてもいいと思います。特に基調講演というのはそのくらい遠隔からでも聞く価値のある演者でかつそんなに頻繁に聞けない人なのでは？
※	質疑応答などは、テキストベースのメリットがかなり大きいと思う。また、オンラインだとスライドが見やすい(オーディエンス側が大きいモニターを使えばいいだけ)のも良い。口頭発表だけに限るなら、オンサイトよりもオンラインの方が優れていると思う。一方で、ポスターセッションや企業展示は盛り上がり欠けたものだったので、その部分をどうにか改善できれば今後さらに良いものになりそう。オンラインのメリットとしては、研究者同士の直接の交流以外にはあまりないかもしれない。
※	講演はオンラインでも問題ないが、ポスターはオンサイトの方がよりよいのではと感じた。
※	・完全オンラインを基本とし、数年に1回はハイブリッド開催とするのがよいと思う。・オンサイトのみの回は不要。
※	状況次第でしょうか？
※	「オンラインで充分」というのは、ある程度キャリアを積み、自分のために必要なものとそうでないものの区別がつき、既にある程度の知己がいる研究者の、自分勝手なたわごと。学生、大学院生、最近この分野に参入した研究者、の事を考えれば、(分子生物学会のようなタイプの学会では)オンライン開催が無意味なことはわかるはず。
※	プレナリーレクチャーやシンポジウムなどestablishedした歴史的な講演内容は、オンラインで行う方が多くの人が見やすいと思う。海外の著名な先生なども低コストでよびやすいように感じる。up-to-datesなワークショップやポスターはオンサイトでやる方が発表者数が増えると思う。
※	コロナの状況にもよるが、オンラインは継続した方が良い。ただし、発表者がオンライン配信を承諾するかどうか選べる方が望ましい(主に情報セキュリティの観点から。情報漏洩リスクの低い研究からパテントなど機密性が高い研究まで幅広いので、オンライン配信に関して画一化する事は避けるべきだと思う。)
※	比重はともかくオンライン併用は良いと思います
※	Zoomもスムーズに閲覧できましたし、自分のいる場所から参加できるので、オンライン開催に参加してよかったです。オンライン開催の長短ありますし、あらためて学会に集って対面でディスカッションするのは大事だと感じました。ただ、コロナ禍であるための措置だと思いますので、来年はオンサイト開催できることを願っています。
※	向こう数年は、完全なオンサイトの開催は難しく感じる。ハイブリッドの場合、講義などを休めず参加することが難しいという意見も聞いたため、なかなか判断が難しい様思う。
※	主催者は大変だと思いますが、ハイブリッドが可能であれば、年会への参加者の幅が広がると思います。子育てや介護などでオンサイトでの参加が難しい人の参加が見込めること、(時差を気にしなければ)海外ゲストも呼びやすいこと、最終日午後でも人が減らないこと、などオンラインの良さがあると思います。
※	ポスターはオンサイト、口頭発表はほとんどをオンラインにするなど、オンオフをはっきりさせるのが良いと思う。
※	オンサイトに限ると思いました。
※	学会は、オンサイトが基本だと思います。コロナが収束するまでは、完全オンライン、終息後はオンサイトが望ましいと思います
※	いろいろな事情—授業、介護、看護、子供のいる家族など—によって、オンサイトで出かけていくことが難しい人もいます。ですから、今回のようなオンラインの実施は是非とも継続して欲しいし、その時間でないとダメなのではなく、1ヶ月くらいのアクセス、質問ができるというです。保育ルームがあればよいというのは一つの考えですが、家で世話をすることを実現できるオンデマンドはありがたいです。「授業、介護、看護」の問題もふまえて検討ください。
※	ハイブリッド開催をしてくれれば、所用で会場に入れない場合でも参加できるといったメリットは大きい
※	オンラインじゃない方がいい。
※	コロナの状況に依ると思う。今回オンラインで参加してみて、今後の新しい形として、オンラインは良いと思う。ただ、ディスカッションしにくいという点は、改善する必要がある
※	海外からの講演者はオンラインの方が参加・承知しやすいと思います。
※	遠方で開催された場合、学会参加はいろいろな面で難しいため、オンラインで学術的な情報を配信、視聴可能であることは非常に助かります。
※	オンラインを経験し、オンサイトの必然性を感じなかった。それ以上に学会場での交流をオンラインでもできるように、バーチャルリースペースなどがあっても良かったかもしれない。
※	「Withコロナ」がどのように展開、終息するかわからないが、学会はやはりオンサイト、リアルタイムがいいなと再確認した。一方でオンライン開催の利点もあることはよくわかった。費用対効果を見ると、完全オンサイトかオンラインのどちらかにすべきと思う。ハイブリッドは良くないと思う。例えば、隔年でオンラインとオンサイトを交互開催とする、というのがよいかもしれない。生化学会との棲み分けが問題になっているので、分生と生化のオンライン・オンサイトを組み合わせる方式で
※	感染状況にも依存するのではないのでしょうか。オンラインも思ったより良かったと思います。
※	オンサイトを基本とするが、スポット的にオンラインを使用しても良いと思う。
※	ポスター発表の質疑応答は、オンラインでは難しいように感じました。
※	オンライン発表およびその後の動画配信があると、仮にオンサイトで他のセッションと重なったために逃した講演などを視聴できるので、良いと思う。
※	毎年、年末は分子生物学会で、その足で知り合いと忘年会がいつものコースだった。これがなくなるのは残念だが、オンライン開催がここまで快適だとは思わなかった。通常開催に戻れるか心配です。
※	来年度はCOVIDの影響もありまだ完全オンラインにした方が良い。オンサイトで個人個人が会うことによる議論の促進効果は無視できないので、COVIDの状況が許せばオンサイトでの開催が望ましいが、参加のバリアフリー化(子育てや介護など、オンサイトでの開催が叶わない人など)のためにも、オンラインでの参加は積極的に起こっていくべきだと思う

質問16. 今後の年会の開催形式についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オンライン学会になれるにつれて、デメリットが減り、メリットが増えることを期待できると思います。コロナが収束しても、また「学会はどういうふうにするべきか」をいちから考え直すチャンスです。
※	やはり現地開催の方が「研究の熱」のようなものに触れやすいなと思いました。今回、学会に初めて参加する研究室の後輩に発表を勧めて、一緒に参加しましたが、オンラインではなかなかそういう空気感のようなものには触れられず、私自身が学生のときに分生に参加したときその醍醐味のひとつに、「研究の熱」みたいなものに触れられること、というのがあり、若い学生にとってはそういうものに触れる場という意味での学会も大事なのではないかなと思います。
※	口頭発表がオンラインで参加、視聴可能なのはよいと思いました。ポスターはできればオンサイトがよいと思いました。オンラインだと、個室のない学生などは参加が難しそうでしたので、メインはオンサイトで、普段多忙で学会に来られないような先生方のお話をオンラインを使用して伺えるなどのメリットがあればハイブリッドがよいと思いました。
※	研究室や会社を休まずに参加できることが大変良かったため、来年もオンラインや事後配信を継続していただきたいです。一方で、オンサイトへ出向くことも楽しみの一つですので、ハイブリッドでの開催を希望いたします。
※	感染状況による
※	費用面や育児等で現地に行けないことが多々あるのでオンラインでも参加できるのは非常にメリットがあります。一方で、やはり会って、話す中で次のアイデアも浮かぶと思うのでオンサイトの場もあると良いと思います。近年、分子生物学会も規模が大きくなって場所や会場に難儀していると思いますが、オンラインで参加する人が増えれば小さい会場でも開催可能なのではないのでしょうか。
※	オンラインは便利で素晴らしく、配信があるのはとても助かります。聞きたいものが被ってしまったり聞けないことが頻繁にある学会なので、録画配信が併用されていると嬉しい。
※	当面はその時々状況、主催者の判断で試行錯誤してみたらよいのではないのでしょうか
※	会場への移動費用や、会期中の部屋の移動を考えると、オンライン以外ありえない。
※	自宅あるいは職場にいながらにして、複数の会場を歩き来たりして予め調べておいた発表を全て聞くことができ、議論もできた。例年以上に実りが多かった。オンラインのよい面はたくさんあると納得。オンサイトのみというのは、もうあり得ず、その考え方は捨て去った方が前進できると思う。
※	年会費、参加費が安くなる方法をとってほしい
※	年会長に一任して、どのような考えで、開催したいかの希望に従うのが良いと思います。
※	感染症の状況次第
※	可能であればオンサイトが良いが、ウイルス流行状況による
※	オンサイトは理想になってしまったと感じる。あの混雑は、分子生物学会の素晴らしいところだったが、もはやあれを再現させることは不可能である。仕方なくオンラインでやるのが現実と思う。
※	参加者としては、コロナ後は、基本的にはオンサイトで参加、どうしても都合がつかない場合にオンライン(非常手段)として、参加していきたい。その場合、未発表データはオンサイトでの特典(?)、オンラインでは未発表データは見せない、となっても受け入れられる。
※	オンライン参加にも様々なメリットがあると実感できたので、希望すればオンライン参加も選択肢として存在するとありがたいです。子育て世代の研究者も参加しやすくなるのではないのでしょうか。
※	オンライン開催領域は全てオンデマンド視聴できるようにし、聞きたい発表のための時間と労力の節約をさせてほしい。
※	まだ明確な答えは持ち合わせていませんが、オンラインでの学会参加というのはなによりも、いろいろと忙しい業務の合間に、仕事の連続性を犠牲にせずに、気軽にアカデミックな場に参加できるということが非常に大きな魅力でした。こういう形を今後も体験したいという気持ちは非常に強い。もちろん、オンサイトで言う良さというものはあり、オンラインばかりになるのも問題化と思いますが、。少なくとも、ハイブリッドというのは非常に中途半端で、イメージが湧きません。非効率で、いろいろと面倒な問題が生まれるように思います。
※	ポスターはオンサイトで、シンポジウムなどはオンサイトとオンラインのハイブリッドで。ポスターのデータ流出のリスクが高いので、最新の発表は今後したくないと思います。
※	本当はその時の状況により、オンラインかハイブリッドを決めるのがいいと思いますが、それでは準備ができないでしょうか。ここ数年は非常時対応ということで完全オンラインと決めて行ったらいいのではないのでしょうか。オンラインでも発表自体には何の問題もなかったと思います。ただ、学会の楽しみには色々な人と直接お話ができることもあり、それができないのは残念ですが、特に修士の学生さんはそれを知らないまま卒業することになり気の毒ですが、、、今は仕方ないと思
※	オンライン年会は地方在住・子持ち研究者には大変有難いです。オンラインでなければ参加しない可能性もあります。一方で、ポスターセッション等オンサイトならではの議論・交流の場も重要だと感じます。ハイブリッドで、参加費を分けるのが良いかと思います。(ハイブリッドの場合、オンサイトの参加者同士は交流できても、その分オンライン参加者は意見交換・交流がしにくいと思われるため。)
※	できればオンサイトが良いと思いますが、今後の社会状況によると思います。

質問17. 年会をオンライン開催またはハイブリッド開催(オンラインプログラムとオンサイトプログラムの併用)とする場合、「未発表データを前に議論したいが、発表資料を不正に複写・撮影等されることへの懸念がある」との声が聞かれます。講演の事後配信や一般演題のポスターデータ掲示についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスターの閲覧は3日間以内にしてほしい。
※	セキュリティ上でも画面上で写真を撮ったりは可能なので各人の判断に任せるしかないと思います。参加して発表する以上はある程度覚悟を決めた上だと個人的に考えています。
※	一般演題のポスターは、システム上ダウンロードできないようになっているならば、PDFをアップロードすることに抵抗はないが、未発表データは用いない。ただし、ポスターセッションでは、未発表データを含むスライドを別途作成して、発表した許可してくれる人のみ事後配信すればよい問題ではないのでしょうか。
※	未発表データを前に議論したいが、発表資料を不正に複写・撮影の懸念があるかぎり、演者はそれを警戒して萎縮する特になし
※	基本的に学術発表の資料はオープンであるべきと考える。学会で示した程度のごく少しのデータが漏洩して問題に発展するというシチュエーションが、正直言って私には想像しがたい。個人情報的なものは見せられないわけだが、それは会員のみのセッションであっても同じであり、初めから誰に対しても見せるべきではないものである。完全秘匿か完全オープンかの2択でいいのではないか。
※	ポスターデータがどれだけ不正入手されたか調査しようがないと思うが、例年訪れるポスターカテゴリーの常連発表チームがごっそり居なかったところを散見するに、オンラインデータ公表には抵抗があるんだろうなと感じた。研究者がアクティビティを最大限に発揮するには、オンサイトしかないと思う。
※	今回はオンデマンド配信の意味を理解していない人もいたようだ。
※	期限があるなら許容する。
※	ポスター閲覧はオンラインシステムは圧倒的によかったが、実際に未発表データが殆どの学生のポスター発表をオンラインでさせるかと言われるとあまり前向きではありません。上述したようにものすごく多くの閲覧者がいるにもかかわらず実際にウェビナーに入ってくる人が殆どいないと、学生にはなんのメリットもないし、未発表データをさらすだけです。開催者の立場にたつてどうしたらいいか考えると難しいところです、
※	自己責任で各自が自由に判断すればよい。
※	とくになし
※	だれがアクセスしたかが確実に追跡できるのであれば自分としては許容したいと思います。
※	シンポジウム・ワークショップの演者になった場合、発表演題の事後配信は許可するが、未発表データは削除させてもらう(編集して配信)。
※	ポスターpdfを開けない演題が幾つかありました。特定の研究室のようですが、大変不公平感を感じました。わざとuploadしていないのか、それともHPの不備なのか判断が付きません。オンサイトなら写真を撮る人はほほいらないと思いますが、PCの画面を撮影されてもわからないので未発表データを出すのは躊躇します。
※	撮影禁止のマークが出ていましたが、複写・撮影したら運営側でわかるのでしょうか。わからないなら、発表する際はそれを覚悟する必要があります。
※	高解像度の一般演題のPDFポスターアップロードは、もし流出した場合(特に海外)を考えると、少し抵抗感がある。
※	演者の判断で選択できるようにすべき。ZOOMで見せたもののみ提示できるようにすることや、talkのときは未発表データがあっても、オンデマンド視聴ではそこを削除出来たり、音声のみにできたり、あとから編集できる余地を残してほしい。
※	論文として発表済みか、投稿中か(preprintを公開している場合も含む)、まだ投稿していないか、それぞれの状況によって考え方が異なる。また、発表資料を不正に複写・撮影等されることへの懸念も人によって考え方が異なる。事後配信の許諾や未発表データをどこまで含めるかは、発表者に判断してもらえば良いと思う。学会ではできるだけ新しい(未発表の)話題を提供して、議論することが望ましいと考える。
※	工学系のような査読付き学会にならない限りはオンライン学会発表が厳しい。
※	盗んでやろうという研究者がいる可能性がある限り(すなわちほぼ永遠に)、事後配信やダウンロードの許可はしません。
※	ポスターおよびプレゼンテーションどちらに関しても、キャプチャ等を完全に抑止する事は原理的に不可能なので、発表者の裁量にゆだねられるべきだと思う。
※	今回演者として発表して、この件が非常に気になった。学会としてはアジアからの参加者の増加に期待しているのかもしれないが、現地へ行かなくても参加できるようにそのぶん盗用の危険性も大きく増える様に思う。もし何かあった時に学会が保証してくれるわけでもないの、今後は未発表データを発表するのは非常にためられる。
※	分子生物学会は、同時時間帯にかなり多くのセッションが開催されますので、一つのセッション会場にしか行けないという問題がありましたが、今回オンデマンド視聴を可能として頂いたことで、通常では聞けなかった講演を聞くことができ、大変良かったです。また、英語講演が途中で一時停止できるというのも、学生たちには好評でした。オンデマンド視聴は、今後も続けて頂ければと思います。
※	事後配信の有無は個別に確認する本大会の方針で良いと思った。
※	どのような制限をつけてもスクリーンショットや録画はできてしまうので、未発表データの公開を控えるようになるのは致し方ないと思います。
※	無回答とします。
※	今回自身の発表を行わなかった理由は、容易にデータをデジタル化して得られてしまうことである。今後オンラインでの発表機会があってもやはり未発表データの配信は遠慮したい。ポスターもPDFダウンロードできないとしても、スクリーンショットで得られてしまう。他学会で配信動画やポスターのスクリーンショットがよく行われていると耳にしている。
※	学会参加登録時には事後配信について心配しており配信しないことを選んだが、学会直前には事後配信してより多くの人に見てもらいたいと思った。可能であれば、今後は、発表演題の事後配信の許可を学会直前まで受付けてほしい。
※	オンラインで行っている以上、複写や撮影は行われるので自己責任にて判断(発表)するしかない。あとは登録者(学会参加者)の識別ぐらい。。。。
※	たとえダウンロードが出来ないとしても、PC画面の写真を撮ってしまえばdataはとれるので少し不安を感じた。
※	未発表データを学会で発表するかどうかは、発表者側の判断に任せたら良いと思う。オンライン学会である以上、情報漏洩のリスクは覚悟の上で参加する必要がある。
※	オンサイトの国際学会に出席した時、撮影禁止を開会宣言、会場ボード内で再三確認していたにも関わらず、堂々とスマホでスライドやポスターが撮影されていることにショックを受けた経験があります。オンラインでもオンサイトでも、そのような懸念は残るような気がしています。

質問17. 年会をオンライン開催またはハイブリッド開催(オンラインプログラムとオンサイトプログラムの併用)とする場合、「未発表データを前に議論したいが、発表資料を不正に複写・撮影等されることへの懸念がある」との声が聞かれます。講演の事後配信や一般演題のポスターデータ掲示についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オンライン学会のよいことはオンデマンドで複数セッションの話をきけたり、倍速で聴けたり、タイムシフトできることなので、極力オンデマンド配信が可能な方法でやれると良い。また、そうすると質疑がリアルタイムでできないので、何かしらの方法でタイムシフトで質疑ができる方法が欲しい。
※	未発表データでもすべて学会で発表、配信、コピー、などすることに抵抗がありません。
※	会員でないと見られないサイトに置いている以上、不特定多数に見られるわけではない。学会で発表した時点で誰かに知られたらと思った方がいい。今はプレプリントなどで迅速に成果を発表する方法もあるし、懸念があるなら安全側に倒して発表すれば良い。
※	録画やスクリーンショットを防ぐ機能はないのでしょうか。
※	参加の規定で、キャプチャーは禁止ということになっていたが、実際に、誰かがデータやポスターをキャプチャーしたかどうかについて、大会運営側は、全く把握できていないのではないのでしょうか。
※	どうしても未発表データの踏み込んだ発表は控えることになると思う。
※	オンラインでは、参加登録していないのに視聴する～データ盗用等の不正を防げないと思う。
※	発表できる程度にまとまっている内容であれば、bioRxivをはじめ、近年では発信方法はいくつかあると思うので、未発表データに対する対策を講じる必要はあまり無いと考える。未発表データを不正に複写・撮影される懸念は、程度の差こそあれ、オンサイトであってもありうる。不正に複写・撮影されるリスクと、発表することで得られるベネフィットのバランスは、発表者自身の裁量に寄る部分が大きいと考える。
※	シンポジウムは事後配信しても良いが、ワークショップは許可しない。ダウンロードできないようにしても、カメラで撮影出来るので意味がない。
※	ポスターのPDFをダウンロードできなくても、必要などころを大きく表示してスクリーンショットを撮ることも考えられるので、未発表のデータは含めない。
※	改行がおかしい。こういう配慮が足りていなかったと思います。スクショができるので、不正防止はできない。
※	医療系の学会大会にも参加することがありますが、スマホやタブレットによる講演中の撮影、ポスターの撮影は当たり前のように多くの人がしております。プログラム集には撮影禁止と記載されていますが、撮影者を注意する人はいませんし、堂々と撮影しております。施設の同僚に見せて患者さんへ還元しようという意識の現れと解釈しております。よって、基礎系の学会も、未発表データを公開して科学の発展に還元しようという意識変革も必要かと思えます。
※	ポスターのスクリーンショットが不可になっていたのはよかったが、Zoomで可能なのは仕方ないのじゃないでしょうか。

質問18. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者番号	意見記述
※	正会員5000円は安いと思いました。フォーラムから別のフォーラムへの移動が瞬時にできていいです。
※	この参加費はちょうど良い価格かと思えます。とてもありがたいです。
※	これだけの規模でのオンライン開催は前例がないとおもうので、多少のトラブルがあったとしても成功裏に終了したことは大変素晴らしい。一方、トラブルはひとつひとつ解決法を見つけていくことが来年以降あるいは他の学会への貢献になると思う。一方、使用言語に関しては毎年コロコロ変わるの不安定さを感じるの、難しい問題ではあるが、ある程度学会としての統一見解を出し、毎年同じ形式にしてほしいと思う。
※	幕張メッセでやる会があるようですが、あそこは遠くて不便なのでやめてほしいです。
※	〇〇〇先生は本当に毎年最高です。生物学への楽しさが全身から溢れていていつもやる気をいただいています…。ぜひ伝えていただきたいです。ポスターに関しては発表者の方が一番大変だったのではないかな、と思います。レスポンスがどうしても感じにくいと思うのでオンサイトよりもやりがいはなかったのかなと思います。もしかしたら、参加者全員カメラオンとかの方が良いのかもかもしれません。(情報漏洩防止にもなる?写真撮ったりなどカメラオンだとバレルので)あとは、今年は医療応用、疾患モデル絡みの話が多いように感じました。もっとシンプルにただ生物学しているセッションが溢れている方が私は好きでした。それでも、本当に開催してくださってありがとうございました。来年も楽しみにしております。
※	ポスター発表で、常にビデオ機能をオンにしていない参加者がいたが、オンサイト開催であれば、顔を合わせるはずなので、常にビデオオンでないと、ポスター発表に参加できないようにしても良いのでは無いか？
※	いちど回答したのですが、追記です。今年アプリが無かったのは何故でしょうか?(あったのに気付いていなかっただけでしたらすみません)ポスターのサイトがかなり見にくかったのでアプリがあったらと思いました。また、今年こそタイムオーバーが多かったので実際のスケジュールとずれているレクチャーが多く、アプリがあればどのセッションでどの発表が実際に行われているかわかり、スムーズに各セッションを行き来できたのにな、と思いました。あと、プログラム(発表内容の詳細込み、セッションの概要だけでなく)のPDFを置いてダウンロードできるようにして欲しかったです。結局各発表者の発表内容はサイトだけでは見れ無かったので。
※	最新の研究成果を知ることができ、研究者とのコミュニケーションも自由のできるの、学会の価値は十分に高いと考えられ、参加費は以下の範囲でもう少し高くしても良いのではないかと思う。正会員: 5,000-6,000円学生会員: 2000-3000円学部学生: 1000-2000円金額をあまり安くすぎると、発表資料を不正に利用する可能性が高くなるように感じる。
※	やはり会場開催と比較して入手できる情報量、直接交流によるメリットが劣るので、オンサイト、オンラインで参加費用が変わらないのはどうかと思う。学生から「参加費は安いが入会・年会費を考えると高いと思う」と言われた。
※	ワークショップは、興味のある題目のチャンネルを行き来することができたので、効率よく参加することができた一方で、時間が押しすぎているところもあった。
※	オンラインだとすこし高く感じる。
※	参加者人数にもよるが、回線トラブルが無ければ安いと思うが、繋がりにくくて目的の講演が聞けなかったなら高いと思う。
※	参加費は、大よそ適当と思えます。
※	この年会の内容であれば、高いと感じた。
※	次回もこのくらいの額に設定して欲しい。
※	年会終了後、オンデマンドで視聴できることを考えると、正会員の会費は十分安いと思えます。学生の会費(事前登録)が非常に低額で、大変ありがたいです。
※	参加費は適正と感じる。
※	オンライン開催運営を成功させるために工夫は感じられたが、プログラム自体がオンラインで大成功するためのアイデアが乏しく、ほぼ通念通りの現地開催版と構成が変わっていないのが、残念だ。オンラインのメリットを生かしたプログラム編集を期待します。
※	この年会の内容だと、安いと感じた。
※	やっぱりオンサイトの方が、コミュニケーションがしやすいので、よいと思います。アフターコロナに期待したいです。
※	この年会の内容であれば安いと思った。通常開催であれば見逃してしまう発表(発表時間の被りなど)も、学会後に講演を見ることが可能であるのも良いと思う。
※	オンラインだけの内容なら高く感じた。
※	事後配信や事後ポスター閲覧も可能であるとのことで、それでこの価格は適切だろう(他の基礎研究系オンライン学会では正会員参加費が1万円を超えるものもある)。
※	ポスター閲覧のオンライン検索をより便利にしてほしい。ポスターのトップページにポスター番号を書くなど、使っていて不便な箇所があった。すぐ前にページに戻りたいのに最初まで戻ってしまったりなど。
※	リーズナブルな価格であり、特に学生の負担軽減策として有効。
※	学生会員の参加費は安すぎる。分子生物学会は学生も発表しやすい場ですし、発表すれば所属研究室から参加費を出してもらえらるでしょう。学生の参加費はもっと高くてもいい(3000円位)と思います。その分、年会費を下げてほしいです。
※	金額は現行で適正だと思います。オンライン開催のノウハウを他学会にも手ほどきしていただく機会があると助かります。
※	正会員6000円は安いと感じました
※	この年会の内容であれば安いと感じた。短時間でのオンラインの対応に随所に工夫が感じられ感嘆の思いでした。いろいろ機能があっても使いこなせない、場所が分からない方も出てくると思ったので、今後はそのケアができるとなお良いかシステム構築のことを考えると妥当な金額だと思います。
※	苦勞も判るが、オンラインだと参加費が高く感じる。
※	口頭発表は一般演題からの採用がある方がよいと感じた。
※	ハイブリッド開催が良いと思います。
※	正会員事前: 5,000円は安いと思う。
※	学生1000円でありがたいかった。
※	旅費がかからないですし、参加費設定は高くは感じませんでした。
※	この大会に限らずオンライン大会は視聴には便利ですが知らない人に話しかけるのはオンサイトより勇気がいると感じました。
※	学部学生の参加費を安くする意味を余り感じない。
※	早く生化学会と合同でやって欲しい。
※	会費を安くしてくれた事に感謝している。オンラインとオンサイトで会費が変わらなければ、参加しなかったと思う。
※	初めてのオンライン開催としては、非常に見やすかったと思います。次回もできればオンライン開催が良いです。

質問18. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者 番号	意見記述
※	昨年のオンサイトでも参加していたが、オンサイトの方がメリットがあると感じた。大学院生の立場として、シンポジウム、ワークショップなどはオンラインでもよかったが(ほぼ質問することがないため)、自分のポスター発表は非常にやりづらかった。(途中で見てきた方への対応がわからず、何もdiscussionすることなく退出されることが多い)また、自分が他のポスター発表を見に行っても、議論中だと入りづらいし、結果的に聞けるポスター発表の数が減ってしまった。質問があるほどではないが少しのぞいてみたい…というような聴き方もしづらく、ポスター発表はオンサイトがよいと感じた。
※	新型コロナウイルス感染防止に尽力された関係者に敬意を払いたいです。苦労の背景、裏話を教えていただきたいです。
※	せっかくオンラインにするのであれば何人がポスターを閲覧しにきたか、数値化してほしいです。
※	非常に良かったと感じています。有難うございます！
※	年会費は適切と感じた
※	正会員で事前参加登録したので、5,000円ならば今回の内容に対して安いと感じた。毎年NBRPブースで変化アサガオのタネを頂くのを楽しみにしていたので、今回はそれがかなわず残念だった。Remolは参加者がほとんどいなかったので流し見することができない雰囲気を感じてしまい、各テーブルでお話を伺う気持ちになれなかった。組織委員会の皆様におかれましては、研究環境や教育環境についても様々な困難に対応する必要が多々あったことと存じますが、年会開催に向けてご検討・ご尽力頂き、心よりお礼申し上げます。
※	特にありません
※	完全オンライン開催であるならば、もう少し安いと助かる。学生が千円なのはとてもよい。
※	子育て、介護、講義の過密などにより、出張できる時間がない人にとって、オンライン開催の学会というのは救世主になる予感がしました。ランチセミナーで留学を促進するセッションがありましたが、今後は留学だけでなくオンラインを最大限に駆使したキャリアパスもできてくるかもしれません。海外在中の研究者もたくさん参加されていて、刺激を受けました。女性-男性、研究環境の貧富、国内-国外など、無数の壁を打ち破るヒントがオンラインにあることを感じさせてくれる学会で、とて正会員です。旅費も節約できましたので、年会参加費は高いとは思いませんでした。参加しやすかったです。
※	参加費はこんなものかと思う
※	非常に限られた予算と時間で、このような素晴らしい会を開催していただき誠に感謝しております。今後よりアクセスのしやすく、見やすい学会になっていくと思いますので、どうかこのようなアプローチも続けていただき、多くの人が分子生物学に触れられる機会を増やしていただきたいと思います。
※	オンライン開催で旅費がないぶん参加者としては非常に有意義だったと思います。初めてのオンライン開催でやや心配でしたが非常にいい会議だったと感じました。組織委員会の皆様のご尽力に感謝申し上げます。
※	今回初めて参加しましたが、学部学生のため講義の時間の関係上3日間すべてを見るのが残念ながらも助かりました。それでも事後配信があったり等工夫がされていて、オンラインで500円で参加できたのでとても助かりました。
※	オープンアクセス以外の論文の図も引用したかったので、出版社とオンライン配信期間中だけ特別な契約を結んで欲しい。今回、システム上ダウンロードできないようになっていたが、PCの画面をデジタルカメラで撮影できるので、プロテクトにはほとんど意味がない。
※	もう少し安くしてほしい
※	とくになし
※	Onlineの年会は、参加しやすく、大変便利でした。学会開催の新たな形式ができたようで、ハイブリッド学会など、意欲的な開催を希望します。
※	Web開催は当初は新鮮味もあって良かったが、Web開催ばかりだとやはりつまらなく感じるようになりました。また、出張していないので、会期中でも日常の雑務が普通に届くので、学会に没頭できません。早くコロナが終息して、来年は対面の開催になることを願っております。
※	安くて参加しやすいいと思います。
※	参加費が安く驚きました。
※	オンライン開催で会場費等の節約になるなら、もっと安くできるのではないかと思います。
※	繰り返しになるが重要なので。今後の使用言語については、明確な計画が必要と強く感じました。10年単位で研究者層の英語力の向上を見据えて、単年でみると損が出て我慢強くなっていくのか、それとも日本語のセッションも復活させるか
※	とても高い。オンサイトの時も、いつも高い。
※	実際にどのくらい費用がかかったのかは、後日公開されると思うので、それに基づいて、今後は赤字にも黒字にもならない程度の会費設定をお願いしたい。
※	うまく、設計されていて、組織委員会の熱意を感じました。どこの発表が盛り上げられているかが、一目ではわかるページがあると、オンサイトに近づくなど、改善点はあります。もっと、洗練させれば、起業できるのでは。
※	パンフレットについて、ポスターの演題が載っていなかったのが少し残念でした。ネット上で検索はできても、やはり紙媒体で見れたほうが、どれを聴きに行こうか考えやすいいと感じました。また、昨年のようにアプリがあればもっと便利だったかなと思います。これらがそろっていれば、今回の参加費が安く感じたかと思えます。
※	参加前は高いと感じましたが、オンライン実施にはこのくらいお金がかかるのも仕方ないのかもしれませんが。ポスターpdfを開けない演題がいくつかありました。特定の研究室のようですが、大変不公平感を感じました。わざとuploadしていないのか、それともHPの不備なのか判断がつかえません。学会終了後でもポスター公開期間中に是非改善していただきたいです。様々な理由で学会に参加しづらい立場にはオンライン学会は大変有難い機会でした。組織委員会の先生方大変お疲れ様
※	参加費の設定は妥当ではないかと考える。しかし、今年は英語のセッションだけだったので、興味本位でいろいろな分野の話が聞きにくかった。
※	年会費は適切であった。
※	オンラインで5000円は高いと感じた。2000円ぐらいでよい？
※	このような大変な時期にもものすごく丁寧な準備をされて盛況な会になったと思います。執行部の先生方のご尽力に敬意を表します。一方で、オンライン特有の課題はアンケート等々からみえてくると思います。それらを公開して、小さな研究会などでも問題を改善していけるよう、分子生物学会が先進的に提示できるようにしていただきたいと思えます。
※	特になし
※	オンライン開催でとても良かったです。ポスター発表のオンライン質疑応答がオンサイトより活発にでき、Zoomでデスクトップも共有できてとても良かったです。Editorの方とお話をしたり、色々なお話を伺うことができて大満足でした。どうも有難う
※	要旨全文pdfのダウンロードは無くなったのですか？

質問18. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者番号	意見記述
※	年会参加費の設定は、参加した上での感覚としては高く感じたが、仕方がないと納得できる金額の範囲だと思った。
※	ポスターセッションにおいて、投稿先ごとのアドレスにとばないと、ポスターにアクセスできないような仕様になっているのが気になった。さまざまな分野のポスターを満遍なく眺められるような工夫が欲しい。
※	・年会費設定は相応で、ちょうどよいと感じた。・完全オンライン年会だと参加費以外のコスト(旅費や余分な食費、旅行の準備や移動の時間)がかからないので、オンサイト年会に比べ総額が安価で手間も少なく済んだと感じた。
※	今後取り上げてほしいテーマ「論文の執筆や投稿」「フェローシップの取り方」「留学を含む、研究者のキャリア形成」本年も、大変勉強になりました。本学会のような国内最大級の規模の学会では、様々な分野でご活躍されております国内外の研究者の先生方、および各分野の最新の研究成果と出会うことができます。生命科学にとどまらない、研究の世界の最先端を垣間見ることが、明日からの研究生生活の活性化に繋がります。また、自身の研究分野のトップでご活躍されております先生方のお話を伺えることは、学生の私にとって大変刺激的で、代えがたい機会でもあります。(Web開催では、スライドが大変見やすく、また質問がしやすい(私のような学生にとって、会場でマイクの前に並ぶことは大変ハードルが高いです)というメリットを感じました。)来年度の年会も、楽しみにしております。コロナ禍という未曾有の事態の中本年も分子生物学会で締め括ることが出来たこと感謝いたします。ありがとうございました。
※	MBSJ2020 Onlineの年会参加費設定は適切な範囲かと思いますが、もしできれば、もう少し安ければ(正会員:3000円~4000円くらい?)
※	初めての試みで準備がとても大変だったと思いますが、オンラインならではの利点を追求したとても挑戦的な会で、参加できて良かったです。トラブルはありましたが「新しい分生のかたち」を拓いていただけたと思っています。ありがとうございました
※	視聴サイトの戻るボタンが使えなかったり、ポスターのところまで一日目に戻ってしまったりするのがややこしかった。でもオンライン一回目なので、様々なトラブルはつきものだとも思っています。
※	この年会の内容であれば安いと感じた
※	参加費は極めてリーズナブル
※	年会参加費は高いと感じた
※	参加費は研究費から支出できるので、この倍でも3倍でも、構わない。いい年した研究者や運営者が「お金がない、お金がない」とばかり言うのは若者に悪影響が大きいので止めて欲しい。正会員は1万円~1万5千円くらいが相場ではないでしょうか(オンサイトならもっと高くても良い)。学部学生は自腹で来ているかもしれないので、タダで良い。分子生物学会の運営の人たちは、エスタブリッシュされた研究者や、一部の大学・研究所さえ良ければ、あとは切り捨てても良いと思っているのではないか。学生・大学院生・若手研究者・地方や弱小機関に所属する研究者のことを真剣に考えれば、「全てオンラインで行う」「シンポジウムを充実させる」という意見にはならないと思う。オンサイトで、ポスターやワークショップをきちんと参加費は適正と感じた。
※	workshopで発表したが、やはり聴衆の顔や反応を見ずに発表するのは少し難しかった。
※	様々な手間や経費を考えると、参加費は安いと感じた。日本最大級の学会のオンライン開催を短期間でここまで準備できたことには感動した。もちろん、工夫すべき点・いろいろな意見がでてくるとは思うが、新しい形の会に参加できて楽し
※	年会費は妥当。交通費や宿泊費がかからないので、いつもの年よりも多くの学生が発表できた。
※	WSのオーガナイザーとして、事前に連絡にあった様に全面的に英語での進行を心がけたが、他のWSでは質疑応答が日本語であったり、WS全般が日本語であったり、英語での進行を苦勞して準備した努力がなんだったのかと感じる場面もあった。引き続き来年以降も類似したWSを開催するにあたり、その審査過程には上記の様なこれまでの実績も考慮しても年会参加費について、オンサイトとしては妥当な金額であるが、オンラインとしては高過ぎる。
※	トライアルの側面はありましたが、大成功の年会だったと思います。オーガナイザーの皆様準備お疲れ様でした。
※	高いと感じた
※	海外からの講演者のために、英語開催のセッションを用意するのは必然だとは思いますが、一方、分子生物学会は他分野の研究を勉強するための場としておりましたが、今回は他分野の講演を英語で視聴しましても完全には理解できず、大変残念でした。学生やポスターは英語発表でトレーニングするのも良いかと思いますが、大御所の先生のご講演などは100%理解できる日本語で聞きたかったと思うものも、かなりございました。今後は日本語セッションの継続頂けるように再考して頂ければと存じます。また、オンラインですと、視聴していないセッションも多くございますので、アンケートの際には、「参加していない」も必要かと思えます。今回の大会は、大変な状況の中、準備委員会の先生方には本当にご苦労されたことと
※	発表する学生は学部生であっても1000円という記載が必要
※	参加費などは適切だった気がします。シンポジウム・ワークショップの演者名(可能なら演題タイトルも)は視聴サイトだけではなく、大会ホームページ上にもアップしても良いと感じました。
※	完全オンライン一年目にしてはかなり質の高い会であったと感じ、今後の新しい年会の可能性を切り開いたように思う。今年見えた改善点等が修正されれば、今後違和感なくオンラインもできるのでは?と思った。
※	一部のセッションを除き、日本語での開催を希望します。
※	参加するならばオンサイトに限ると思いました。しかし、時代の流れからハイブリッドは許容できます。
※	参加費は適当だと思えます。
※	今年のプログラム集(印刷物)はほとんど役に立ちませんでした。急にオンラインになったためにあのような形になったのかもしれませんが、できれば例年の様に、ポスターも含めて演題名まで印刷してほしい。すべてをオンラインで見なければいけないのは、時間がかかりすぎて苦痛でした。
※	適正価格と思います。
※	適切な設定と思えます。
※	他の学会はタダになったものもあるので、Onlineなのに高いと感じた。
※	次回はぜひまた参加したいです。いろいろな土地で開催されるのも実は楽しみだったりします♪
※	年会費については今回の内容であれば適切だと感じた。
※	学部学生の積極的な参加という観点から、500円とはいえども有料は二の足を踏むようである。大学院生以上については適切と考えている。
※	今後オンラインでやっていなら会場代がかからないだろうから安くしてほしい。のぞき見はとてもしやすいが、質疑はやりにくかった。
※	参加費設定は妥当である。
※	この年会の内容であれば高い

質問18. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者番号	意見記述
※	参加しないと演題名が全く見られなかったので、ポスター等にはどのような発表があるのかわからず、参加する気になれなかった(参加するかの判断に困った)。例年の通りの会員に送られてくるプログラム集に従って、せめて(Late-breaking Abstract以外の)演題名は見られるようにしてほしい。
※	高い。組織委員会の皆さんは大変ご苦労されて頑張られたのだとは思いますが、正直いろんな面でがっかりしました。
※	安いと感じた
※	その日のポスターのタイトル、発表者、アブストのみを一覧で閲覧し、気になるポスターについてはポスターのPDFにそのままアクセスできるシステムを構築して欲しい。今回の方法では各細目分野にアクセスし、そこから1つ1つポスターにアクセスしないとタイトル、演者、アブストが確認できなかったためその日のポスターを「ざっと見流す」方法がなく、自分の興味のあるようなポスターがあるかないかがわからずに終わってしまった。
※	実費での参加なので、移動費宿泊費がなく参加費が1000円だったので、何のためらいもなく参加することができたのは良かった。
※	正会員だがオンライン開催とオンサイト開催では金額が違う？前者であれば下げられる？
※	オンライン交流会ができるのには、感動したが、使い方が良く分からなかった。
※	フォーマットの急な変更にもかかわらず、オンライン開催が無事に終了したことは大成功といってよいと思います。年会長をはじめとする関係者のみなさまはほんとうにお疲れさまでした。この経験値を活かし、来年度はさらにより年会としていただければと思います。
※	今年の年会参加費については非常に良かったと思います。また、2日目にしてログインできない問題が生じましたが、事務局の方が迅速に対応してくださいました。ありがとうございました。
※	オンサイトと比較すると5000円でも高いと感じた。実際の運営費がわからないのでなんとも言えないが、オンサイトの1/3程度が妥当な気がする。
※	一般参加費は適正価格だと思う。ポスドクは学生価格でもいいのではないかな？学部生や大学院生は、オンライン開催の場合一律無料、にしてもいいのではないかな？大学院進学率や研究業界への引き留めの一助になると思う。年会運営、組織委員の先生方には、たいへんお疲れ様でした。いろいろと問題はあったと思いますが、それでもこれだけの人数の学会を、短期間に準備して実行されたことは素晴らしいと思います。ありがとうございました。
※	この年会の内容であれば、高いと感じる。コンテンツや開催期間・配信方法などの検討が十分ではない。たとえば、シンポジウムとワークショップは配信し、フォーラムは配信しない運営であったが、その理由が分からない。
※	参加費は、妥当ではないでしょうか(もちろん安いほうが助かりますが)。
※	年会参加費は適当に感じた。
※	今回はもう少し安くてもいい気がした。
※	オンライン要旨などのシステム改善を希望する。
※	オンラインは雑誌ができないので、参加する意味がない
※	いい面もあるし、悪い面もある。いい面は会場を移動しなくても良いこと、画面がよく見えること。悪い面は出張できないことでしょうか？大学の授業と同じで、対面でないとなりに成り立たない人と人のcommunicationは学会でも同じだと思います。
※	難しい状況の中で柔軟にオンラインに切り替えて年会開催を叶えてくださった上村先生、関係者の皆様に深く感謝いたします。従来の学会では(もちろんオンサイトのメリットの大きさは承知ながら)、育児中の自分にとって出張中の子供の世話の手配や子供の急病の心配などの大きなハードルを常々痛感していたこともあり、今回はオンライン開催のありがたさを感じました。オンライン形式の年会はダイバーシティ推進に資することだと思いますので、コロナ感染状況の今後の動向に関わらず検討が続けられることを願います。旅費が浮いたこともあり、参加費は非常に安く感じました。学生の額を低く設定していただいたのも特によかったと思います。
※	今回は発表せず参加のみでしたが、思ったよりストレスフリーでした。私自身は東京にいるので不便はありませんが地方や海外の方はオンラインのほうが参加しやすかったのでは？1日目のポスター発表開始時のみサイトが重かったのですがその後はほとんど滞りなく参加できたと思います。お疲れさまでした。
※	この年会の内容であれば安いと感じた
※	ConBio2017はオンサイトで参加できなかった発表もかなり長期間オンラインで視聴が可能であり、かつ分野も多岐にわたっていて非常に刺激を受けた学会だったので、あのような年会の開催を検討していただければ嬉しいです。
※	今回はじめての参加でポスター1日目奇数番号だったのですが、公式のアナウンスが当日になって偶数だったり、サイトが重くなったり、初日のため見る側もなれていなかったこともありあまり視聴者が来てくれない状態でした。払ったお金を考えるともう少しどうにかならなかったのかな、と思います
※	オンライン開催であれば、年会費は高いと感じた。またコロナ禍で仕方がないが、オンライン開催は全然盛り上がりませんでした。完全に失敗だと思う。
※	難しい中で開催していただいた関係者の先生には、大変敬意を表します。学会は、やはりオンサイトが良いと感じましたが、オンラインでやった方が効率的なものもあると思うので、今回のアンケート結果を見て、より学会員がbenefitを受ける形にできれば良いと思う。値段選定は、難しいと思います。今回は、正直安いと感じましたが、人によっては捉え方が違うと
※	オンライン学会としては正会員5000円の参加費は高いように思われました。使途の内訳はどのようにになっているか、会報で開示していただければ良いと思います。
※	ポスター発表の演題数が多いため、英語記載だと全て読む時間がない。ポスターの表示言語は日本語が良い。
※	ログインできることを確認しただけで、全く発表は聞けていないし、ポスターも見えていない。現地開催であれば学会参加ということで、会議や講義を休みにすることができるが、オンラインではそれはできない。参加費を払っただけで、何の情報も得られていない。
※	参加費は、大きい学会としては安い。なぜ他の学会が高いのでしょうか不思議。
※	今年は、初めてのオンライン開催でしたので、発表は行わず、参加のみにしました。学会が始まる前から要旨の検索など行いましたが、要旨の印刷やお気に入りの登録など、いつもより使いにくかったです。また、学会1日目は、つながりにくかったので、ポスター発表での質疑応答は難しかったです。その後、2日目からChromeに変更して、つながりやすくなりました。ポスターはPDFでアップロードされていますが、これではデータを盗まれる可能性があると感じました。ポスター発表は避けたいと感じる研究者も多かったのではないのでしょうか。一日中、PCの前に座っているより、オンサイトと混ぜた方が
※	プログラムブックの配布は必須だったと思います。ポスター演題名も全部パソコンで調べなければいけなかったもので、目がとて疲れしました。

質問18. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者番号	意見記述
※	学会後にオンライン開催の運営費用が高かったのか安かったのかを事務局が算出・公表していただけると、学会参加費が高かったのか安かったのかの相対的な価値が参加者にも分かると思う。
※	使用マニュアルをもう少し詳しく、SNS等やっていない者でもわかるようにしてほしい。Bookmarkの使い方などがよく分からなかったし、Spatial chatへの入り方も分からなかった。演題名を載せた詳細なプログラムを印刷物、もしくは視聴等とは別サイトで公開してほしい。オンラインサイトにアクセスできなくなった回線の混雑が原因と思われる時間帯があり、演題名すら確認できないことに不満が募った。トラブルがあった際の予備回線のURLのメールが届いておらず、困った。
※	コロナ禍の中、初めてのオンラインでの学会での開催にはとてもご足労があったことと存じます。本学会を主催した先生方のご尽力に大変感謝いたします。参加費設定については特に異論はありません。ありがとうございました。
※	繰り返しになるが、オンライン開催がこんなに快適だとは思わなかった。もうこういう流れになると思う。
※	年会参加費は、この学会の内容であれば適正な金額であると思う。
※	安いと感じました。
※	学生会員の年会費・参加費は更に減らしてほしい。
※	とても素晴らしい発表をたくさん拝聴し、ディスカッションできたので良かったです。オンラインとオンサイトでは、運営費用が同じくらいかかるといことがクリアであるのなら、この値段は妥当だと思いました。次年度以降、リアルタイム字幕、ワンプッシュで演者や参加者にオンライン名刺が送れるシステム、分子生物学会会員が英語プレゼンテーションスキルを磨ける場を事前に設けるなどのサービスがあれば、移動時間や住む場所、言語のハードルが低いオンライン学会ができるのではないかと、色々な可能性を感じました。ありがとうございました。
※	いくつかのシンポジウムやワークショップにおいて、時間が少なくなってしまうために、後半の演者の質疑応答の時間が、前半の演者に比べ極端に少なかったり、全く無かった発表もあった。ちょっと演者に対して失礼だと思いました。画面の時計では既に時間をオーバーしているのに、座長が気づいていないことがあったので、ベルを鳴らすなどの工夫が必要と
※	プログラムのブラウジング、ポスターのブラウジングなど、この予算内でもっと使いやすくていいと思います。
※	例年とは違い、急遽オンライン開催を余儀なくされていたと思うので、準備等に費用がかかってしょうがないと考えていたが、その上で例年よりも安く設定されていたので、より安いと感じた。
※	とにかくオンライン開催はありがたい。海外からの参加でもあるので、移動の時間を割かれずに講演やポスター発表を聞いたりできるのがよかった。この形式なら、日本からの発表でも、数多くの学生も積極的に参加できると思う。また、オンライン開催なので、ワークショップの数は増やしやすい。学生のみでの選抜のワークショップを開いて、発表の機会を設ける等、教育的観点のイベントももう少し実施してもいいと思う。この場合、外国人の学生を半分くらい招待して、外国での学会の雰囲気味わう等の企画ができると思う。Youtubeなどを使って、ビデオでのデモンストレーションや使い方の説明が用意してあるのもいいと思う。オンラインでの開催なので、外国人をもっと招聘していいのでは？特に外国の学生を招待すると、日本の学生さんの刺激になると思う。学生には、学会での賞をもう少し用意してもらって彼らのCVに書けることが多くなる。英語での発表には時間と労力が必要だが、上手にできた場合は、それらの賞を用意しておく、モチベーションにも
※	オンライン参加で参加費 5000 円は高いと感じた。
※	ちょうどよかった。
※	オンライン開催された他学会と比べても、MBSJ2020の年会参加費設定は十分に安く、旅費も不要なことから、今回初めてMBSJ年會に参加させていただきました。オンライン開催の取り組みは学会参加のハードルを下げ、学会の活性化に繋が
※	オンデマンドの視聴期間をもっと長く(1ヶ月くらい)にしてほしいです。海外の学会は大体どこも1ヶ月くらい視聴可能であるのに、今回、週末1回はさんでおらず、すべてを視聴することができません。平日は日常業務に追われているため、視聴する時間はなかなかとれないため、すくなくとも4週末(=1ヶ月)くらいあると勉強できるので助かります。
※	安いと感じるし、気軽に参加登録できると思う。
※	総会に関して、こちらは学会運営上の議題についての会と認識しているが、せっかくonlineでやっているのであれば、総会のみは年會に参加しない(できない)会員でもその時だけアクセスできるシステムにするのが良いと思う。そうすれば当日に会場に行けない人間も総会の議決に参加することができる場合もあり、議決に必要な参加人数も確保しやすくなると思
※	online中心になると、本会の意義は薄れるような気がする。
※	オンライン開催で参加費が安かった点、また現地に行かなくて済むため交通費・宿泊費もかからない点で、学生にとっては経済面でもとてもありがたい学会だったのではないかと思います。ID・パスワードを他人と共有しているというような噂は周りからちらほら聞こえてきましたので、どうやってそういう不正(?)を防ぐかは課題かなと思います。
※	ポスターについて、結局発表はスライド形式にする人が多いため、ポスターは提出しなくてもいいだろう。
※	年会費が安いのは、参加しやすくてよかったと思います。
※	今回の発表内容であれば、かなり安く感じた。日本におけるオンライン開催の値段設定的に安くならざるを得なくなるのも理解できるが、来年以降、例年通りの値段設定にしても十分納得できる内容だったと思う。
※	この年會の内容であれば安いと感じた。(学生としての意見です。)
※	学会でいろいろな人と気軽に質問したり、話したりすることが研究を広げるためには重要だと感じました。すべてオンラインは便利ですが、ひととのつながりを広げるのは難しい印象です。やはりオンサイトが必要だと思います。
※	今回は初めての試みにもかかわらず、他の学会と比べても、コピー防止機能など、よくできていたと思います。多少サイト、ネットの不安定性はありましたが、このシステムが次回以降も採用されるならば、会費はもっと安くできるのでは無いでしょうか。海外からの招聘も気楽にでき、参加自体も気楽にできるようになるのではと思います。
※	費用の外はオンラインツールのライセンス料などにお金がかかるのは理解できますが、どのくらいかかるのかは想像できないので、プラス数千円とかで格段によくなるならそれは惜しみません。
※	参加費は高いと感じましたが、運営に手間と時間がかかることを考えると妥当かなと思います。今後もずっとオンライン開催になる場合は、値下げを希望しますが、今回は良いと思います。
※	急遽決まったオンライン開催でこれほどの大きな会を成功させられたことに敬意を表します。
※	もう学会はオンラインの方が実験に支障が出なくて良い。参加費も安い。
※	全ての発表をPCで見るのができたので、見やすかった。オンサイト会場ではこうはいかない。セッションに興味が無かった場合、会場を歩いて移動する必要がない点は素晴らしい。そもそも、学会場へ向かう往復の移動が時間的にも費用的にも税金の無駄遣いであり、オンサイトで実施する必要は今後ないと思う。すべてオンラインで実施してほしい。
※	この参加費でこの内容なら、圧倒的に安い。
※	初めての試みでもあるので、収支を十分に精査していただき、今後の開催における基礎データとしてほしい。

質問18. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者番号	意見記述
※	このアンケートがすでに見辛い。この内容であれば参加費は高い。オンラインであっても交流の場を設けた方が良い。zoomのオーラルは基本的にどの人の発表も下手だったので、どうにかしたほうが良い。赤い点を動かすのは禁止、など。
※	この年会の内容であれば高い
※	学生事前会費1000円は低価格で、今回発表は予定していなかったが、参加しやすい価格であった。ポスター発表の検索ツールから、PDFのポスター閲覧へのジャンプが不便だと感じた。
※	オーガナイザーの努力・工夫は素晴らしかったと思います。ただ、オンライン学会というのはこの学会にはそぐわないと思いました。
※	All Fair and great experience. Thank you.
※	年会費、参加費を安くしてほしい。コストダウンは可能だと考える。
※	安い
※	今回はやむを得ないと思うが、もし最初からオンライン開催が決まっているならもう少し安くできるのでは？
※	大会運営委員会の皆様は本当にお疲れ様でした。このような困難な状況下で本当によく頑張ったと敬意を表します。ですが、視聴システムのトラブルや不完全さ、また通常のオンサイト開催のあの熱気の喪失などについては、オンライン開催は完全に失敗だったと言わざるを得ません。ただただ失望感でいっぱいです。
※	事務局の方は迅速に対応して下さい、大変良かったです。ありがとうございます。Spatial.chat(講演終了後に講演者と議論できるトークルーム)の際、発声が他の参加者に聞こえないトラブルがあり、使用しにくかったです。来年以降も同様のことを行うのでしたら、そのような問題が起きないように改善をお願いします。
※	海外からの参加をもっと増やせると感じました。
※	オンラインだと事前にポスターを提出できるので、学会ポスター賞を復活させても審査員はじっくりと評価できると思います
※	平日開催が多く、例年所属施設の行事で参加出来ないことが多い。今年度も結局期間内の閲覧が出来なかった。土日を軸とした開催を希望します。また開催期間も開催年によって変えて欲しい。固定していると今後もほぼ参加出来ない。ご検討のほどよろしく願います。
※	スピーカーが全員日本人で言語が英語というのは、疑問が残った
※	特になし
※	学部学生は無料でも良いのではないかと
※	ポスター発表の際、途中参加が多かった。そこで、今何人zoomに入っているかをみんながcheckできる環境下にしたほうが質疑応答がsmoothに行えるように感じた。
※	これだけ大規模な学会を全てオンラインに切り替えるご苦労はとても大変だったとお察します。ご苦労様でした。今回の試みで、オンライン・オンサイトそれぞれのメリット・デメリットが判ったように思います。個人的には、オンラインのメリットを差し引いても、オンサイトの方がいいような気がしております。しかし、今回のコロナ流行ではオンラインも致し方ないのかと思います。「これだけの大規模でもオンラインでできるのだ」ということが判ったのは良かったのかと思います。今回を踏まえて、今後の発展を楽しみにしております。よろしく願います。
※	こんな学会(年会)参加に5,000円も取られるなんてあり得ない。これが、今後の学会のあり方であれば、学会発表をする意味を感じない。論文発表で十分である。
※	この年会の内容であれば高い
※	ちょうど良いと思います。
※	初めての試みとしては良かったと思う。ただ、大学にいるとなかなか参加が難しく、あまり活用できなかった。
※	最終日の年会長企画フォーラムがよかったでした。
※	年会を参加し、発表して本当によかったと思っています。参加費ならちょうどいいくらいだと思います。大会長や運営の皆様どうもお疲れ様でした！いい年会ありがとうございました！来年も参加します！
※	プログラムが分かりにくく、試聴したい内容を探すのに苦労した
※	状況の大きな変化に対応していただいた組織委員の皆様には感謝します。人が集まることの意味を思い出させてくれた年会でしたが、これが現代の研究会なのかなと諦めてもいます。経験を重ねることでオンライン開催にも工夫が出てきて、より良い集まりになっていくことを期待しています。
※	特に高いと思わなかった。オンラインはITツールなどの整備・サポートに予算がかかるので、そういったところにお金を使って貰えたら良い。
※	思った以上に快適に学会に参加できた。開催地に行かないで済むので、その分の経費や時間が短縮できて助かった。また、オンデマンド配信等もあり、見逃したのもう一度聞きたかった情報等を収集できたので、大変満足している。何より、毎年会場が広くて移動が大変なので、オンラインはとても魅力的であった。学生の参加費が安く抑えられた点もとてもよく、自分が学生の時にこういったものがあればよかったと思ったくらいである。ホームページ等の検索機能がもう少し使いやすさや、演者へのコメント機能から思わぬ交流があり、これはオンライン開催のメリットであったと思いました。前例のない状況の中、大会開催に尽力していただいた皆様には心より感謝申し上げます。
※	オンライン開催のメリットや可能性を感じることができました。時差の問題が残るにしても、海外の研究者も参加しやすいと思います。海外の学会がオンライン開催なら、気軽に参加できそうだと思います。ポスターは、オンサイトだと周囲が賑やかで声が聞こえないことも多々ありますが、オンラインだと聞きやすいため、メリットの方が大きいと思いました。
※	ポスターの場で懐かしい顔を見かけても、いつものように声を交えて、ポスターを離れて近況を交流したり、雑談する、ということもできないのも残念でした。ひょっとしたら、今回でも参加者を特定してチャットできたのかもかもしれませんが、それができるなら、場所(zoom)を変えたり、あとで話す約束ができたり、が可能なのに、、、と感じています。
※	発表しない大学院生は、会員でなくても安くなる仕組みがあれば、とりあえず学会に参加してみることができるようになると思います。特にオンラインの場合は移動がない分参加しやすいため。
※	学生会員事前1000円で参加したが、安めでありがたいと感じた。
※	こういった状況になってしまい、突然のオンライン開催ということで、大変なご苦労があったのではないかと想像します。しっかり学会を開催してくださった運営やスタッフのみなさまには大変感謝しております。ありがとうございました。
※	オンラインのみで、今回の参加費の設定は適切であったと思う。
※	特にございません。
※	オンラインはずばらしかったです。今後も是非オンラインで。
※	会費は適切な価格だと思う。

質問18. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者 番号	意見記述
※	オンサイトの場合、会場が広く、シンポジウム・ワークショップの会場を回るだけで、疲れていた。オンラインの場合、見たい発表をクリック一つでアクセスできるので、その点は便利。また見たい発表の時間帯が重なった場合も、オンデマンド視聴が可能であれば、発表を見逃す可能性が低く、嬉しい。加えて、オンサイトの場合、オーディエンスが多いと発表スライドが見え辛いことがあるが、オンラインの場合は、そのようなことがなく、スライドを近くでクリアに見ることができる。一方、職場でオンライン参加することが多いので、学会に関する事以外の仕事にも対応してしまい、あまり集中してシンポジウムや
※	適切な参加費であると感じた。
※	参加費についてですが、オンライン学会に必要な経費の見当がつかないので、高いか安いかはよくわかりません。初めてのことで、詳細な会計報告をやっていただければ、今後オンライン学会を主宰する方々の参考になって良いのではないのでしょうか。今回はオンライン学会でしたが、発表のパワポもいつもより見やすく発表がよくわかりました。予想以上に楽しむことができました。年会長をはじめ主催者の先生方に心より感謝いたします。ありがとうございました。
※	上村先生はじめ、オンライン年会の開催に工夫を凝らしていただき、ありがとうございました。オンライン年会は地方在住・子持ち研究者には大変有難いです。オンラインでなければ参加しない可能性もあります。今回は出張費がかからずに済んだので、この値段で参加できたのは安いと感じました。一方で、ポスターセッション等オンサイトならではの議論・交流の場も重要だと感じます。今後、ハイブリッド開催を検討していただけると有り難です。
※	オンラインでしたが、研究仲間とも交流でき、楽しい学会でした。どうもありがとうございました。
※	オンライン学会は、低コストで気軽に参加できるのが良い。
※	もう少し安価にしてくださいを希望します(正会員で3000-4000円など)。その範囲でのオンライン開催で問題ないと思
※	今回の参加費はリーズナブルと思いました
※	学部学生は無料とし、学会入会を強制するべきではない。
※	正会員の年会費は適切であると感じている。一方で、学生会員は、もう少し安くても良いと思う。